

富山大学  
国際交流  
センター

# 紀要

第4号  
2017年12月

## 目次

### I 論文

- テキスト批評における評価活動の分析 ..... 田中 信之 1
- 〈研究ノート〉  
学部留学生がコメントシートを作成する際の  
日本語の語彙・文法上の困難点 ..... 濱田 美和 13
- 〈実践・調査報告〉  
日本人学生の「日本語」の学びと日本語再発見  
— グローバルマインド形成への1つのアプローチとして —  
..... 副島 健治 21

### II 年報（2016年4月～2017年3月）

- 1 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告 ..... 31
- 2 日本語プログラム ..... 38
- 日本語研修コース ..... 39
- 日本語課外補講 ..... 40
- 総合日本語コース ..... 61
- 日韓共同理工系学部留学生プログラム ..... 68
- 日本語学習サイト RAICHO ..... 70
- 3 国際交流センター関連行事 ..... 71
- 4 国際交流センター教員等担当業務 ..... 74

### III 資料 ..... 77



富山大学国際交流センター

# 紀要

第4号

2017年12月





I

論文



# テキスト批評における評価活動の分析

田中 信之

## Analysis of Reflection Activities in Academic Writing Class for Learners of Japanese

TANAKA Nobuyuki

### 要 旨

本研究はアカデミック・ライティング活動であるテキスト批評において学習者の主体性や自律性、協働性の育成をめざした評価活動を試みた。この評価活動とはルーブリックによる記述式内省活動と対話的推敲活動を組み合わせたものである。研究目的は学習過程の中に埋め込まれた評価活動における学習者の認識のプロセスを探ることである。学期末に学習者にインタビューを行い、M-GTAを用いて分析した。結果、学習者の認識のプロセスには《不足部分の気づき》《評価項目の意識化》から《実行できる》という方向へ進むことがわかった。また、5つの機関の学習者の認識プロセスを分析した原田他（2017）と比較すると、本研究には《自己内対話》《学びの実感》が存在しない点が大きく異なる。学習者の内省記述量の少なさからみると、《自己内対話》が不十分であったため、《実行できる》より自律的・発展的な《学びの実感》が持てなかったと推察できる。

【キーワード】 テキスト批評, 評価活動, 協働的推敲活動, ルーブリックによる記述式内省活動, 学習者の認識プロセス

### 1 研究目的

本研究は原田・浅津・田中・中尾・福岡（2017）に続く研究である。原田他（2017）では5つの教育機関<sup>1)</sup>のアカデミック・ライティングにおいて、学習者の主体性や自律性、協働性の育成をめざした評価活動を試みた。この評価活動とは、成績づけを意味する「評定」ではなく、学習者が自分自身や学習活動全体をふり返る活動であり、ルーブリックによる記述式内省活動と対話的推敲活動(後述する)を組み合わせたものである。研究目的は学習過程の中に埋め込まれた評価活動における学習者の認識のプロセスを探ることであった。クラス活動終了時に各々の機関の学習者に半構造化インタビューを行い、M-GTAを応用して分析した。その結果、評価活動を通して学習過程には「知る」⇒「理解する」⇒「実行できる」という段階があることが示唆され、学習過程のステージや学習者による違いが浮き彫りになった。

本研究では、5機関の中の1つの教育機関に焦点を当て学習者の認識のプロセスを分析することを目的とする。さらに、原田他（2017）の研究結果をもとに5機関に共通した学習者の認識プロセスとの比較を通して、分析を行いたい。

### 2 研究方法

#### 2.1 対象科目と学習者

対象科目は富山大学で教養教育科目として開講される、留学生向けの「日本語 A1」である。2016年前期（4月～9月）に開講された授業である。学習者は学部留学生1年生5名である（男性：Sさん、Zさん、Mさん、女性：Lさん、Gさん）。全員が中国語母語話者で、学部は人文学部3名、経済学部1名、人間発達科学部1名であった。

## 2.2 5つの教育機関の共通した学習目標

本実践は5つの教育機関に在籍する教師の共同研究のうちの一実践である。共同研究を行うにあたり、アカデミック・ライティングにおける共通した学習目標を設定した。まず、5機関の教師がそれまでのライティング指導におけるビリーフに基づいて、具体的なイメージを表すキーワードを出し合った。それらをKJ法で分類したところ、5つにまとめることができた。5つの学習目標は、(1)論理的な文章を作成するための観点として、アカデミック・ライティングの知識・技能が身についたか自身で確認できる、(2)読み手意識を持って文章が書ける、(3)批判的に思考する力を身につける、(4)協働的推敲活動によって対話力を身につける、(5)学習過程をふり返り問題点を解決しようとする態度を身につける、である。これらの学習目標は、本共同研究の理論的背景となる、佐藤(1995)の対話の三軸構造と、OECDのDeCeCoプロジェクトのキー・コンピテンシー(ライチェン&サルガニク2006)に対応するものである(詳細は原田2017, 原田他2017を参照のこと)。

## 2.3 実践内容

### 2.3.1 テキスト批評

以上の共通した学習目標のもと、本実践では「テキスト批評」を取り入れた授業を行った。テキスト批評(河野2002)とはテキストを要約し、それに対する問題提起を行い、議論を展開させ、自分の主張を論理的に述べる活動である。河野(2002)はテキストを批判的に検討する能力を養うと同時に、テーマが自由なレポートや論文を書くためのよい準備や練習になると述べている。また、テキスト批評で一番重要なのは「問題提起」であり、批評全体の成否はここで決まってくるとしている。この問題提起は、必ずしも著者の主張に反論する必要はなく、最終的に主張に賛成であってもよい。ただし、その場合、自分なりの批判的検討を経て賛成・是認しなければならないとしている。さらに、河野(2016:104)では「オリジナリティのあるレポートを書いて、自分の創造性を育成してもらうには、何よりもレポートの問いを自分で立ててもらうことが大切」とし、「問いは、その学生本人の関心や興味に根ざしたものであるべきです。」と述べている。このようなテキスト批評は5機関の共通した学習目標の(1)と(3)に対応している。

なお、テキスト批評の文章構成は(1)目的の提示(2)要約(3)問題の提起(4)議論(5)まとめ、である。

### 2.3.2 評価活動

本実践ではテキスト批評に評価活動を導入した。上述したとおり、「評価活動」とは、成績づけを意味する「評定」ではなく、学習者が自分自身や学習活動全体をふり返る活動であり、「対話的推敲活動」と「ルーブリックを用いた記述式内省活動」を組み合わせたものである。「対話的推敲活動」と「ルーブリックを用いた記述式内省活動」に分けて説明する。

#### 2.3.2.1 対話的推敲活動

対話的推敲活動には、対面・同期による推敲活動(いわゆる、ピア・レスポンス)と、コンピュータを利用した非対面・非同期の推敲活動(浅津・田中・中尾2012, 田中2015)がある。非対面・非同期の推敲活動は、富山大学の学習管理システムMoodleを使用し、フォーラム上に修正原稿をアップロードし、学習者は原稿に対してコメントを述べ合った。これらの活動は5機関共通の学習目標のすべてにかかわるが、対面・同期による推敲活動は、特に「(4)対話力を身につけること」を目標とした。非対面・非同期の推敲活動は、教室外で自由な時間に推敲およびMoodle上で対話するという性質から、特に「(5)学習に対する態度」において、教室外でも自律的に活動が進められることを目標とした。



### 2.3.2.2 ルーブリックを用いた記述式内省活動

上述した学習目標を学習者が振り返るにはルーブリックが有効とされている。学習者が書いたもの、いわゆる「成果物」だけではなく、佐藤(1995)の対話の三軸構造と、OECDのDeCeCoプロジェクトのキー・コンピテンシー(ライチェン&サルガニク2006)に相当する「対話力」「批判的思考力」「自律的に学ぶ力」も評価対象としなければならないためである。そこで、5機関の学習目標を対応したルーブリックの枠組みを作成した。枠組みは大きく「論理的文章—形式」「論理的文章—内容・構成」「読み手意識と批判的思考力」「対話力」「学習態度」の5つで、それぞれの下位項目として規準を設けた。

ルーブリックは原田(2017)の内省型ルーブリックを基礎とした。一般的なルーブリックとは、「成功の度合いを示す数レベルの尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を説明する記述語からなる評価基準表」(西岡・石井・田中2015)である。しかし、学習者がルーブリックをもとに評価活動を行う場合、達成度を機械的に確認する作業となる可能性がある。また、黒上(2014)は「ルーブリックの硬直化」を問題点として指摘しているが、記述語による評価活動は学習者の振り返りの範囲を狭めてしまうおそれがある。

そこで、学習者の内省を促すために、ルーブリックにおけるマトリックスの記述欄を空欄にして、学習者の内省を自身の言葉で自由に書き込めるようにした。稿末の資料は本実践におけるルーブリックである。これにより、記載された一語一語へのチェックに終始するのではなく、規準に照らし合わせて自身の内省を浮かび上がらせる評価活動が可能となると考えた。また、ルーブリックには、その達成度を考えるためにレベル(基準)を設定した。それは80%以上達成、60%以上達成、60%未満と表記し、3段階のレベルからなる。また、レベル(基準)に点数は付けないことにした。これは、評価活動は学習者が自分自身や学習活動全体を振り返ることを目的としており、成績づけを意味する「評定」には直接関係がないためである。学習者がこの活動を評定のためと誤解したり、点数に固執したりしないようにした。

ルーブリックの具体的な使用法について説明する。学習者は表の左側の欄の規準(項目)の達成度(80%以上、60%以上、60%未満)を右欄で選択し、その空欄に内省を記述する。その際、自分の活動を思い出して、特に印象に残ったもの(達成できたもの、できなかったものなど)に関して、その具体例や理由と、その改善に向けての取り組み方法などを書く。すべての規準について内省を書く必要はない。

本研究では、このようなルーブリックを用いて内省を促す活動を「記述式内省活動」と呼ぶ。5機関で共通するメタルーブリック(松下2012)を作成したあと、本実践に合わせて規準をローカライズさせた。遠海・岸・久保田(2012)は、実践の分析結果から「ルーブリックの内容を学生自身が作成することで、学生は学習活動における目標を強く意識して課題を進めるとともに、目標と自分の学習成果との関連について省察を行っており、学生の自律的な学習態度を培う一助となった」と述べている。これをもとに、本研究では、第1回目のテキスト批評が終了し、学習者が学習目標やテキスト批評の活動内容が理解できた段階で、学習者がルーブリックの規準を考案した。学習者一人一人がクラス活動全体を通して重要だと考えたことを付箋に書き出し、KJ法でまとめた。それらをメタルーブリックに追加した。

## 2.4 「日本語A1」スケジュールとテキスト批評の流れ

テキスト批評を実施する前に、段落作成の練習、文章構造の理解、要約練習を行った。その後、テキスト批評の準備段階として、問いを立てる練習をした。テキスト批評は全4回で、それぞれ1,200字程度の文章を執筆した。

テキスト批評の流れは、(1)テキストを読み、要約、問いとアウトラインを作成する、(2)学習者同士<sup>2)</sup>で要約、問いとアウトラインの確認を行う、(3)確認したことをもとに、原稿を作成する、(4)対

話的推敲活動①（対面・同期）を行う，(5) 対話的推敲活動②（非対面・非同期）を行う，(6) 推敲過程を共有する，(7) 教師フィードバックを行う，(8) 原稿を完成させる，(9) 記述式内省活動を行う（全2回），である。推敲過程共有では，Moodle上の議論を確認する<sup>3)</sup>とともに，なぜ，どのように推敲を行ったか，あるいは推敲しなかったかを説明してもらい（推敲プロセスの可視化），全員で共有した。記述式内省活動は2回目と4回目のテキスト批評終了後に実施した。第1回記述式内省活動はループリックに記述した内省を発表し，他の学習者と共有した。本研究では，以上の(1)～(9)までの流れをテキスト批評と呼ぶ。以下の図1はテキスト批評の流れである。

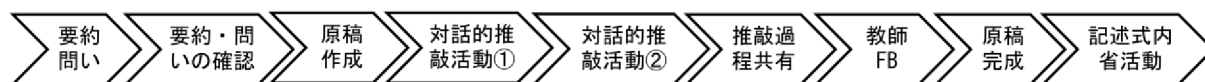


図1 テキストの批評の流れ

テキスト批評に用いるテキストは経済誌『日経ビジネス』のコラムを採用した。これは，主張がはっきりしており，反駁しやすい内容であり，文章量としても適当だと判断したためである。教養教育科目の「日本語」という性質と，文系の3つの学部に所属する学習者ということから，内容が専門的すぎないことも採用した理由の一つである。表1はテキスト批評で用いたテキストの内容である。

また，表2は「日本語 A1」の全体のスケジュールである。授業内と授業外の活動を分けて，記載した。

表1 テキストの内容

	テキストの出典	コラム名と主張，執筆者
問い作成練習のためのテキスト	日経ビジネス 2014.11.17	異説異論「規制緩和は経済成長を阻害 自由化に批判の目を向けよう」(城南信用金庫理事長 吉原毅)
テキスト1	日経ビジネス 2014.07.28	賢人の警鐘「人は競争を通して己を知る。結果の差をつけないことは真の優しさではない」(富士フイルムホールディングス会長・CEO 古森重隆)
テキスト2	日経ビジネス 2015.07.13	賢人の警鐘「楽しい社員旅行が日本の経済を潤す。楽しくないのはやり方がわるいからだ」(伊那食品工業会長 塚越寛)
テキスト3	日経ビジネス 2016.02.29	有訓無訓「地域産業の新興でも目線は『外へ』『世界へ』内向きでは成功できない」(前福岡県知事 麻生渡)
テキスト4	日経ビジネス 2014.04.21	賢人の警鐘「新卒が3年で辞めて当然。そう受け止められなければこの国に将来はない」(ライフネット生命保険 CEO 出口治明)

表2 「日本語A1」の全体スケジュール

	授業内の活動	授業外の活動
第1回	授業ガイダンス, テキスト批評とは, Moodle の使い方, 段落作成練習	
第2回	文章構造の理解, 要約練習	
第3回	テキスト批評練習 テキストを読み, 問いを立てる練習	事前課題: テキスト1を読み, 要約, 問いの作成
第4回	テキスト批評1: 要約, 問いとアウトラインの確認	事後課題: 話し合いをもとに, 原稿作成
第5回	テキスト批評1: 対話的推敲活動① (対面・同期)	事後課題: 対話的推敲活動② (非対面・非同期)
第6回	テキスト批評1: 推敲過程の共有 教師フィードバック, 学習者による規準の作成	事前課題: テキスト2を読み, 要約, 問いの作成
第7回	テキスト批評2: 要約, 問いとアウトラインの確認	事前課題: 話し合いをもとに, 原稿作成
第8回	テキスト批評2: 協働的推敲活動① (対面・同期)	事後課題: 対話的推敲活動② (非対面・非同期)
第9回	テキスト批評2: 推敲過程の共有	
第10回	テキスト評価2: 教師フィードバック 第1回記述式内省活動	事前課題: テキスト3を読み, 要約, 問いの作成
第11回	テキスト批評3: 要約, 問いとアウトラインの確認	事後課題: 話し合いをもとに, 原稿作成
第12回	テキスト批評3: 協働的推敲活動① (対面・同期)	事後課題: 対話的推敲活動② (非対面・非同期)
第13回	テキスト批評3: 推敲過程の共有 教師フィードバック	事前課題: テキスト4を読み, 原稿作成
第14回	テキスト批評4: 協働的推敲活動① (対面・同期)	事後課題: 対話的推敲活動② (非対面・非同期)
第15回	テキスト批評4: 教師フィードバック 第2回記述式内省活動 前期授業のまとめ	

## 2.5 データの収集と分析方法

学期末, 学習者5名を対象に10~15分の半構造化インタビューを行った。学習者にインタビュー内容を研究目的で使用したいとの説明を行い, 事前に許可を得て録音した。質問項目は(1)自己評価を行って変わったこと, (2)ループリックの有効性について考えたことの2つであった。学習者には学習者自身が内省を記述したループリックを見ながら答えてもらった。

インタビュー内容はすべて文字化し, 木下(2003)を参考にM-GTAで分析した。M-GTAは人間と人間が直接的にやり取りをする社会的相互作用を分析するもので, 研究対象とする現象にプロセスがある場合の研究に適するとされる(木下2003)。本研究はインタビューから得た学習者の認識のプロセスを探ることを目的としており, その分析にM-GTAは適当だと考えた。

### 3 結果と考察

#### 3.1 本実践における学習者の認識プロセスの変化

概念とカテゴリーからなるプロセスは以下の図2とおりでである。各プロセスについて述べる。

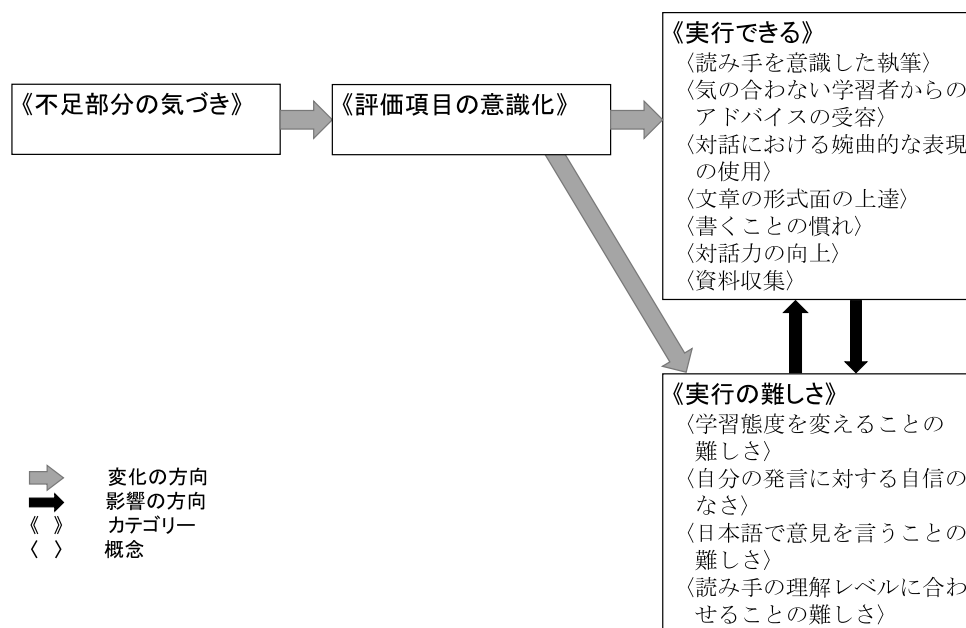


図2 評価活動における学習者認識の変化のプロセス

評価活動において、まず、「自分がどこが足りないかとか分かりました」のように《不足部分の気づき》が得られる。次に、「問題提起とその後の資料のことは毎回論文を書くとき思い出した」のように、行動に移す際に《評価項目の意識化》ができるようになる。そして、この《評価項目の意識化》をもとに《実行できる》に進んでいく。《実行できる》は7つの概念からなるが、「気の合わない学習者からのアドバイスの受容」と「対話における婉曲的な表現の使用」に注目したい。

Lさんは評価活動において《実行できる》に至ったプロセスを次のように述べた。

そのときは私、心からは、アドバイス、そして特別、Sさんのアドバイスあんまり聞きたくないです。その仕方と態度はとても私に対しては平等ではない感じがある。そして、Sさんは（私のアドバイスは）価値がないと言ったから。とても嫌だと思う。だから、そのときSさんのアドバイスは全然聞きたくない。しかしこれ（ルーブリック）を見て、たぶんSさんのその人に対しては、たぶん私ちょっと嫌な感じがあるが、しかし仲間として彼のアドバイスは聞くのは、私は彼に対しての態度は、これは2つのことだと思うから。アドバイスは重要だと思う。そして、彼のアドバイスもちゃんと聞いた。（ ）の部分は筆者が加筆

それに対して、Sさんも《実行できる》に至った原因を次のように述べた。

他の学生（Lさん）は何か課題は私が理解できないところに質問するとき、時々強く反論されましたということ。だから、私はもっと婉曲にしたいです。（ ）の部分は筆者が加筆

資料のルーブリックの規準にある、「アドバイスをするとき、婉曲的な表現をする」「コメントを受け入れる姿勢を持つ」の2つは学習者が考案したものである。この規準をもとに、LさんとSさんは内省を行ったことがうかがえる。このことは、遠海・岸・久保田（2012）の「ルーブリックの内容を学

生自身が作成することで、学生は学習活動における目標を強く意識して課題を進める」との指摘に合致しており、学習者が規準作りに加わることの重要性を示すものと言えよう。

一方で、《評価項目の意識化》が《実行できる》に進まず、《実行の難しさ》に至る場合もあった。この中で〈学習態度を変えることの難しさ〉に注目したい。この学習態度はループリックの規準の「期限を守る」を指し、ZさんとSさんは自分が原因だと結論付けている。Zさんは「変わりたいですけど、変わらないです。この問題の原因は私自身のことです。いつも締め切りの前、締め切りの日って朝作文を書きます。」と述べている。一方、Sさんは「自己評価をするときは、これからは変わりたいと思いますが、すぐに忘れちゃう」と述べ、その原因を「自己管理ができないかもしれません。」と分析している。つまり、これらのことはループリックをただ用いるだけでは、容易に学習態度は変わらないことを示している。

この点について、石井（2015）は「子ども自身が自らのパフォーマンスの善し悪しを判断していけるようにするには、授業後の振り返りや感想カード等により学習の意味を事後的に確認、納得、発見するのは不十分です。学習の過程において、目標・評価基準、および、それに照らした評価情報を、教師と学習者間で共有すること、それにより目標と自分の学習状況とのギャップを自覚し、それを埋めるための改善の手立てを学習者自らが考えるのを促すことが必要となります。」と述べている。すなわち、ただ内省活動を行うのではなく、教師と学習者、あるいは学習者間でその内省を共有し、改善の手立てまで自ら考えるようにならなければならないということである。

その他にも、学習者は「もし自分が間違いなら恥ずかしい」のような〈自分の発言に対する自信のなさ〉、「難しいです。日本語で説明すると、ちょっと面倒くさいな感じがあります」のような〈日本語で意見を言うことの難しさ〉、「この自分が書いた文章を理解するための常識とかは、僕はみんな知っていると思込んでいますが」のような〈読み手の理解レベルに合わせることの難しさ〉を感じていた。また、《実行できる》と《実行の難しさ》との間には、〈読み手を意識した執筆〉と〈読み手の理解レベルに合わせることの難しさ〉のように相互に影響を与えているケースも見られた。

これらの《実行できる》と《実行の難しさ》をDeCeCoのキー・コンピテンシー（ライチェン&サルガニク2006）からみると、本実践の学習者は「相互作用的に道具を用いる」「異質な集団で交流する」よりも「自律的に活動する」ことに難しさを感じていることがわかる。5つの学習目標からみると、「(1) 論理的な文章を作成するための観点として、アカデミック・ライティングの知識・技能が身についたか自身で確認できること」は比較的実行しやすく、「(5) 学習過程をふり返り問題点を解決しようとする態度を身につけること」に困難を感じる傾向があることが示唆される。

### 3.2 原田他（2017）との比較分析

次に、原田他（2017）の結果と比較を行う。

原田他（2017）では、5機関における評価活動に対する学習者の認識の変化のプロセスをM-GTAの手法を応用して、一つの結果図のまとめた（図3）。そのストーリーラインを以下に示す。

評価活動を通して学習過程には《知る》⇒《理解する》⇒《実行できる》という認識の段階があることが示唆された。《知る》とは評価活動導入直後に抱いた認識で、最も表層に表れたイメージである。《理解する》とは評価活動初期に芽生えた認識、《実行できる》とは評価活動の習慣化や循環化の中で個々の学習者が得た実感である。これらのプロセスを通して、学習者は自身の成果物や学習態度に対して《学びの実感》を持つようになっていった。しかしながら、《理解する》に対して《理解の難しさ》、《実行できる》に対して《実行の難しさ》を認識する学習者も存在する。また、《理解する》から《実行できる》に円滑に進むには、評価活動の循環化などの《自己内対話》が繰り返される必要がある。

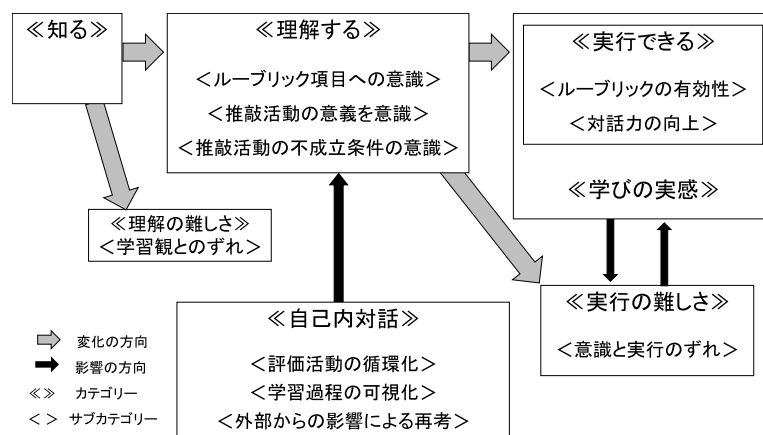


図3 評価活動における5機能共通の認識の変化のプロセス

本研究の《不足部分の気づき》から《評価項目の意識化》、《実行できる》への学習者の認識が変化は《知る》から《理解する》、《実行できる》というプロセスとおおむね一致するものである。

一方で、異なる部分も見られる。本実践では《知る》の段階が現れなかった。そのため、《理解の難しさ》も現れなかった。本実践の《不足部分の気づき》と《評価項目の意識化》の二つの段階が共通の結果図の《理解する》に相当する。これは「気づく」があってこそ「意識化」されるもので、両者は必ずしも一致しないと捉えたためである。

また、原田他（2017）では、内省を記述することの意義や面白さがわからない、あるいは、活動へのレディネスができていないなどの<推敲活動の不成立条件>というハードルを越えるために、《自己内対話》を習慣化させていく必要があったと述べている。一方、本実践には《自己内対話》は現れなかった。このことにより本実践の学習者が《自己内対話》を行っていないと判断できないが、ループリックへの記述が全体的に少なかったことから、《自己内対話》が活性化されていなかった可能性がある。例えば、極端に内省の記述量が少なかったMさんは「自己評価というものは常に自分でしています」と述べており、記述式内省活動の必要性を感じていないことがうかがえた。学習者全体を見ると、内省は行われたものの、表層的なレベルにとどまり、キー・コンピテンシー（ライチェン&サルガニク2006）の核心にある省察性<sup>4)</sup> (reflectiveness) のように深くふり返ることはなかったと推察できる。

さらに、共通の結果図では《学びの実感》が見られたが、本実践には現れなかった。《学びの実感》は「他のレポートへの応用」や「学外での自律的活動や自己評価」といった今回の実践からの発展段階にある。3.1で述べたように、本研究の学習者は特に自律的な活動において《実行の難しさ》を感じており、発展的、応用的に活動を上げ、《学びの実感》に至るまで学びが深まらなかったと推察できる。田中（2015）では、非対面・非同期の対話的協働活動<sup>5)</sup>を行うには、学習者の自律性と動機づけを高める学習環境をデザインする必要があることを指摘されている。今回の実践ではループリックを用いて内省を促したが、自律性を高めるまでには至らなかったと言えよう。

#### 4 まとめと今後の課題

本研究は原田・浅津・田中・中尾・福岡（2017）に続く研究である。アカデミック・ライティング活動の一つ、テキスト批評において学習者の主体性や自律性、協働性の育成をめざした評価活動を試みた。この評価活動とはループリックによる記述式内省活動と対話的推敲活動を組み合わせたものである。研究目的は学習過程の中に埋め込まれた評価活動における学習者の認識のプロセスを探ることであった。学期末に学習者に半構造化インタビューを行い、M-GTAを用いて分析した。その結果、学習者の認識のプロセスには《不足部分の気づき》《評価項目の意識化》から《実行できる》という方向へ進むことがわかった。これは原田他（2017）の共通した学習者の認識プロセスとおおむね一致するものである。

その一方で《実行できる》に進まず、《実行の難しさ》を感じる学習者もいた。特に、〈学習態度を変えることの難しさ〉のように、ただ内省活動をするだけでは、容易に学習者態度が変わらないこともうかがえた。また、5つの教育機関の学習者の認識のプロセスを分析した原田他（2017）と比較したところ、本研究には《自己内対話》《学びの実感》が存在しない点が大きく異なる。学習者の内省記述量が少なかったことからみると、《自己内対話》が十分に行われていなかった可能性がある。そのため、《実行できる》より自律的・発展的な《学びの実感》が持てなかったと推察できる。

今後の課題は自己内対話について、今回、どうして起こらなかったか、また、どうすれば起こるのかを分析していくことである。また、教師が学習者の内省にどのようにかかわっていくかという課題もある。これらのことを考えていくことが学習者の自律的・発展的な《学びの実感》につながっていくと言えるだろう。さらに、ルーブリックを用いた記述式内省活動では、学習者自身が達成度を測るため、妥当な判断ができていない可能性がある。記述語がないルーブリックの短所とも言えるが、この点について教師がどのようにフィードバックを行うかを検討しなければならない。

### 謝辞

本研究はJSPS 科研費（基盤研究（C）JP15K02638）の助成を受けたものです。

### 注

- 1) 5つの教育機関は、大妻女子大学、同志社大学、富山大学、三重大学、流通科学大学（五十音順）である。
- 2) 学習者5人全員で確認作業を行った。3人と2人のグループ編成をして確認することも考えられたが、学習者の日本語能力や性格などから話し合いが活発にならない可能性があったので、全員で行うこととした。後の対話的推敲活動も5人全員で行った。
- 3) 教師がMoodleに書き込まれたコメントを一覧表にし、学習者に配布した。
- 4) ライチェン&サルガニク（2006）では、reflectivenessは「思慮深さ」（反省性）と訳されているが、本研究では「省察性」とする。
- 5) 田中（2015）では、コンピュータを媒介したピア・レスポンス（Computer Mediated Peer Response, CMPR）と呼んでいる。

### 参考文献

- (1) 浅津嘉之・田中信之・中尾桂子（2012）「学習者の意識分析から考える日本語作文授業における非対面ピア・レスポンスの可能性」『応用言語研究論集』5, 60-71.
- (2) 石井英真（2015）『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』日本標準
- (3) 河野哲也（2002）『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応大学出版会
- (4) 河野哲也（2016）「学生が自分で問いを立てるための授業デザイン」成瀬尚志（編）『学生を思考にいざなうレポート課題』第5章、ひつじ書房、101-126.
- (5) 木下康仁（2003）『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い』弘文堂
- (6) ギップス、キャロライン V.（2001）『新しい評価を求めて—テスト教育の終焉』鈴木秀幸（訳）、論創社
- (7) 黒上晴夫（2014）「新しい学習を評価するツール—ルーブリッカー—」岩崎千晶編著『大学生の学びを育む学習環境のデザイン—新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニングへの挑戦—』第4章、関西大学出版部、87-108.
- (8) 佐藤学（1995）「学びの対話的実践へ」佐伯胖・藤田英典・佐藤学（編）『学びへの誘い』第2章、東京大学出版会、49-91.
- (9) 田中信之（2015）「コンピュータを媒介したピア・レスポンスの実践と評価—対面による活動との比較を通して—」『小出記念日本語教育研究会論文集』23, 19-31.
- (10) 寺嶋浩介・林朋美（2006）「ルーブリックの構築により自己評価を促す問題解決学習の開発」『京都大学高等教育研究』第12号、63-71.

- (11) 遠海友紀・岸磨貴子・久保田賢一 (2012) 「初年次教育における自律的な学習を促すルーブリックの活用」『日本教育工学会論文誌』36, 209-212.
- (12) 西岡加名恵・石井英真・田中耕治 (編) (2015) 『新しい教育評価入門一人を育てる評価のために』有斐閣
- (13) 原田三千代 (2017) 「内省型ルーブリックによる対話的評価活動の分析」『三重大学教育学部研究紀要』第68巻, 317-332.
- (14) 原田三千代・浅津嘉之・田中信之・中尾桂子・福岡寿美子 (2017) 「ルーブリックを用いた記述式内省活動の分析—大学・留学生教育機関のアカデミック・ライティングでの試み—」『2017年度日本語教育学会春季大会予稿集』, 142-147.
- (15) 松下佳代 (2012) 「パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて—」『京都大学高等教育研究』第18号, 75-114.
- (16) 松下佳代・石井英真 (編) (2016) 『アクティブラーニングの評価』東信堂
- (17) 山田嘉徳・森朋子・毛利美穂・岩崎千晶・田中俊也 (2015) 「学びに活用するルーブリックの評価に関する方法論の検討」『関西大学高等教育研究』第6号, 21-30.
- (18) ライチェン, ドミニクS. サルガニク, ローラH (編) (2006) 『キー・コンピテンシー 国際標準の学力をめざして』(立田慶裕監訳) 明石書店



## 資料 テキスト批評におけるルーブリック

表の左側の欄の規準(項目)の達成度(80%～、60%～、～60%)を右欄で選択し、その空欄に内省を記述する。その際、自分の活動を思い出して、特に印象に残ったもの(達成できたもの、できなかったものなど)に関して、その具体例や理由と、その改善に向けての取り組み方法などを書いてください。

	80%以上達成	60%以上達成	60%未満
<b>1. 論理的な文章</b>			
<b>1-1 形式</b>			
・正しい文字・表記で書く			
・適切に語彙・表現を使う			
・正しい文法で書く			
・文体を統一する			
・引用を適切に行う			
・適切な分量(字数)で書く			
<b>1-2 内容・構成</b>			
・簡潔に要約する			
・問題提起ができる			
・問題提起と結論を一致させる			
・根拠(具体例など)を示す			
・自分の考えを書く			
・適切に論述展開をする			
<b>2. 読み手意識と批判的思考力</b>			
・読み手意識を持って、書く			
・テキスト・資料を批判的に読む			
・自分や仲間の文章を分析的に読む			
・仲間からのコメントの批判的に検討する			
<b>3. 対話力</b>			
・対等に話し合う			
・仲間に自分の思ったことを伝える			
・積極的に意見を言う			
・仲間の文章に指摘・批評をする			
・アドバイスするとき、婉曲的な表現をする			
・仲間に貢献する			
・コメントを受け入れる姿勢を持つ			
・仲間からの疑問・質問に答える			
<b>4. 学習に対する態度</b>			
・資料収集や読書などをして、背景知識を持つ			
・学習過程をつねに振り返る、次回の目標設定をする			
・活動に積極的に取り組む			
・教室外でも自律的に活動を進める			
・期限を守る			



# 学部留学生在がコメントシートを作成する際の 日本語の語彙・文法上の困難点

濱田 美和

## International Undergraduate Student Difficulties with Japanese Vocabulary and Grammar in Written Lecture Reflections

HAMADA Miwa

### 要 旨

日本の大学の授業では、講義に対する意見、感想、質問等を書くコメントシートがよく用いられるが、一定の日本語力を有する留学生でもコメントシートを書くときに様々な日本語の誤りが見られる。留学生がコメントシートを書く際に日本語の語彙・文法上のような困難点があるかを把握するため、中上級レベルの日本語力を有する留学生が書いたコメントシート262件から抽出した、語彙・文法にかかわる誤用832例をもとに分析を行った。その結果、語句の選択にかかわる誤用が最も多く、そのほかには話し言葉の使用、助詞、テンス・アスペクト、複文、文法形式、活用、語句の使用、やりもらいにかかわる誤用が多く見られた。複数の留学生に共通して見られる誤用も多くあった。これらに焦点を当てて今後さらにデータ数を増やして詳しく分析を行い、その結果をもとに留学生が効率的に日本語でのコメントシートの書き方を学べるような指導方法および教材の開発に取り組みたい。

【キーワード】 留学生、コメントシート、語彙、文法、誤用

### 1 はじめに

大学の授業では、毎回の講義の後にコメントシート（レスポンスシート、リアクションペーパー、講義カードなどとも呼ばれる）を学生に書かせることがよく行われる。コメントシートは講義に対する意見・感想、質問などを書くもので、主に学生の出席確認として用いられるが、授業によってはコメントシートの記載内容をもとに授業への参加度を評価し、成績評価の一部に取り入れられることもある。コメントシートのサイズは様々であるが、学生の名前、所属や学籍番号を書く欄の下に、数行程度のコメントが書ける空欄が設けられていることが多い。

筆者はこれまで学部留学生を対象とした教養教育「日本事情」の授業で留学生の書くコメントシートを度々目にしてきた。上で述べたように、コメントシートに書くコメントは数行程度、内容も意見・感想などで、日本語能力試験 N2, N1 レベルの日本語力を有する留学生にとってさほど難しいものではないと思われる。しかし、実際に留学生の書いたコメントシートを見ると、わずか数行の文章の中にも日本語の問題が多々見られること、そして、特に語彙・文法に関して複数のコメントシートに共通して見られる誤りが多いことに気づいた。

近年大学では学部入学直後の段階で、大学での学習・研究を円滑に進めていけるよう、初年次教育としてノートテイキング、情報収集、レポートの書き方、プレゼンテーションスキルなどの指導が行われることが多く、そのための教材も多く開発されている<sup>1)</sup>。しかし、コメントシートの書き方を扱った教材はあまりなく<sup>2)</sup>、コメントシートを書く際に必要となる日本語の表現等に焦点を当てた先行研究も管見の限り見当たらない。コメントシートを適切に書く力は大学の授業においてだけでなく、学内外の様々な行事への参加時、また、日常生活における商品等の購入やサービス利用時などに求められるアンケート回答の際などにも応用できるものであり、留学生へのコメントシートの日本語での書き方の指導は有用だと思われる。

そこで、留学生の書いたコメントシートの分析を通じて、彼らがコメントシートを書くときにどのよ

うな日本語の困難点があるのかを明らかにし、それらの困難点を克服できるような効率的な指導方法および教材の開発を行いたいと考えるに至った。そのための第一歩として、本稿ではコメントシートにどのような語彙・文法上の誤用が見られるのか全体的傾向を明らかにし、今後の調査研究の方向性を検討する上での手がかりとしたい。

## 2 調査の概要

富山大学で学部留学生向けに開講されている教養教育「日本事情Ⅰ」の授業におけるコメントシートを分析の対象とした。「日本事情Ⅰ」は主に日本や富山の文化、歴史、芸術にかかわる講義をオムニバス形式で行っている。15週（1回90分授業）のうち10週を各分野の専門家10名が1週ずつ講義を行う。専門家10名のうち6名は学内の大学教員、4名は学外の講師である。学内の教員による授業は日本の近代史、浮世絵、アニメ・漫画史、サブカルチャー、富山の歴史と名所、富山の祭りと地域経済にかかわるもので、講義形式で行われる。学外講師による授業は華道、書道、日本の民謡、落語で、留学生は講義を聞くとともに、華道家や書道家の指導の下、学生自身で生け花や書道の作品を作成したり、民謡で使用する楽器を演奏したり富山の民謡を歌ったり、プロの落語家による生の落語を聞くなど実技・実演を含む内容となっている。毎回の講義終了時に留学生はコメントシートを提出することになっている。コメントシートの配布・回収はコーディネーターである筆者が行っている<sup>3)</sup>。コメントシートは、講義の内容をメモする部分と、意見・感想を書く部分に分かれていて<sup>4)</sup>、意見・感想に書かれた内容をコーディネーターがまとめ、その週の講義担当者へ送付している。「日本事情Ⅰ」の第1週目のオリエンテーションで、コメントシートの意見・感想に書かれた内容については講義担当者も読むこと、そして、コメントシートも成績評価の対象となることを留学生に説明している。

本稿では2016年度後学期開講の「日本事情Ⅰ」を受講した留学生27名<sup>5)</sup>による262件のコメントシートを対象にして、日本語の語彙・文法にかかわる誤用<sup>6)</sup>（完全な誤用のみでなく、不自然さを感じるものでより適切な表現が他にあるものも含む）を832例抽出した。

## 3 分析結果と考察

832例の誤用の内訳は、語句の選択に問題があるものが221例、話し言葉の使用にかかわるものが146例、助詞にかかわるものが134例、テンス・アスペクトにかかわるものが78例、複文にかかわるものが74例、文法形式にかかわるものが66例、活用の誤りが34例、語句の使用にかかわるものが33例、やりもらいにかかわるものが16例、不要な語句が含まれているものが10例、語句が不足しているものが9例、文中での呼応関係にかかわるものが7例、ヴォイスにかかわるものが3例、語順の誤りが1例だった。

以下3.1以降、実際に留学生の書いた例を提示しながら複数の留学生に見られた誤り、そしてその中でも特に多く見られた誤りを報告する。誤用数が10例以下だった不要な語句、語句の不足、文中での呼応関係、ヴォイス、語順については、複数の留学生に共通して見られる誤用の提示は困難なため、詳しい結果の報告は省略する。なお、各用例の最後に示した[→○○]は用例中の誤用箇所（下線部）を適切な表現に直したもの（一例を示したもので、他の表現もある）、そして、用例中の〈国・地域名〉は留学生の出身国・地域名を表す。

### 3.1 語句の選択

語句の選択の誤りとして複数見られたのが、まず日本語学習者にとって使い分けが難しい、「知る」と「わかる」（例1, 2）、自動詞と他動詞（例3）、「もの」と「こと」（例4, 5）、「この」と「その」（例6）の使い分けにかかわるものである。それから、「今」をはじめとした時の表現（例7~9）の使い分けにかかわるもの、「詳しく」という意味で「よく」を用いたもの（例10）、語形の似た語を用い

たもの（例11, 12）, 敬語など待遇表現にかかわるもの（例13~15）があった。これらの中で特に多かったのが、「知る」を用いるべきところに「わかる」を用いたものと、「詳しく」の意味で「よく」を用いたものである。

- 例1 富山に来た半年ぐらいになったが富山について全然分からないといってもいい過ぎてはない。  
[→知らない]
- 例2 日本の民謡について、よくしります。[→わかりました]
- 例3 〈国・地域名〉も地方を発展するために、当地の文化を保存して、作り替えて、観光客を増して、地方の繁栄を促進します。[→発展させる, 増やして]
- 例4 以前、私は日本漫画とアニメの歴史についての授業を受けましたですけど、今回の先生の授業で新しいものを勉強しました。[→こと]
- 例5 〈国・地域名〉でも落語と似てることがある。[→もの]
- 例6 その授業の後で、富山のこと（名物、祭り、観光地）は最も分かります。[→この]
- 例7 今の授業を通して、日本の近代化についていろいろ勉強になりました。[→今日/今回]
- 例8 私は以前お宅文化に全然興味がありませんでしたけど、いまからアニメを見たいです。  
[→今後は/これから]
- 例9 今回の授業であの時の色々なことを思い出しました。[→あの頃]
- 例10 漫画は浮世絵から生み出されましたか。その問題についてよく知りたいです。[→詳しく]
- 例11 富山はそんな有名なところではないけど、自分の特色が明るいと思います。  
[→そんなに/それほど]
- 例12 その授業の後で、富山のこと（名物、祭り、観光地）は最も分かります。[→もっと/より]
- 例13 師匠の上手な表現技術で落語のおもしろさはちゃんと伝いました。[→すばらしい]
- 例14 興味深い話をしてくれて、ありがたいと思います。[→いただき/くださって]
- 例15 先生は地域の復興をするからと言いました。[→おっしゃいました]

### 3.2 話し言葉

コメントシートでの話し言葉の使用はレポートや論文を書くときほど大きな違和感がなく、日本語母語話者も意見や感想を書く際には状況に応じて話し言葉を適宜入れる場合もある。ただ、留学生のコメントシートに見られた話し言葉は、他の部分で書き言葉を使用しているのに一部の語句のみ話し言葉になっていて不自然さを感じるもののがかなり多いことから、話し言葉にも注意が必要だと考え、誤用として抽出した。複数の留学生が用いていた話し言葉は、以下に挙げた「すごい」（例16）, 「すごく」（例17）, 「とっても」（例18）, 「いっぱい」（例19）, 「たくさん」（例20）, 「全然」（例21）, 「みんな」（例22）, 「頑張る」（例22）, 「びっくりする」（例23）, 「…けど」（例24）, 「…かな（と思う/と疑われる）」（例25）, 「…じゃない」（例26）, 助詞の省略（例27）で、中でも「すごい」, 「すごく」, 「とっても」, 「たくさん」, 「みんな」, 「…けど」の使用が多かった。

- 例16 一人でコントのすべてをできるというのがすごい。[→すばらしい/（に）驚いた]
- 例17 戦後日本のマンガとアニメはすごく多様である。[→非常に]
- 例18 面白い落語を聞いてとっても良い経験になりました。[→とても/大変]
- 例19 「おわら」は百年前に非定型ですが、百年を経て、今は観光客がいっぱいいる祭りになりました。[→大勢]
- 例20 富山のさまざまな情報をたくさん得た。[→多く]
- 例21 おそばとうどんを食べる演出は違うと思いますのに、実は全然同じです。[→まったく]

- 例22 グループでみんなが頑張って、素晴らしい生け花ができました。[→皆, →努力して]
- 例23 そして、浮世絵の絵の作り方は地元の版画と同じのをびっくりしました。[→驚きました]
- 例24 〈国・地域名〉も豊かな文化を持っているけど、今時の人はなかなか深くの興味を持ってなくなっている。[→が]
- 例25 今日のすもうの絵では男性だけいる絵は非常に少ないと覚えているが、江戸時代に浮世絵は卑しいものだったかなと疑われた。[→のではないか]
- 例26 世界中に子供だけじゃなくて、大人にも人気がある。[→ではなくて]
- 例27 おわらを直接に見たことないので、ぜひ見に行きたいのです。[→見たことがない]

### 3.3 助詞

助詞にかかわる誤用として多かったのは、「が」と「を」(例28～39, 37), 「に」と「で」(例31～33), 「は」と「が」(例34～36)の使い分けにかかわるもの、それから、「は」の使い方にかかわるもの(例37, 38), 助詞の「の」が入っていないもの(例39)で、中でも特に多かったのが「…がわかる」を「…をわかる」とした誤用, 「…がおもしろい」を「…はおもしろい」とした誤用である。

- 例28 これらのことを基づいて、近世と近代の違いをもっとはっきり分かるようになりました。[→が]
- 例29 例えば slamdunk と国外靴のメーカーをコラボして、特別な靴をデザインしました。[→が]
- 例30 富山に来たばかりだからまだ富山のことががしらないだ。[→を]
- 例31 もちろん、アジアの日本の近くの〈国・地域名〉にも日本のマンガやアニメはとても人気があります。[→で]
- 例32 世界中に子供だけじゃなくて、大人にも人気がある。[→で]
- 例33 漫画やアニメなどによって、日本の文化は世界中で広く伝わってきます。[→に]
- 例34 今の日本の「伝統文化」は100年前のは違うところは多いです。[→が]
- 例35 浮世絵のジャンルから選ぶなら、私にとって風景画は一番面白いです。[→が]
- 例36 閏月の由来について物語りは面白い。[→が]
- 例37 以前は日本の近代史がすこし勉強しましたが、全面的ではありません。[→以前, →を]
- 例38 漫画は今のものだと思っただけで、実際に江戸時代から「絵巻物」というのものはもうありました。[→実際には]
- 例39 表情演技がとてもおもしろかった。[→表情の]

### 3.4 テンス・アスペクト

テンス・アスペクトにかかわる誤用として多かったのは、タ形を用いるべきところにル形を用いたもの(例40～44)と、「思う」、「思った」、「思っている」、「思っていた」の使い分けにかかわるもの(例45～47)である。このほか複数の留学生に見られた誤用として、「わかった」と「わかっている」の使い分けにかかわるもの(例48)と、テイル形を用いるべきところにル形を用いたもの(例49, 50)が挙げられる。

- 例40 今日は書道について勉強します。[→勉強しました]
- 例41 八尾とおわら風の盆のじょうほうもたくさん身につけます。[→身につけました]
- 例42 時間の設定や地界地図や西方文明に伝来したや各国の間の戦争などの方面から、もっと深く日本の近代史を知ります。[→知りました]
- 例43 初めて、日本の落語を聞いたり見たりできることはうれしいです。[→できた]

- 例44 むかし日本の文化を勉強したとき、日本の音楽について、あまり知りません。  
[→知りませんでした]
- 例45 浮世絵は手書きだと思いました。[→思っていました]
- 例46 花をかざるのは簡単だと思いますが自分でやってみるとなかなか難しかった。  
[→思っていました]
- 例47 もっと後半の内容を詳細にするほうがいいじゃないかと思っています。[→思います]
- 例48 このじゅぎょうに出て、おわらという伝統的な文化が分かっている。[→わかった]
- 例49 でも今〈国・地域名〉そんな教育が少ないですから、今伝承がだんだん消えます。  
[→消えています]
- 例50 〈国・地域名〉も地方を発展するために、当地の文化を保存して、作り替えて、観光客を増して、地方の繁栄を促進します。[→促進しています]

### 3.5 複文

複文にかかわる誤用では、適切な従属節が選択できていないもの（例51～56）と、従属節中の述部の形が不適切なもの（例57～60）とがあり、前者では原因・理由の「…て（テ形接続）」が適切に使えていない例、後者では「…と思う」と「…とき」の従属節中の述部の形が不適切な例が多く見られた。

- 例51 今日は学べるとほんとうにうれしかった。[→学べて]
- 例52 先生の授業を受けたら、私達は多くの美景を見逃したことを知りました。[→受けて]
- 例53 在原氏の絵「世の中にたえてさくらのなかりせば人の心はのどけからまし」、その文はわかりにくいから全然理解できません。[→わかりにくくて]
- 例54 初めてやるからたのしかった。[→やって/やったが]
- 例55 はじめて、日本の音楽と民謡を聞いて、とても素晴らしいです。[→聞いたが]
- 例56 一目で性別を分けてちょっと難しいと思います。[→分ける（見分ける）のは]
- 例57 特別な絵があって、とてもすばらしいだと思います。[→すばらしい]
- 例58 前と住んでいた京都と比べて、富山のほうが静かなと思っている。[→静かだ]
- 例59 天気がいいの時、立山へ行って、富士山を見たいです。[→いい]
- 例60 自分でやりの時、さまざまな困難があります。[→やる]

### 3.6 文法形式

文法形式にかかわる誤用としては、講義を聞いて得た情報を示す際に伝聞を表す「という」が適切に用いられていないもの（例61～63）、必要がないのに「のだ文」を用いたもの（例64）、変化を表す「なる」および変化動詞にかかわるもの（例65～67）、「について」にかかわるもの（例68～70）が多かった。中でも特に多かったのは例64のように願望を表す「たい」＋「のだ文」を用いた誤用である。

- 例61 その時期から服装、ヘアスタイル、調度品が伝統的なものから洋風になららしい。  
[→という]
- 例62 昔の絵と現代のマンガなどの間に相似点があるのは面白かったです。[→というの]
- 例63 伝統は作られていて、作り直していてもあるの話は面白かったです。[→という]
- 例64 箏の音が大好きです。機会があれば、習いたいのです。[→です]
- 例65 今回の授業で、もっと深く日本の近代史を知るようになりました。[→知りました]
- 例66 立山に行きたいようになりました。[→行きたくなりました]
- 例67 日本の歴史をもっと詳しくわかるようです。[→わかりました]

例68 閏月の由来について物語りは面白い。[→についての/に関する]

例69 日本の美術にとってすこしだけ理解できた。[→について]

例70 マンガはもっと分かった (古いマンガと新しいマンガ) [→について]

### 3.7 活用

活用の誤りについては、動詞のテ形 (例71~73) が最も多く、このほか複数の留学生に見られたものとして、動詞の受身形 (例74, 75)、形容詞のタ形 (例76, 77) が挙げられる。

例71 〈国・地域名〉の歌と似ている点もあった。[→似て]

例72 いろいろの写真を見て, 日本のアニメについて, よく理解しました。[→見て]

例73 伝統文化はただの伝統文化だけでなく, 社会の人口, 経済, 政治など様々な方面とつなんで, それらを反映しています。[→つないで]

例74 伝統のものは長い時間を経て, 作り替えされました。[→作り替えられました]

例75 三味線は日本の伝統楽器として, 多くの民謡の中で使られます。[→使われます]

例76 時間が少なかったので, スピードは速いでした。[→速かったです]

例77 この授業は楽しいでした。[→楽しかったです]

### 3.8 語句の使用

語句の使用については複数の留学生に見られた誤用は、副詞的表現における助詞「に」の有無にかかわるもの (例78~80)、連体修飾、連用修飾の際の形の誤り (例81~84)、「する動詞」にかかわるもの (例85, 86) である。

例78 本当に色々に勉強しました。[→いろいろ]

例79 小学生以来に久しぶりの華道をして昔を思い出した。[→以来]

例80 ひさしぶり書道を書いて, 面白いと思います。[→久しぶりに]

例81 今時の人はなかなか深くの興味を持ってなくなっている。[→深い]

例82 いろいろの写真を見て, 日本のアニメについて, よく理解しました。[→いろいろな]

例83 900年前に作られた絵, その内容はとても不思議です。[→その]

例84 「君の名は。」みたいに特定な場所が出るマンガやアニメは地域経済活性化に大きい投に立っているそうだ。[→特定の, →大きく]

例85 地方は衰退なので, 新しい伝統の創造がたしかに必要だ。[→衰退している]

例86 日本の近代化に従って, 都市に人口集中しました。一方, 地方では人口停滞します。

[→人口が集中しました, →人口が停滞しています]

### 3.9 やりもらい

やりもらいにかかわる誤用は、「…ていただく」と「…くださる」の使い分けにかかわる1例 (例90) を除くとすべて講師 (先生) による恩恵的行為に対して授受表現を用いずに述べているもの (例87~89) で、特に例87のように「紹介する」という語をそのまま用いた誤用が多かった。

例87 近世と近代の違いについて, 様々なことを紹介しました。

[→紹介していただきました/紹介していただきました]

例88 難しい文章が出たが先生に簡単にまとめた。[→ (先生が…) まとめていただきました]

例89 先生はパワーポイントでやさしく英語の翻訳をつけました。[→つけていただきました]



例90 先生は苦勞をして、私たちにとても面白い落語を演じていただきました。

[→演じていただきました]

#### 4 おわりに

本稿では、留学生の書いたコメントシートをもとにどのような語彙・文法上の誤用が見られるかを分析し、語句の選択、話し言葉の使用、助詞、テンス・アスペクト、複文、文法形式、活用、語句の使用、やりもらいにかかわる誤用が多いという結果を得ることができた。個別に見られる誤用もあるが、複数の留学生に共通して見られる誤用も多く、特に誤用が集中する語句や文法・表現形式もいくつか取り出すことができた。

コメントシートを書く際は、まず読みやすさと理解しやすさが求められ、加えて、読み手を不快にさせない、読み手である講師（先生）への感謝や敬意の気持ちを表すといった配慮も必要だろう。読みやすさ、理解しやすさの上で特に注意すべきなのは助詞、テンス・アスペクト、複文にかかわる誤用、一方、読み手を不快にさせない、感謝や敬意の気持ちを表す上でポイントとなるのは語句の選択、話し言葉の使用、やりもらいにかかわる誤用だと考えられる。今回の調査で留学生の誤用が多く見られた項目、語句表現を中心に、今後さらにデータ数を増やして詳細な分析を行う予定である。

#### 注

- 1) たとえば北尾他（2005）、佐藤他（2012）、藤田（2006）などがあるが、いずれの教材もノートテイキングの項目はあるが、コメントシートについては取り上げられていない。
- 2) 由井他（2012）では「授業についてのコメントを書く」という課で内容や構成に気をつけて書くこと、および、感想と意見の違いを理解して区別して書くことができるようになることを目標としたタスクが用意されている。そしてコメントシートを書く際に必要な表現として、「意見を言う表現（…必要がある、…べきである、…のではないだろうか）」と「勉強して気づいたこと、考えたこと、今後の抱負を伝える表現（これから…ように思う、…で…なければならなかった、…ので…ように思った、…をさっそく…てみたいと思う、なぜ…と疑問に思った）」が紹介されている。また、深澤他（2017）で新たに開発中の教材でも「ノートを取る・コメントシートを書く」という課を設け、コメントシートの書き方を扱っている。
- 3) 回収したコメントシートは日本語の表記や語彙・文法などの誤りを添削して、翌週の授業で留学生に返却している。
- 4) コメントシートのサイズは、講義の内容をメモする部分と意見・感想を書く部分、それぞれ縦4.5cm×横7cmである。本稿で分析の対象としたのは、意見・感想を書く部分に書かれたコメントである。講義の内容をメモする部分に書かれた日本語については語彙・文法上の誤用は少なかった。講師による説明、板書、プレゼンスライド、配布資料で使われた日本語を参考にして書いているためだと思われる。
- 5) 留学生27名の在籍身分別の内訳は交流協定校からの短期留学生15名、学部1年生10名、日本語・日本文化研修留学生2名で、出身国・地域別の内訳は中国11名、韓国、ベトナム、マレーシア各4名、台湾2名、フィンランド、ロシア各1名である。
- 6) 語彙・文法以外の誤用として、たとえば楊（2014）は中級日本語学習者の作文に見られる誤用を分析する際に、文法的誤り（助詞、文構造の呼応関係、修飾、接続、活用、テンス、アスペクト、授受表現、語順など）、意味論的誤り（語句の選択、話し言葉、語句の不足など）、表記的誤り（綴り、段落最初の一文字空け、句読点）、論理的誤り（論理の飛躍や矛盾による理解不可能な場合）、語用論的誤り（指示対象が不明瞭の場合）に5分類している。本調査で用いたコメントシートに見られた表記的誤りは個人差が大きく、またコメントシートに書かれた文章は数行程度の短いものであるため、論理的誤りと語用論的誤りについてはほとんど見られなかったことから、表記的誤り、論理的誤り、語用論的誤りは分析対象から外した。

## 参考文献

- (1) 北尾謙治・実松克義・石川有香・早坂慶子・西納春雄・朝尾幸次郎・石川慎一郎・島谷浩・野澤和典・北尾 S. キャスリーン (2005) 『広げる知の世界—大学での学びのレッスン—』, ひつじ書房
- (2) 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦 (2012) 『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門—第2版』, 慶応義塾大学出版会
- (3) 原沢伊都夫 (2012) 「日本語初中級学習者の作文指導：学習者の誤用分析をもとに」『静岡大学国際交流センター紀要』第6号, pp.79-92
- (4) 深澤のぞみ・札幌寛子・濱田美和・深川美帆 (2017) 「大学初年次留学生のためのアカデミックジャパニーズ総合教材の開発」『2017年度日本語教育学会春季大会予稿集』, pp.373-377
- (5) 藤田哲也 (2006) 『大学基礎講座—充実した大学生活を送るために—改増版』, 北大路書房
- (6) 由井紀久子・大谷つかさ・荻田朋子・北川幸子 (2012) 『中級からの日本語プロフィシェンシーライティング』, 凡人社
- (7) 楊帆 (2014) 「中級日本語学習者の作文における困難点—文構造の呼応関係について—」『秋田大学国際交流センター紀要』第3号, pp.15-28

# 日本人学生の「日本語」の学びと日本語再発見 —グローバルマインド形成への1つのアプローチとして—

副島 健治

## “Japanese Language” rediscovery and learning by Japanese students : As an approach toward the global mindset formation

SOEJIMA Kenji

### 要 旨

近年の日本人学生は「内向き志向」とされる。本報は、日本人学生が改めて自文化である日本語・日本文化を学ぶことを、グローバルマインドを身につける1つのアプローチとして位置づけ、その学びにより自らのアイデンティティを確認し誇りを持って外へ目を向けるようになる契機となるのではないかと「グローバル人材育成」の試みとして実践した報告である。関わった学生たちは、日ごろ気に留めていなかった「日本語」をあらためて学び、「発見」することを経験した。その新鮮な経験によって、教養としての知識を身につけるといっただけにとどまらず、気おくれすることなく外国（語）へ目を向けることのできる日本人としての自負も生まれ、留学することを考え始める学生もでた。「グローバル人材育成」という観点から、自己の文化を見つめ直すことが重要であることが明らかとなった。

【キーワード】 グローバル人材、心構え（マインド）、「日本語」の学びと再発見、アイデンティティ、留学

### 1 はじめに 一 本報の背景と目的一

近年、あらゆる場面で「グローバル」という概念が取り上げられることがたいへんに多い。ここ20～30年間の交通・通信手段の驚くべき急速な発達により、地球規模でのヒト・モノの移動、情報の発信と獲得の容易さはこれまでの歴史上類を見ない。このことは、ビジネスはもちろん学問的、文化的、人道的な心の交流など隔々に渡って言えることである。これは「国際」という言葉に象徴されるような「国」・「国境」などの既成の枠をかき消してしまうほどの勢いさえある。

しかしながら、時代に逆行するかのよう、日本という枠を越えて海外への留学を希望する日本人学生の数は減少し、また学生のみならず、会社に就職した若者が海外勤務を望まないという傾向があるというのも事実である。この傾向は、内向き志向となった日本人が多くなったという現実であり、そのような背景において、「グローバル人材育成」が謳われ、近年の大学教育のファクターとして取り上げられるのはあまりにも当然であるとさえ言える。

「グローバル人材」というのは多様な人材の積極的な活用を行なおうとするダイバーシティを重視する企業の姿勢とリンクする重要な概念・視点である。英語などの外国語を身につけることは確かに重要である。後掲の「要素Ⅰ」にも示されている通りである。しかし、英語が出来るからといって、すなわちグローバル人材であるとは到底言えない。なぜなら、それは有効なコミュニケーションの道具を持っているというだけであって、この道具をどのように使いこなすかということが問われるからである。したがって、英語力そのものと相俟って、学生の心に、国境を跨いだ多様な価値観を受け入れることの出来る、一人の人間として気おくれせず堂々とした心構え（マインド）を持ち合わせることもさらに重要である。それは、自らの文化的な立ち位置が定まっていなければ到底持ち得ない心の有り様である。

さて、「グローバル人材」とはどのような人材であろうか。教育、ビジネスあるいは国際ボランティア等々、その立場や切り口によって、さまざまな定義ができよう。「グローバル人材育成推進会議中間

まとめ」(2011年6月:グローバル人材育成推進会議)には「「グローバル人材」とは」が明快に述べられている。それによると、「グローバル人材」の概念は以下の3つの要素に整理される。(p.7)

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

筆者は、日本人が足を止めて日ごろ気にも留めていない無意識に向き合っている日常の日本(語)文化を学び直し改めて認識することは、日本人としてのアイデンティティーの再確認というグローバル人材育成の見えにくい最も重要な土台形成に寄与すると確信している。その「グローバル人材」の育成の1つの試みとして上掲の要素Ⅲに挙げられている「日本人としてのアイデンティティー」について日本人学生に自覚を促し、自らの足元をしっかりと見据え、それを足がかりに日本人としての誇りと自負を持って日本の外にも目を向け、内向き志向から脱却することを期待して実践した、富山大学における活動(授業)の実践を本報で報告するものである。本報の表題には「日本人学生の」としているが、実際には初等中等の教育現場の現職教員を対象とする「教員免許状更新講習」の事例も取り上げた。

日本語という言葉をもとにしたアカデミックスキルの習得などを考えるとき、日本語を学ぶことは確かにもはや留学生などの非母語話者だけのものとは言えず、むしろ、日本人学生にこそたいへん重要な学習事項である。しかし、本報は、近年の日本人学生の日本語力、思考力の低下に抗する意味での初年次教育等における「日本人学生に対する日本語教育」を論じる論考(三宅ほか2004, 高松2006, 境2012など)とは距離を置くものである。

## 2 日本人(学生)の「日本語」の学びについて —その意義—

普段、無意識にできることであっても、それを意識化し客観化して説明することは容易くはない。経験として学んだことのある外国語と同じように、母国語の日本語を世界の中の1つの「外国語」として明確に意識化し改めて学ぶことは、日本語の言語文化の再認識・自覚を促し、日本人としてのアイデンティティーを確かなものとするのにたいへん有効であると言えるのではないか、ということに筆者は意義を認め、強く意識して下の3つの実践を行なった。

(1) 教養教育科目(コロキウム科目)「留学のための教養講座」の実践

(2) 人間発達科学部専門教育科目「国際交流活動論」の実践

(3) 平成29年度富山大学教員免許状更新講習の【選択科目】「教養としての日本語教育」の実践

(3)は現職教員の教員免許状更新のための講習であるので、日本人としてのアイデンティティーの自覚を促がすということを前面に出した内容ではなかったが、結果として、外国語としての「日本語」を振り返ることによる日本人としてのアイデンティティーの確認のようなことが含まれているので、合わせて取り上げたい。まず、それぞれの実践を概観し、受講者のコメントや感想・所見などから読めるところを整理する。

本報の取り組みは、(3)の教員免許状更新講習の実践を除いて、「留学」「異文化コミュニケーション」「外国語(英語)」などをキーワードとする講義を行なった同僚の教員とのチームティーチングのような形で協働してなされた。この協働によってさらに大きい相乗的な効果が得られたのではないかと思われる。

### 2.1 教養教育科目(コロキウム科目)「留学のための教養講座」の実践

日本人学生の海外留学(送り出し)を支援することは、全国の大学がおよそそうであるのと違わず筆者が奉職する富山大学においても重要な学是の1つである。2013年10月に国際交流センター<sup>1)</sup>が発足して以来、そのセンターの主な業務の1つに挙げられている。筆者と同僚(上述)は、その業務遂行のために何が出来るかを議論し、辿り着いた1つの答えとしての試みが、教養教育科目としてのコロキア

ム科目「留学のための教養講座」を開講することであった。2016年度の前期から開講している。<sup>2)</sup>

この科目は、受講しても単位が出ないが、その意味において受講する学生は本気で「留学のための教養講座」を受けに教室に来ていたと言え、多少ともすでに留学することに興味を持っている学生たちであることが認められる。

教養教育のコロキアム科目「留学のための教養講座」は、海外の大学への留学を目指す日本人学生に、日本語を見つめ直すことによってあらためて自文化を再認識することを促すものであり、換言すれば、「「自分」を知るところを起点とし、自国の文化・言語を revisit (再訪問) して、そこから更には「相手」すなわち異文化・多文化を受け入れられる素養を身に付ける。また、外国語に関する素養も身につける。」(シラバスより抜粋) というのが科目の趣旨である。

毎週水曜日の3限目に共通教育棟 E12教室で実施した。教養科目に位置づけられていることから受講生は1・2年生がほとんどであったが、3・4年生の学生も受講した。

2016年度 前期 受講者：16名 (受講者の内訳：人発(3)、経済(1)、人文(9)、理(1)、工(2))

2016年度 後期 受講者：8名 (受講者の内訳：経済(2)、人文(1)、理(5))

2017年度 前期 受講者：7名 (受講者の内訳：人発(2)、経済(1)、人文(3)、工(1))

※ 受講者数は、実際に授業参加した学生の数(単に登録しただけの学生を除く)である。

15回の授業のうち、筆者が主に自文化としての「日本語」を見つめ直す活動をし、同僚(前出)が「留学」「異文化理解・異文化コミュニケーション」などをキーワードとして講じた。下に筆者担当の前者の概要について述べる。

自文化すなわち日本文化の表象としての「日本語」を見つめ直す実際の活動とは、次のような活動であった。

日本語を見つめ直す参考図書として、新潮社の『日本語 表と裏』(森本哲郎)(全部で24の章から成る)を取り上げ、学生は任意の章を担当し、各章をそれぞれの学生が読み込み、その上で他の受講者に解説し自分が感じたことをコメントして他の受講生と意見交換する、というやり方で授業を進めていった。教員(筆者)はファシリテータとして振る舞い、必要に応じて適宜担当学生の説明を補完した。<sup>3)</sup>

例えば、日本語は曖昧であるという批判を耳にする。しかし、上掲の参考図書の第一章には、16世紀に来日したポルトガル人宣教師のルイス・フロイスの「ヨーロッパでは言葉の明瞭であることを求め、曖昧な言葉を避ける。日本では曖昧な言葉が一番優れた言葉で、最も重んぜられている。(フロイス『日欧文化比較』岡田章雄訳)」という指摘が引用されており、これは日本語の曖昧さは決して言語として劣るという面ではなく、日本語の文化的な表象であることを示唆している。例えばこのような学びは、理解した学生にとっては目から鱗<sup>うるこ</sup>であった。

受講した学生たちの所見は、本授業の成果の判断の材料となるが、受講後の学生のコメント等については、後述する。

## 2.2 人間発達科学部専門教育科目(選択必修講義科目)「国際交流活動論」の実践

本科目は、人間発達科学部の教授がコーディネートしている科目であるが、ガイダンスを除き、筆者と国際交流センターの同僚(前出)の2人が講じた。この「国際交流活動論」の科目は、将来初等中等教育の教職に就くことを目指す人間発達科学部の学生を対象とするもので、「自分が日本語の母語話者であることを認識し、日本語という言語を客観的にとらえる努力をすることを学び、その上で日本文化の表象としての言語である日本語の特徴について基本的な知識と教養を身につけ、「外国語としての日本語」および「日本語教育」に関する理解を深める。」(シラバスより抜粋)ものである。教材としては、問題集の形で整理されている『日本語教師の実践力』(全国日本語教師養成協議会編・著、2006)の他に新聞記事等を使用した。

この授業において筆者が担当した部分は、現在の学校教育の現場には日本語を母語としない子どもが

在籍しており、このような現実において将来教員を志望する学生にとっての「日本語」や「日本語教育」の学びはきわめて重要であったと思われる。なぜなら、今日の学校教育の現場には出自が日本と異なる子どもたちが在籍することは珍しくなく、教員が「グローバル人材」であることがもはや当然の社会的要請であると言えるからである。

受講対象は人間発達科学部の2年生～4年生で、単位は2単位である。本授業は人間発達科学部の専門教育科目であることから、下のように受講生は全員が人間発達科学部の学生であった。

2016年度 後期 受講者：7名（受講者の内訳：3年生(6)、4年生(1)）

実施教室：国際交流センター2階 講義室2

2017年度 前期 受講者：20名（受講者の内訳：2年生(14)、3年生(5)、4年生(1)）

実施教室：人間発達科学部342講義室

筆者が「日本語」「日本語教育」について講じ、同僚は「留学」などをキーワードとしながら異文化コミュニケーション論を講じたが、ここには筆者の講じた前者の部分について述べる。

現実として近年の学校教育の現場には、外国人の子弟が在籍することはさほど珍しいことではなくなっており、教科の指導とは別に、日本語や日本語教育そのものについての知識や素養が教員に問われることが想定される。そのような意味において、将来教壇に立とうとする学生が、今一度（外国語としての）「日本語」を改めて捉えなおして認識し<sup>4)</sup>、さらには日本語教育についての素養も身につけるということを目的として実践した。副産物として、結果的に日本語を捉えなおすことによって、世界の中の言語としての日本語の特徴に気づき、あるいは自らがその話者の日本人であることを再認識させることになった。

受講した学生たちの所見は、本授業の成果の判断の材料となるが、受講後の学生のコメント等については、後述する。

### 2.3 富山大学教員免許状更新講習<sup>5)</sup>【選択必修】「教養としての日本語教育」の実践

筆者は下記のように、2017年度の富山大学で行なわれた教員免許状更新講習の講師として講習名「B017 教養としての日本語教育」を講じた。

日時：2017年8月2日(水) 9:00～16:40、90分授業を午前に2コマ、午後に2コマ実施

会場：富山大学五福キャンパス共通教育棟 E23教室

受講者：30名

本講習は、すでに実際の教育現場に立っている初等中等教育に携わる現職の教員が受講対象者である。受講者は30名で、言うまでもなく大学生とは比較にならないほど、学びのモチベーションは高く真剣で熱心な受講者であった。受講者の勤務する学校で担当する教科は多岐にわたり、学校種別の内訳としては、高校の教員(6)、中学校の教員(7)、小学校の教員(6)、幼稚園・保育所(園)・こども園(11)であった。(一時的に現場を離れている教員を含む。)

「本講習では日本語を外国語して捉えなおし、その視点から日本語の音声(発音)、文法・表現、アスペクトなどを見つめて、非母語話者にとっての外国語としての日本語がどのように映っているかを考える。」(シラバスより抜粋)という趣旨であった。教材としては、前述の「国際交流活動論」と同じく、全国日本語教師養成協議会『日本語教師の実践力』を使用した。

講義内容としては、前述の「国際交流活動論」の授業と重なるところが多いが、(1)受講者は現職の教員であり、勤務校に実際に外国人の子どもが在籍していたりすることもあって意識が高く、(2)受講者全員に、学習活動に効果的に従事することを可能ならしめる学習者としての心身の準備状態(学習のレディネス)が完全に整っていた。そして、(3)受講生の中には外国語(英語)の教員や国語の教員も含まれており、また、(4)日本語教師として中国に派遣された経験を有する高校教員もいた。そのようなことから、「(外国語としての)日本語」の学習に対する高度な反応が見られ、最良の集団学習の体制

であった。

講習に参加した教員たちの所見や感想は、本講習会の成果の1つの判断の材料となるが、受講後の教員たちのコメント等については後述する。

### 3 まとめ

本報に3つの実践を挙げた。それらのいずれの受講者の所見からも、日本人としての自文化の表象である「日本語」への気づきに関するコメントが多く見られた。そして、その気付きは、留学への呼び水となり得ることも確認できた。本報の巻末に受講者の所見・所感を挙げた。<sup>6)</sup> 受講生が筆者に口頭でコメントを語る場面も少なくなかったが、それらは書かれたものを強化するものが多かった。

筆者は約30年に渡って外国人に対する（外国語としての）日本語教育に携わってきたが、本報で報告するような、母語話者に「日本語」を教授するという場面は、日本語教師養成や日本語教師研修会の講師という場面以外にはほとんどなかった。日本人は学校教育で「国語」を学ぶことはあっても、一般には「日本語」を学ぶことはまずない。そこで、この学び（＝1つの外国語という視点から日本語を学ぶということ）を通して、英語などの外国語と並列にとらえるところの1つの外国語として「日本語」を再認識し、そして自文化を再発見し、日本人であることをあらためて自覚するというところに、大きな意味があるということが分かった。それは、その学びによって自らのアイデンティティーを再構築するという作業であった。見方を変えれば、その学びは、「グローバル人材」が育成されることに良い影響を与え、同時に日本人としてのアイデンティティーの確認と再構築がなされ、そして結果として、「留学」だけに限らず、茫漠としていた学生の視線を外へ向けさせることに繋がることも分かった。

これらの実践を通じて、学生たちの確たるグローバルマインドの形成にも寄与することができたのではないか、世界の中の日本を感じ、日本人としてのアイデンティティーを抛り所として多少なりとも誇りと勇気を得たのではないか、それが例えば留学への契機となり得るのではないか、ということを書者らは現場で感得した。

今後もこの取り組みをもってさらに追究していきたい。

### 謝辞

富山大学国際交流センターの業務における「学生の海外留学の支援」をどのような形で行なっていくか、議論を重ねる中で貴重な意見と多くの示唆を与えていただいた同僚のバハウ・サイモン・ピーター教授に感謝いたします。

### 注

- 1) 富山大学では2013年10月、日本語教育をはじめとする外国人留学生の受け入れに関する業務を中心にしていたそれまでの「留学生センター」を発展的に解消し、加えて新たに富山大学の学生の送り出し支援の業務も担う「国際交流センター」が発足した。（富山大学国際交流センター規則 第3条（2））
- 2) その前年度の2015年の夏、日本人学生の留学に関する1つの啓発の活動として、諸氏の協力のもと、下掲の国際交流センター主催の2回のセミナーが行なわれたが、これは「留学のための教養講座」の試金石となった。（副島、バハウ2016）
  - ① 第一回 夏季セミナー“留学を目指す学生のための「日本語・日本事情」講座”  
実施期間：3日間（2015年8月3日（月）～8月5日（水））  
場所：共通教育棟A43教室
  - ② 第二回 夏季セミナー“留学を目指す学生のための「留学準備の英語」講座”  
実施期間：3日間（2015年8月19日（水）～8月21日（金））  
場所：共通教育棟A43教室
- 3) 2016年前期においては、参考図書は学生に紹介して読書を勧めるだけにとどめ、授業で講読はせず、筆者が講義した。
- 4) 教材としては、全国日本語教師養成協議会『日本語教師の実践力』を使用した。これは問題集の形を取っ

ている。例えば、本教材の一番初めの「問題1」は以下である。

（「一な」の下線部分に着目して、4つの中で他と最も性質の異なるものを選ばせる問題）  
a) いろいろな道具, b) 静かな部屋, c) 小さな車, d) おかしな味

これは、形容動詞（日本語教育では「ナ形容詞」）と連体詞を区別させる問題であるが、このような日本語についての問いに受講生が戸惑うことは、自らを日本人であることの自覚に揺さぶりをかけ、インパクトの大きい刺激になったと思われる。

- 5) 平成19年6月に改正教育職員免許法が成立し、平成21年4月1日から教員免許更新制が導入された。これにより、原則的に、教員免許状の有効期間満了日（修了確認期限）の2年2ヶ月から2ヶ月前までの2年間に、大学などが開設する30時間以上の教員免許状更新講習を受講・修了した後、免許管理者（都道府県教育委員会）に申請することが、初等中等教育の現場の教員に求められることとなった。その目的は「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指す。」とある。（「教員免許更新制の概要」文部科学省）
- 6) これらは、授業あるいは講習を終えた感想として述べられているものである。試料（コメント）の数が多いため、紙面の都合上なるべく無作為に抽出しそのまま列記したものである（教員に対する謝辞など、本研究に直接関係の無い部分は省いた。）。ただし、これらは、実践(3)を除いて、同僚と協働で行なった授業へのコメントなので、同僚の講義内容に対するコメントを内包しているものがあると思われる。

### 参考文献

- (1) Simon Peter BAHAU (2015) “Examining Japanese University Students’ Aspirations for Study Abroad: An Exploratory Inquiry into Preferred Destinations and the Anglophone Centripetal Pull in a Globalizing World”, Journal of Center for International Education and Research, University of Toyama, vol.2, pp.1-9.
- (2) 大石寧子 (2014) 「グローバル人材育成における日本語教育の役割：大学における現状を踏まえた一考察」『徳島大学国際センター紀要・年報』徳島大学国際センター, pp.19-23.
- (3) 境 希里子 (2012) 「日本人学生のための日本語教育 一新都心キャンパスの総合教養科目およびコラボレーション科目の場合」『文化学園大学紀要 人文・社会科学研究』20 (2012-01), pp.107-119.
- (4) 副島健治, 岩瀬裕嗣 (2015) 「異文化交流活動の一つの実践的意味— 富山県立ふるさと支援学校の児童生徒と富山大学の外国人留学生との出会いから —」『富山大学国際交流センター紀要』第2号, 富山大学国際交流センター, pp.21-26.
- (5) 副島健治, バハウ・サイモン・ピーター (2016) 「留学生指導及び受入れ・派遣支援報告 (2015年4月～2016年3月)」『富山大学国際交流センター紀要』第3号, pp.35-43.
- (6) 副島健治 (1999) 「日本語教育実践における授業の振り返り」『ポリグロシヤ』第2巻, 立命館大学言語センター, pp.95-107.
- (7) ——— (2002) 「日本語教育における授業観に関しての一考察」『比較文化研究』No.59, 日本比較文化学会, pp.45-57.
- (8) ——— (2004) 「日本語学習の発達過程としての「メディア日本語」の試み」『ポリグロシヤ』第9巻, 立命館アジア太平洋大学言語教育センター, pp.169-180.
- (9) ——— (2005) 「学習者の「主体性」と「考える」ことを基本にした日本語教育の試み」『教師(ひと)づくり教材(もの)づくり日本語教育—河原崎幹夫先生古希記念論文集—』河原崎幹夫先生古希記念論文集実行委員会, 凡人社, pp.168-181.
- (10) 高松正毅 (2006) 「日本人大学生への日本語教育—日本語変革への構想—」『高崎経済大学論集』第48巻第3号, pp.2-3-222 (下記 URL に公開).  
<http://www1.tcue.ac.jp/home1/takamatsu/Theses/takamatsu2006a.pdf>
- (11) 高松侑矢 (2015). 「ダイバーシティ・マネジメントとグローバル・マインド形成の研究」『西南学院大学大学院研究論集』巻1, 西南学院大学大学院, pp.1-14 (下記 URL に公開).  
<http://www1.tcue.ac.jp/home1/takamatsu/Theses/takamatsu2006a.pdf>
- (12) 戸田貴子 (2015) 「グローバル人材育成における日本語教育の役割—世界をつなぐネットワークの活用—」,



2015年ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム「東南アジアの日本語教育の役割ーグローバル人材育成とつながるネットワークー」ホーチミン市師範大学9月19日シンポジウム講演会、講演要旨(下記URLに公開)。  
<https://www.waseda.jp/fire/gsjal/assets/uploads/2016/04/pres15b.pdf>

- (13) 三宅和子・堀口純子・三原祥子・筒井洋一(2004)「大学での「日本語」教育の意味と可能性ー日本語教育、国語教育、人間関係教育、アカデミック・スキルズ教育を結ぶ視点ー」2004年日本語教育学会秋季パネル、2004(平成16)『年度秋季大会予稿集』pp.239-250。(下記URLに公開)。

[http://www2.toyo.ac.jp/~miyake/pdf/nihongokyouikugakkai\\_syuukipaneru04.pdf](http://www2.toyo.ac.jp/~miyake/pdf/nihongokyouikugakkai_syuukipaneru04.pdf)

- (14) 森本哲郎(1988)『日本語 表と裏』新潮社, 1988。

- (15) 山本富美子, 糸川優, 渋谷倫子, 副島健治, 戸坂弥寿美, 星野智子(2008)「企業が期待する外国人「人材」の能力とビジネス日本語」『専門日本語教育研究』第10号, 専門日本語教育学会, pp.47-52。

## 資料

- (1) グローバル人材育成推進会議(2011)『グローバル人材育成推進会議 中間まとめ』2011年(平成23年)6月22日, 文部科学省ホームページ:

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/koushin/001/1316077.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/001/1316077.htm) (2017年9月30日閲覧)

- (2) 教員免許更新制 教員免許更新制の概要, 文部科学省ホームページ:

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/koushin/001/1316077.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/001/1316077.htm) (2017年9月30日閲覧)

- (3) 「富山大学国際交流センター規則」(平成25年9月24日制定, 平成26年6月24日改正)

- (4) 富山大学教養教育「留学のための教養講座」シラバス

- (5) 富山大学人間発達科学部専門科目「国際交流活動論」シラバス

- (6) 富山大学教員免許状更新講習【選択必修】「教養としての日本語教育」シラバス

- (7) 全国日本語教師養成協議会編・著 『全養協日本語教師検定準拠問題集 日本語教師の実践力』2006。

## 巻末資料

- (1) 日本人(学生)・受講者の所見 コロキアム「留学のための教養講座」の受講生より

日本人だからこそ気づかない部分が多くあって、日本語を海外の人に説明する難しさを知った。

今の世界は日本からの視点だけでは捉えきれなくなっている。自国のアイデンティティーを保ちつつ外国のものも取り入れるのは大変難しいと思う。…〈中略〉…私たちはいずれ新しい21世紀の日本を作らなければならない。そのためには私たちが学ぶことが大事である。次の日本を作り上げることが私たちの役割だと感じる。がんばって留学しよう!

日本語の特徴について考えたことは、ほとんどなかったのに、特徴を見つけるのには苦労した。みんなから言われて、なるほどと思うことも多く、おもしろかった。…〈中略〉…私は英語やフランス語を学んで、身に付けるのにとっても苦労しているが、それは日本語学習者にとっても同じことなのに、あまり年が変わらない留学生が流暢に日本語を話しているのをみて、自分ももっと頑張らなければと思った。…〈中略〉…一度しかない人生を充実したものにするために、私は留学する人生を選びたい。

当たり前に使っている日本語について考える機会を与えてもらった。新たな発見があり面白く感じた。母国語を大切にしていきたい。…〈中略〉…留学にはぜひチャレンジしたい。JICAの活動にも興味がある。自分や日本について深く考えさせられる授業だった。…〈中略〉…教養がついた。面白かった。長期留学に行きたいという気持ちが高まった。

今まで漠然と外国へ行きたいとか、国際協力に興味があると思っていたが、…。日本語の難しさや日本についてたくさん考えることが出来た。…〈中略〉…春に語学研修に参加しようかどうか迷っているので、参考になった。

日本語はどんな言語かということを考えてとき、母語であるのに特徴などがすぐに思い浮かばず、自分は日本語について客観的によく分かっていなかったと気づいた。この授業では、普段全然考えないこと、当たり前のように感じていることについて、じっくり考えてみるのが多かったのに、日本について客観的に理解できるようになったと思う。

留学の準備には、行き先の国の言語よりも、まずは自国の文化・言葉を理解することが大切だということ学んだ。特に、日本語は母語として理解しているつもりだったが、今まで思いもなかった観点から日本語の分析をして改めて日本語について理解を深めることが出来た。これから、目標の留学が出来るように、いろいろな知識を蓄えていきたい。

私は最初、この授業では外国のことについてやったりするのかなと思っていたけど、実際には私たちが住んでいる日本についてのことでした。普段、全く考えずに使っている日本語について深く考える機会を与えてもらい、本当に良い機会だなと思ったし、本当に私のためにとって大切な知識を得られて良かったです。この授業で学んだことをバネにして、外国に飛び立っていきたいです。

日本語を母語とする私たちにとってごく当然のことであるがゆえに、普段なかなか気付くことができないような日本語の難しいところや不思議なところを、また、日本語を通して日本に独特の慣習や文化などを発見する貴重な機会となりました。そして日本語を母語としない人たちと交流するにあたって、日本語だけでなく日本の文化や伝統などを深く知る必要があること、そして私達は自らの文化に関して意外にも知らない事が多いということに気付かされました。この様な私たちにとって「当たり前」であった物事を見直すという視点を得ることが出来るこの授業は、私をはじめ、留学を志す方々には欠かせないものだと思います。…〈中略〉…この講義を通して学んだ、私達にとっての「当たり前」を見直して相手にいわば「ローコンテクストな表現」でものごとを伝えるということは、国外の方だけでなく、同じ日本に住む人との交流に於いても活かすことが出来るのではないかと考えています。

今回、副島先生の授業を通して、日本語について様々な視点で考えることで、多くのことを学び、日本人として日本の文化を改めて見つめ直す良い機会になりました。私たちが日頃何気なく使っている日本語を今度は日本以外の国の留学生の視点で考えたり、あるいは私たちが留学した際に現地の人に日本の文化や日本語についての質問されたとき、どう説明するかを考えた時は、相手に文化を伝えることがいかに難しいかを実感しました。そして、自分が日本人として日本のことについてまだまだ知らないことが沢山あることを知り、自分の国の事なのに質問されたことに対して答えられなかったことが凄く悔しかったです。なので、日本語や日本文化に日頃からもっと興味を持ち、海外の人に日本の良さや日本ならではの言葉や文化を伝えられる人になりたいです。今の時代は、国際交流をすることが当たり前になってきています。そんな中で、やはり自分の国のことを相手に伝えられないとなると、相手と仲良くなれる貴重な機会を逃してしまいます。英語を話せることももちろんなのですが、それ以前に自分の国への理解度を上げていく事も同じくらい大切だということを改めて感じさせられました。このように副島先生の授業は私にとってすごく貴重な時間になりました。留学を考えている日本人学生にとってすごく良い刺激になると思いますし、また自国への理解度がどのくらい自分にはあるのかを知れる貴重な機会になると思います。ぜひ来年度も開講してほしいと思います。

## (2) 日本人（学生）・受講者の所見 「国際交流活動論」の受講生より

正直、この授業を履修した理由は教員免許に必要な単位を楽に取ることができると思ったからです。でも、実際に副島先生とバハウ先生の授業を受けて見ると驚きの連続で、これからの人生で支えになるような言葉をたくさんいただきました。授業の中では、自分が普段から何気なく使っている日本語や、無意識の中で正しいと思いながらレポートに書いていた日本語もよく考えてみると、様々な意味を含んでいると学び、視野が広がった。日本語を改めて考えることは、私にとっては経験と関連づけて「楽しい」と感じることができた。しかし、私がこれまで出会ってきた小学校の外国人の子どもたちや、大学内で見える留学生にとっては生きるために必要とはいえ、新しく言語を習得することは大変なことだと感じた。

これまで日本語について真剣に向き合ってきたことはなく、とても新鮮な気持ちで臨むことができた。問題として出されたら、確かに違和感があった。その違和感を「自分の言葉で表現する。」ことを学んだ。改めて日本語について考えると「難しい」一言だった。20年近く日本語を使ってきた自分ですら難しく感じる日本語を、子どもたちに教えられるか不安に感じた。

子どもたちが着実に日本語の理解を深めて行けるために、教師として、言語の壁にぶつかった子どもに対して何ができるのか。教師による支えだけでなく、クラスメイトとの関係づくりや教室の雰囲気作りについても考えさせられた。その子の苦しみは全てわかってあげることはできないと思うが、クラスとの関わりの中で安心できる居場所を作っていきたいと思った。

教員を志望している自分にとってはとても身近で、学級運営で役に立つと思った。実際にたくさんの外国人児童が普通学級で学んでいる姿を見てきた。また、言語の壁に当たり、支援級や保健室に通っている子も見てきた。そのような現状の中で、その子たちに私ができることは小さなことかもしれないが、言語という学びや出身国・ルーツを知るを通して、自分に自信や誇りを持って生きていける子を育てたいと思った。そのために、「安心して間違えることができる居場所」作りに努めたい。

はじめは、日本語というものについて考えるのはおもしろそうだなといった軽い気持ちで受講してみようと思い、履修しました。10回の講義では、私たちの母語である日本語というものの難しさとおもしろさの両方を感じることができました。教員になる上で、生きてくるような内容だったと思います。なかなか全てを頭に入れて教員をすることは難しいかもしれませんが、もし学校にいる外国人児童がいて、その子が日本語に悩んでいたら、この講義のことを思い出してみようと思います。

日本語というものは、私たちにあって当たり前のもので、それについて深く考えるということはあまりしてきませんでした。それが、今回の講義で日本語というものを外から見つめ直すことができました。ふと感じていた日本語の不思議が解消したり、それと同時に日本語というものの難しさを改めて実感したりしました。

まず、私たちが教員になった時に、教室の中に、もしくは学校の中に外国人の児童が数名いるということが当たり前だということに気づかされました。そういった外国人の児童には日本語を学習する上で、得意、不得意があるということも知ることができました。知っていなければ、教師自身も子どもの困難に寄り添ってあげることができないだろうと感じました。

まず、私たちが教員になった時に、教室の中に、もしくは学校の中に外国人の児童が数名いるということが当たり前だということに気づかされました。そういった外国人の児童には日本語を学習する上で、得意、不得意があるということも知ることができました。知っていなければ、教師自身も子どもの困難に寄り添ってあげることができないだろうと感じました。

日本で学ぶ他国の子どもたちが、無理なく学べるような援助を行う時や、その時に他国についても知ったうえで寄り添うということ。もう少し他国の文化に触れる機会があれば良いと感じる。

この授業で日本語を外国の人に教える難しさや注意点などを楽しみながら学ぶことができました。私はこの授業を受けることができて日本語を教えるということに少し興味を持つことができたし、外国の子供がクラスにいてもある程度対応することができそうだと感じました。

私が外国語を勉強するとき様々な文法を学んで来ました。外国人が日本語を勉強するときも同じように日本語の中の文法を学んでいると思います。そういった人たちに教える人もまた文法などを理解しておく必要があり、誰でもできるような仕事ではないと感じました。自分のクラスに日本語のあまり得意ではない外国人の子供が来たときにその子供の手助けをしたり、少し発音がおかしかった時に外国語と日本語の発音の差異などを説明することで助けることができると感じました。他には国語の時間や外国語の活動で文法を教える時に授業での経験を生かすことができると感じました。

国際交流活動論と聞くと、外国について学ぶのかと思っていたが、日本語について学ぶことにまず驚いた。確かに国際交流を行う上で、自国のことについて知らなければ他国との交流もままならないのではないかと思います。今回の講義で詳しく日本語について学ぶことができて大変良かったと思う。

英語に変換することで文法上の違いに気付くこともあり、他の言語と比較することでその言語についての理解が深まることもあるのだと実感した。

自分の国についてももっと知っておかなければいけないと感じました。日本について聞かれた時にたくさんのことを自信を持って伝えられるといいと思いました。

今までは、日本人はほかの国よりも英語の勉強をしなくて、英語を話そうとしないから他の国よりも英語で会話する能力がないのだと思っていたけど、言語の特徴的に英語と日本語は全く違うなと授業を通して思ったので、やはり英語を話さなければ生きていけないような環境にいないと私たちはなかなか英語での会話能力は向上しないなと思った。

日本語という言語を客観的に見つめ直すことができたと感じる。今まで感覚的に使ってきたが、改めて文法を学ぶと英語以上に複雑で曖昧な印象を受けた。すべてをマスターしたわけではないが、日本語の教え方を学ぶのは新しいことを学んでいるようで面白かった。また、自国のことについて知らなすぎるということを実感するきっかけになった。

「国際交流」というと英語で外国人と話すというような浅はかな意味で今まで認識していたが、それはただの言語の練習でしかないと感じた。真の意味で国際交流するのなら、まず自国について知り、聞かれたらそれを説明できるくらいにしておかなければならないと感じた。

日本語が母国語である私でも日本語について知らないことがたくさんあって驚きました。「わっしょい」とか「てんやわんや」とか、普段は何気なく使っていても実際に他人に説明するのが難しいことだと分かりました。日本語について勉強しなければ外国の人に日本語をちゃんと教えることはできないなと思いました。

今、中華料理屋さんでバイトをしていて中国の方々がたくさん働いています。その人たちは今も日本語を勉強しています。私がこの前に「明日」といっても通じなくてどうして聞き取れないんだろうと思っていました。外国の人々はそれぞれ聞き取れる音が違うということを知って話す時は気を付けて話そうと思いました。

日本語を母語としない国籍の人々がどのように日本語を学び、その過程でどのようなつまづきや発見があるのかといったことを客観的に捉えることができるとよい機会になった。

私は、春休みにアメリカに語学研修に行ったのだが、その大学の学生のなかでも日本語学科に通ったり、日本の文化に親しみをもって関わっている学生がいた。日本語は決して閉ざされた言語ではなくなったということを実感し、少しでもそのような学生の手助けになりたいと今回の学習を通して思った。

自身の経験としても、サークル活動や短期留学等で留学生の方とは触れ合うことがなにかと多かったので、とても身になる授業を受けさせていただきました。また今度国際交流センターに行きます。

日本語についてはあまり学ぶ機会がなかったのですが、母国語について真剣に考える機会を持つことができよかったですと思います。この経験を、今後英語を学ぶ際に役立てたいです。

### (3) 日本人（教員）・受講者の所見 免許状更新講習「教養としての日本語教育」の受講生より

日本語を学ぶ立場に立って考えるというのは自分にとってとても新鮮な感覚でとても勉強になりました。

日本語教育と国語教育が違うものだということがよく分かりました。退職後、私はボランティアで外国人の子どもに日本語を教えたいと思っています。

日本語=国語だと思い参加しましたが、全く違うものだということが改めて感じました。普段当たり前に使っている品詞、動詞や助詞などを学び直してみると、とても難しいなと思いました。…〈中略〉…外国の方たちが日本語を学ぶのが大変だろうと思いました。外国人の保護者との対応の場面で、保護者の気持ちに添って丁寧に対応したいと思いました。

外国人が日本語を理解したいのは、ひらがな、漢字、カタカナがあるからだと思っていたが、動詞、助詞などいろいろ難関な点があることが分かった。

普段特に意識して話すことがない“日本語”、意識して勉強すると難しいものだと実感させられました。そして保育者としてもきれいな言葉を子どもたちの耳に入れていきたいと思います。

自分は当然のように習得した日本語について、詳しく誰かに説明したり、なぜこうなるのか、というのを考えたりしたことはなかったと思います。今日、日本人の私も発見の連続で、とても興味深く聞くことが出来ました。もし私が外国人だったら、確かに「ここがどうしてこうなるのだろう」と疑問に思うところが納得できた気がします。

日本人向けにこのような講義がされることはあるのだろうか。ちゃんと日本語を理解するというのは、愛国心みたいなものも高まっているのではないかなと思う。

17年前に4カ月に渡って日本語教育の研修を受けたことがあるが、まだまだ未知の項目がたくさんあると感じた。外国語教育に携わる者としてまだまだ勉強していかなければならないと思う。…〈後略〉…

日本人でありながら、乏しい日本語に関する知識を実感できて、とてもためになった。

国語教師の発想では本当に分からないものもあり勉強になった。タレントさんでも留学生の方でも、日本に住む外国人の方はうまく日本語を使っていられる。本当に尊敬してしまう。自分は英語でさえ満足に話せないのに、普通の日常の日本語は話せるし、半分プロなのでせめて日本語の使い方の説明が分かりやすく出来るように、さらに勉強していきたい。

国語とは違った日本語としての文法の面白さが感じられました。…〈中略〉…文法的なことよかったです。日本語非母語話者の立場から感じる日本語の難しさや意識の違いをもっと知りたいと思いました。

いつも何気なく使っている日本語について考える良い機会になりました。今日のような見方をしていくと、日本語、語学って面白いなと興味が湧きました。

外国人が日本語を学ぶ視点で全く未知の世界でしたが、辞書形やマス形、テ形などとても興味深いものだと感じました。私は毎日園児との関わり特にブラジルの子が多いので、その子たちにどうやって接していけばよいか等、具体的な事も聞けたらよかったですと思いました。

日本語を改めて学ぶ事がとても新鮮でもう少し学んでみたい気持ちが出てきました。日本語の奥の深さを感じました。明日から子ども達に少しでも素敵な日本語が伝えられたらと思います。

私自身、日本語を大切に話したいなと思いました。また、今の学校にはいませんが、外国籍の日本語が話せない子と接する際にも話し方に気を配っていきたくたいです。





# III 年報



2016年4月  
▼  
2017年3月



# 1. 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告 (2016年4月～2017年3月)

副島 健治

バハウ・サイモン・ピーター

## 1 はじめに

富山大学留学生センター(1999年4月1日設置)が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活と修学に関わる指導だけでなく、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生を海外に送り出すなど、センターの機能と役割が拡大した意味合いを持つように位置付けられた。

本報では2016年4月～2017年3月において、日本語教育以外の部分に関わる本センターの主な業務について報告する。

## 2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言、および富山大学の学生の海外留学にかかる支援

コンサルテーションアワーを毎週火曜日と木曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。相談者数は122人で、面談の件数はのべ130件であった。

130件の内訳は、外国人留学生に対する指導・助言(42件)、日本人学生に対する指導・助言(80件)、その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等から)の相談への指導・助言(8件)であった。海外留学相談については、センター内に「留学情報資料室」を設置して海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の留学にかかる相談を受けている。

また、相談における主な希望留学先は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド等の英語圏諸国、フィンランド、スイス、フランス、タイなどであった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：122人

(内訳) 人文学部(37人)、人間発達科学部(16人)、経済学部(18人)、理学部(14人)、工学部(25人)、理工学教育部(10人)、医学薬学教育部(2人)

## 3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

### (1) 「日本事情」教育

「日本事情」の授業は、国際交流センターの日本語研修コースに位置付けられていたが、日本語研修コースは前期後期ともに不開講であったため、後期においてのみ日本語課外補講の1つの科目として開講された。本授業では、受講する留学生の他に留学生の先輩や日本人学生にもサポートに入ってもらい、合同授業を行った。この授業は、教師を含む授業参加者相互の対話型(インターアクティブ)の形態をとり、留学生自身のまなざしを通して、日本の文化と日本以外の国の文化との異なる点および類似性の両方を認識するとともに、留学生がそれを理解し、そのことを日本(富山)での学修や生活に活かしていけるようにすることが目的である。また、その授業を進める経緯の中で日本人学生のサポートもあって、留学生の日本語の運用力の向上も促進されていくという副産物も期待され一定の成果があった。

また、富山大学の学生の海外留学にかかる支援の一環として、「日本事情」受講の留学生と、海外留

学を目指して準備している日本人学生の合同授業を行ない、日本や留学生の出身国・地域の事情などについて、日本語と英語で交流・交換する授業が実現した。その成果としては、双方にとっても有意義な経験となったことである。今後もこの取り組みは、学内における1つの国際交流と異文化理解促進の活動として継続していきたい。

## (2) スタディ・エクスカーション

センターが主催して、毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学生と日本人学生との交流を目的として、近隣の文化施設等を見学するスタディ・エクスカーションを実施している。2016年度は、前期に2回、後期に1回実施した。

### ・前期のスタディ・エクスカーション（前期1回目）

#### <実施日・見学場所>

2016年5月13日（金） 天気：晴天

新湊かまぼこ夢テラス海王，海王丸パーク，  
県営渡し船，新湊大橋（あいの風プロムナード）

移動手段：バス

#### <参加者数>

外国人留学生	19人		
日本人学生	6人		
教職員	6人	合計：31人	



2016年5月13日（金）  
（新湊かまぼこ夢テラス海王にて）

### ・前期のスタディ・エクスカーション（前期2回目）

#### <実施日・見学場所>

2016年7月13日（水） 天気：曇り

五百羅漢・富山市民俗民芸村

移動手段：バス

#### <参加者数>

外国人留学生	17人		
日本人学生	5人		
教職員	4人	合計：26人	



2016年7月13日（水）  
（富山市民俗民芸村にて）

### ・後期のスタディ・エクスカーション

#### <実施日・見学場所>

2016年11月9日（水） 天気：快晴

五百羅漢・富山市民俗民芸村

移動手段：バス

#### <参加者数>

外国人留学生	10人		
日本人学生	3人		
教職員	5人	合計：18人	



2016年11月9日（水）  
（富山市民俗民芸村にて）

スタディ・エクスカーション実施後にアンケートを実施した。アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多かった。「不満」と答えた者はゼロであった。参加学生



の満足感はいへん高くこの企画が大変好ましく受け止められていることが分かった。また「他に行きたいところ」として立山などを提案する意見があった。

また、今回のエクスカージョンでは、出来るだけ日本人学生と外国人留学生の混合のグループで活動するようにしたことから「小グループで行動することでより親睦を深められた」という意見があった。実施の日時については、午前の授業が終わって午後からの活動であったため時間的にタイトになってしまい、「授業の後にやるべきではない」などの改善を求める意見もあった。

### (3) ホームビジットとホームステイ

センターでは、日本語研修コースで学ぶ留学生を対象として、日本の家庭に滞在し異文化体験をさせるために、ホームビジット（日帰り）またはホームステイ（1泊2日）を実施しているが、2016年度は日本語研修コースが不開講だったため対象学生がおらず実施しなかった。

### (4) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

センターの談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、大学の学生サークル「パートナーズ」（後掲）が外国人留学生と日本人学生の交流を目的として、下のような「交流会」を企画し実施した。

<実施日時・参加者数>

2016年6月1日（水）	15:30～17:30	Welcome Party	参加人数：28人
2016年6月29日（水）	15:30～17:30	料理交流会	参加人数：28人
2016年12月14日（水）	15:30～18:00	Year-End Party	参加人数：40人
2017年1月25日（水）	15:30～18:00	Farewell Party	参加人数：35人

## 4 関係団体との連携と協力

### (1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

平成28年度センター教員が直接参加、協力した主な国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
“G7 環境大臣会合富山会合に向けて変わりゆく地球とともに生きる”	5月14日（土）	富山大学	英語セッション 翻訳・通訳 座長
G7 環境大臣会合富山会合	5月14日（土） ～5月16日（月）	環境省、富山県、富山市	通訳・案内
2016年 第一回 ウイメンズ ウィングトヤマ 交流・学習会	5月22日（日）	富山市民国際交流協会 ウイメンズ ウィング トヤマ	講演
富山テレビ ACT クラブ賞 受賞式	6月 2日（木）	富山テレビACTクラブ	受賞
ルンビニ園児との田植え体験	6月 4日（土）	富山ライオンズクラブ	参加
遠足飛騨古川	6月 5日（日）	富山市民国際交流協会	参加
第26回世界少年野球大会富山大会	8月17日（水） ～25日（木）	[主催]（一財）世界少年野球推進財団、（公財）日本野球連盟、富山県、高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市 [主管] 世界野球ソフトボール連盟（WBSC）	調整対応

カンボジア国研修生との交流行事	9月1日(木)	富山県カンボジア協会	参加
パプアニューギニア理解講演会	9月6日(日)	富山県青年国際交流機構	講演
ルンビニ園児との稲刈り体験	9月25日(土)	富山ライオンズクラブ	参加
国際フェスティバル	11月13日(日)	富山市民国際交流協会	参加
新年交流会	2017年 1月15日(日)	富山市民国際交流協会	参加

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「平成28年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

## (2) 関係団体等との連携

国際交流センターと関係諸団体との連携と協力の関係はたいへん重要であり、そのような意味において、必要に応じて情報交換している。下のセンターへの来訪があった。

- 2016年5月18日(水) 16:30 富山県知事政策局生涯スポーツ担当 野口貴史 主任  
同上 島谷達雄 副主幹  
※「第26回世界少年野球大会富山大会」打ち合わせ
- 2016年6月22日(水) 17:30 JICA 北陸 仁田知樹 支部長  
JICA 国際協力推進員(富山県デスク) 船木愛 推進員
- 2016年7月26日(火) 10:30 富山県富山西警察署 藤井肇警部補
- 2016年8月10日(水) 10:00 富山昭和ライオンズクラブ 砂川武司 国際協調委員長

## 5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留學生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内をセンターの談話室に掲示している。海外の大学への留學に関する情報については、談話室の書架およびセンター2階の留學情報資料室を開放し提供している。

## 6 外国からのセンター訪問

国際交流センターに以下(非公式なものを除く)のような外国からの訪問があり、意見・情報交換等を行った。

- 2016年5月17日(火) 米国, インディアナ大学-パデュー大学 フォートウェイン校より  
山田 恵美子(社会学部 准教授)および学生6名 ※ 授業見学等
- 2016年12月20日(火) オランダ, ライデン大学より  
吉岡 慶子(人文学部 地域研究学院 日本研究科 日本語教育主任)
- 2017年2月15日(水) フランス, オルレアン大学より(4名)  
Jennifer KROUBO DAGNINI(国際交流担当課長)  
Julien Prud'homme(留学生受け入れ担当)  
Marie-Astrid de Lambilly(留学生送り出し担当)  
Anne-Claire Mauny(フランス語学院短期研修プログラム担当)

## 7 オリエンテーション

### (1) 新入留学生のためのオリエンテーション

学部, 総合情報基盤センター, 国際部留學支援課, 学務部学生支援課, キャリアサポートセンター等

の協力により、全学のオリエンテーションとは別に、学部新入留学生だけではなく、大学院留学生も対象としたオリエンテーションを実施した。また、前期は正規生のためのオリエンテーションと非正規生を対象としたオリエンテーションを分けて実施したが、後期は正規生、非正規生を合同でオリエンテーションを行なった。

[前期]

#### 新入外国人留学生のためのオリエンテーション（正規生対象）

<実施日時・場所>

2016年4月4日(月) 9:00~12:00 (五福) 共通教育棟D11  
(杉谷) 看護学科研究棟11教室  
(高岡) H棟2階CALL教室

<参加者>

学部生:19人(五福18人,高岡1人)

大学院生:59人(五福13人,杉谷46人(うち2人は非正規生))

<オリエンテーションの主な内容>

<全体> 9:00~11:45

- 1) 生活上の留意事項について (国際交流センター)
  - 2) コンピュータ・ネットワークの不正利用, 知的財産等の取扱いについて  
(総合情報基盤センター)
  - 3) 学生なんでも相談窓口について (学生支援センター)
  - 4) 就職支援について (学務部就職支援課)
  - 5) 授業料納入, 授業料免除制度, 学研災等について (学務部学生支援課)
  - 6) 各種奨学金, 国民健康保険料補助申請について (国際部留学支援課)
  - 7) その他  
(学部ごと) 11:45~12:00 (杉谷キャンパを除く)
- 各学部からの説明

#### 新規来日留学生(非正規生)のためのオリエンテーション

2016年度の前期においては、学部、大学院各研究科・教育部の新規来日の留学生(正規生)のオリエンテーションとは別に非正規生の留学生つまり、研究生、科目等履修生、特別聴講学生を対象としたオリエンテーションを実施した。このオリエンテーションには上の4月4日(月)の行なわれたオリエンテーション(正規生対象)に事情があって参加できなかった正規生も参加した。

<実施日時・場所>

2016年4月13日(水) 12:20~12:50 (五福) 共通教育棟A棟3階A32教室

<参加者>

12人(うち4名は正規生)

<オリエンテーションの主な内容>

- ・学内・学外における諸手続きについて
- ・学生生活について
- ・留意事項・危機管理について

[後期]

#### 10月入学新入外国人留学生のためのオリエンテーション

<実施日時・場所>

2016年10月19日(水) 16:30 (五福) 共通教育棟1階D11教室  
(杉谷) 看護学科研究棟11教室

<参加者>

大学院生：13人（五福3人，杉谷10人），非正規生：31人（五福31人）

<オリエンテーションの主な内容>

前期の正規生のためのオリエンテーションとほぼ同様。

## (2) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために，時間割作成の支援として，学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日時・場所>

2016年4月8日(金) 17:30～19:00 共通教育棟1階C11教室

<参加者数>

新入留学生 11人，協力した先輩留学生 10人

## 8 日本人学生の留学に関する啓発にかかる活動

2015年度においては，海外留学を目指している富山大学の学生を対象として，国際交流センター主催の夏季セミナーを2回開催し海外への留学の促進をはかったが，その実績を踏まえ，2016年度（前期と後期）においては，水曜日3限目に教養教育のコロキアム科目（単位は出ない）の授業として「留学のための教養講座」を開講した。講師は，国際交流センターの教員が担当した。

また，2016年度の後期の人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」（コーディネータ：人間発達科学部 橋爪和夫教授）の講義を国際交流センターの教員が担当した。

講義内容は平成28年度のシラバスに詳しいが，両授業いずれも「日本（語）文化」と「留学」をキーワードにしたものであった。また，「国際交流活動論」においては，特に卒業後，初等・中等教育に携わる可能性のある学生が多かったため，昨今の教育現場に外国人子弟が少なくないという状況を鑑みて，日本語教育の視点から講義する部分が多かった。

受講者数および内訳は以下の通りである。ただし，コロキアムの科目の受講生数については，履修登録だけして出席しなかった学生は除き，登録せずにそのまま継続して参加した学生を含む。

コロキアム「留学のための教養講座」（前期）16名（うち1名は未登録）

内訳：人発(3)，経済(1)，人文(9)，理(1)，工(2)

（後期）8名

内訳：経済(2)，人文(1)，理(5)

「国際交流活動論」（後期）7名

内訳：人発(7)

## 9 その他

### (1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体(名称「Partners」)の活動への助言を行った。

### (2) 平成28度富山県留学生等交流推進会議総会・「留学生との座談会」への協力

下記のように，平成28度富山県留学生等交流推進会議総会にセンターの教員が参加し，あわせて行なわれる「留学生との座談会」にかかる留学生によるパネルディスカッションをコーディネートし，参加留学生の指導を行なった。

日時：2016年6月22日(水) 13:30～16:00（パネルディスカッションは15:00～16:00）

場所：富山大学五福キャンパス事務局5階大会議室

テーマ：「外国人留学生から見た富山県の留学支援と県内企業への就職」

参加留学生：5人

(留学生内訳)	富山大学 大学院 理工学教育部 卒業	(ベトナム出身・男性)
	富山大学 大学院 理工学教育部 卒業	(中国出身・男性)
	富山県立大学大学院工学研究科 在学	県費留学生 (インドネシア出身・男性)
	富山大学 大学院 医学薬学教育部 在学	県費留学生 (タイ出身・女性)
	富山大学 大学院 理工学教育部 在学	県費留学生 (インドネシア出身・男性)

### (3) 国際交流センター教員の学外の賞の受賞

国際交流、異文化理解、地域交流にかかる種々の活動が認められ、富山テレビ ACT クラブ（事務局は富山テレビ放送内に置かれる）より富山県内で活躍している社会人に贈られる第17回（2016年）「富山テレビ ACT クラブ賞」を国際交流センターのバハウ教授が受賞した。受賞の様子は富山テレビ放送「BBT チャンネル 8」にて放送された（放送日時：5月25日（水）18：15～18：55）。

## 10 おわりに

国際交流センターは、その役割を果たすために本学の関係者をはじめとして、学外の諸団体、地域の方々の温かい理解と協力、多大な支援を頂いている。そのことについて、まずはこの誌面を借りて感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターは発展的に解消し、2013年10月に国際交流センターと名称を変え、従来の外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学上および生活上の指導助言などを行うという役割だけでなく、さらには外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生の海外への送り出しなど、その課される役割は大きく拡大した意味合いを持つように位置付けられた。センターに課せられたミッションはたいへん重い。それと同時に、その役割を果たすための課題も浮き彫りとなって来ている。国際交流センターは何をするように期待されており、出来ることはどのようなことかを再考する時期であろう。そして、限られた人材と予算等と向き合いながら、そのことを踏まえた上で、全学的にセンターの業務についての共通理解をはかり、センターとして一層の努力をしていくことが求められていると言える。

## 2. 日本語プログラム報告 (2016年4月～2017年3月)

田中 信之  
小木曾左枝子  
濱田 美和  
副島 健治

国際交流センターでは、富山大学に在籍する外国人留学生のための日本語プログラムとして、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラム、これら4つを提供している。2016年度は、前期、後期ともに日本語課外補講、総合日本語コースを開講した。日本語研修コースと日韓共同理工系学部留学生プログラムについては、2016年度は学生の配置がなかったため、開講しなかった。

2016年度は、前期に60人、後期に69人の外国人留学生がセンターの日本語プログラムを受講した。各日本語プログラムでは、専任教員がコーディネーターを務め、毎日の授業内容と学生の出欠状況を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用して受講者の学習の進捗状況を把握し、日々の授業に取り組むことができた。

2016年度後期は、日本語研修コースが開講されなかったため、日本語研修コース専用科目は日本語課外補講の授業として開講することにした。そして、2017年度以降も日本語研修コースの学生の配置がなかった場合に対応しやすいように、また、2017年度前期に新規開講予定のライデン大学短期日本語研修プログラムの運営が円滑に行えるように、2017年度に向けて日本語プログラム全体の時間割の見直しを行った。

2016年度は、日本語プログラム以外にも、留学生の日本語学習を支援するためのサイト「日本語学習支援サイトRAICHO」の運営を継続して行い、富山大学で学ぶ留学生の日本語学習を授業以外の面からも支援した。

以下、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラム、日本語学習支援サイトRAICHOの順に、2016年度の活動状況について報告する。

# 日本語研修コース報告 (2016年4月～2017年3月)

田中 信之

## 1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。1999年10月に富山大学国際交流センターの前身である留学生センターが開設され、第1期日本語研修コースが開講した。2013年10月に留学生センターが改組、国際交流センターが設置され、2016年3月には第33期生を送り出した。

## 2 2016年度前期富山大学への学生配置について

文部科学省から本学へ1人(ベトナム人)の配置照会があったが、受入教員が他大学に転出したため、学生配置がなくなった。

## 3 学内公募の実施

富山大学に配置される国費研究留学生・教員研修留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。2016年4月開講の日本語コースも従来どおり、学内公募を実施したが、受講申し込みがなかった。そのため、日本語研修コースは開講しないこととなった。

## 4 2016年度前期日本語研修コース専用科目の対応について

これまで日本語研修コースは、日本語課外補講との合同授業を行ってきた。そのため、合同授業はそのまま日本語課外補講の授業として開講されるが、日本語研修コース専用の科目は別途対応する必要があった。そこで、文法A1(田中担当)2コマは、文法A1(火曜3限)と漢字A1(木曜3限)として開講した。コンピュータB1(濱田担当)1コマは漢字B1(水曜1限)として開講した。それ以外の日本語研修コース専用の科目は不開講とした。

## 5 2016年度後期日本語研修コースの開講要件について

2016年度前期の学生配置の状況から、平成28年度第4回国際交流センター教員会議(2016年7月25日(月)開催)において、文部省からの大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生の配置がない場合、日本語研修コースを開講しないこと、日本語研修コース専用クラス(特別指導を除く)はすべて日本語課外補講の授業として開講すること、を決定した。

## 6 2016年度後期富山大学への学生配置について

文部科学省からの大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生の配置がなかった。

## 7 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、これまでに文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて205人がこのコースを修了している。しかしながら、今年度は学生配置が一人もなかった。このような状況の下、今後も学生配置がないことが予想されるため、日本語研修コースは、国際交流センターの他の日本語プログラムとも連携をとりながら、より効率化を図っていかねばならない。

# 日本語課外補講報告 (2016年4月～2017年3月)

小木曾 左枝子

## 1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラスを開講している。2016度は、前期(2016年4月～9月)と後期(2016年10月～2017年3月)にそれぞれ15週間開講した。

以下、2016年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、2005年10月に富山大学(五福キャンパス)、富山医科薬科大学(杉谷キャンパス)、高岡短期大学(高岡キャンパス)の3大学が再編・統合したことにより、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパスにおいて国際交流センター(旧留学生センター)が実施するものと、杉谷キャンパスにおいて医学部所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものとの2つとなったが、本稿では、五福キャンパスで国際交流センターが実施している日本語課外補講について報告する。

## 2 受講者

前期は、初級クラスが19人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが22人(うち4人は初級クラス、3人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが26人(うち3人は中級クラスも同時に受講)、計60人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した60人の在籍身分別の内訳は、大学院生25人、特別聴講学生15人、研究生6人、特別研究学生5人、教員研修生1人、科目等履修生(県費留学生)8人である。国・地域別の内訳は、中国31人、台湾5人、ロシア3人、アメリカ、インドネシア、タイ、バングラデシュ、ベトナム、ミャンマー各2人、アルバニア、インド、韓国、スイス、スリランカ、フランス、ブラジル、ブルキナファソ、モンゴル各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部17人、経済学研究科11人、人文学部12人、経済学部7人、人間発達科学部5人、生命融合科学教育部3人、人文科学研究科2人、医学薬学教育部、工学部各1人である。

後期は、初級クラスが18人(うち1人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが19人(うち1人は初級クラス、7人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが40人(うち7人は中級クラスも同時に受講)、計69人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した。69人の在籍身分別の内訳は、大学院生27人、特別聴講学生18人、研究生14人、特別研究学生6人、科目等履修生(県費留学生)4人である。国・地域別の内訳は、中国41人、韓国5人、台湾、ベトナム各4人、タイ3人、インドネシア、バングラデシュ、ロシア各2人、アルバニア、インド、シリア、フィンランド、ブラジル、モンゴル各1人である。また、所属別の内訳は、人文学部19人、理工学教育部15人、経済学研究科12人、経済学部9人、工学部6人、生命融合科学教育部3人、医学薬学教育部2人、人文科学研究科、人間発達科学部、人間発達科学研究科各1人である。

なお、協定校からの短期留学生については、日本語課外補講上級クラスで開講している科目を、総合日本語コースの科目として受講している(詳細は、総合日本語コース報告を参照)。

## 3 授業担当者

前期はセンター専任教員3人(副島健治、濱田美和、小木曾左枝子)、及び謝金講師9人(加藤敬子、高島智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、山本百合子、要門美規、横堀慶子)が、後期はセンター専任教員5人(副島健治、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和、田中信之、小木曾左枝子)、及び謝金講師7人(高島智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、



横堀慶子)が授業を担当し、専任教員の小木曾左枝子がコーディネートを行った。

## 4 授業日程

前期は2016年4月11日(月)～7月29日(木)を授業期間とした。後期は2016年10月7日(金)～2017年2月9日(木)を授業期間とした。12月22日(木)～1月4日(水)は冬季休業、1月13日(金)は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、1月10日(火)は月曜日の授業を行った。

オリエンテーションは、前期は4月7日(木)、後期は10月5日(水)に開催した。専任教員5人(副島健治、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和、田中信之、小木曾左枝子)がオリエンテーションを行った。オリエンテーションの案内は、国際交流センターのホームページに掲載する他、日本語、英語、中国語の3カ国語表記で作成したポスターを五福キャンパス内の各学部及び国際交流センター談話室に掲示し、また、学期初めに発行される国際交流センターニュースの掲示板でも紹介した。国際交流センターのホームページでは、時間割や授業概要(日本語、英語版を用意)の閲覧、それから、受講申請書をPDFファイルとしてダウンロードできるようになっている。オリエンテーションでは、受講希望者一人一人とセンター専任教員が面接し、受講者の日本語の習熟度に応じたクラスを紹介し、受講申請書の提出により、登録を行った。ただし、来日時期が遅れる学生等については、コーディネーターが面接を行った上で、開講期間の途中からの受講も認めた。

## 5 授業内容

### 5.1 時間割

五福キャンパスでは前期は週41コマ、後期は週43コマ授業を行った。前期の時間割を表1、後期の時間割を表2に示す。

表1 2016年度前期 日本語課外補講(五福)時間割

曜	限	初級クラス	中級クラス	上級クラス	
月	1	文法 A1 (加藤)	文法・表現 B1a (高島)		
	2	文法 A1 (加藤)	文法・表現 B1a (高島)	表現技術 C1 (濱田)	
	3	読解・作文 A1 (加藤)	漢字 B1 (濱田)	漢字 C1 (高島)	
火	1	文法 A1 (要門)	文法・読解 B1a (松岡)	文法 C1 (濱田)	
	2	文法 A1 (要門)	文法・読解 B1a (松岡)	読解 C1a (藤田)	
	3	文法 A1 (田中)	聴解 A1 (藤田)	会話 C1 (松岡)	
水	1	生活日本語 A1 (要門)	文法 A1 (高島)	文法・表現 B1b (中河) 漢字 B1 (濱田)	
	2	生活日本語 A1 (要門)	文法 A1 (高島)	文法・表現 B1b (中河)	
	3		漢字 A1 (小木曾)	会話 B1 (横堀)	聴解 C1 (要門)
	4				日本文化 C1 (中河)
木	1	文法 A1 (永山)	文法・読解 B1b (副島)		
	2	文法 A1 (永山)	文法・読解 B1b (副島)		
	3		漢字 A1 (田中)	聴解 B1 (横堀)	読解 C1b (永山)
金	1	文法 A1 (山本)	文法 B1 (小木曾)		
	2	文法 A1 (山本)	文法 B1 (小木曾)	作文 C1 (松岡)	
	3		会話 A1 (小木曾)		

\* 1 限 8:45～10:15, 2 限 10:30～12:00, 3 限 13:00～14:30, 4 限 14:45～16:15

表 2 2016年度後期 日本語課外補講（五福）時間割

曜	限	初級クラス		中級クラス	上級クラス
月	1		文法 A2 (要門)	文法・表現 B2a (高島)	
	2		文法 A2 (要門)	文法・表現 B2a (高島)	表現技術 C2 (濱田)
	3			漢字 B2 (濱田)	漢字 C2 (高島)
火	1		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2a (松岡)	
	2		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2a (松岡)	
	3		聴解 A2 (藤田)	漢字 B2 (濱田)	会話 C2 (松岡)
	4			読解・語彙 B2 (小木曾)	読解 C2a (藤田)
水	1	生活日本語 A2 (要門)	文法 A2 (高島)	文法・表現 B2b (中河)	
	2	読解・作文 A2 (要門)	文法 A2 (高島)	文法・表現 B2b (中河)	
	3		漢字 A2 (小木曾)	会話 B2 (横堀)	聴解 C2 (要門)
	4		日本事情 AB2 (バハウ)		日本文化 C2 (中河)
木	1		文法 A2 (永山)	文法・読解 B2b (副島)	
	2		文法 A2 (永山)	文法・読解 B2b (副島)	文法 C2 (濱田)
	3			聴解 B2 (横堀)	読解 C2b (永山)
	4		語彙・作文 A2 (横堀)	コンピュータ B2 (田中)	
金	1		文法 A2 (永山)	文法 B2 (小木曾)	
	2		文法 A2 (永山)	文法 B2 (小木曾)	作文 C2 (松岡)
	3		会話 A2 (小木曾)	作文 B2 (田中)	

\* 1 限 8:45~10:15, 2 限 10:30~12:00, 3 限 13:00~14:30, 4 限 14:45~16:15

## 5.2 初級クラスの授業内容

五福キャンパスでは、前期、後期ともに、月曜日から金曜日まで毎日午前中 2 コマ連続で「文法」の授業と、午後に前期、後期ともに、「聴解」、「会話」、「漢字」、「読解・作文」の授業を、後期はこれら授業に加え、「語彙・作文」と「日本事情」（後期のみ）の授業を各1コマ行った。また、毎日、日本語の授業に出席することが困難な学生のために、前期は「生活日本語」の授業を、後期は「生活日本語」と「語彙・作文」の授業を週 1 回 2 コマ連続で行った。また、前期には、過去に初級クラスを受講した学生で、既習項目の復習が必要な学生のために、別途「文法」（火曜日の 3 限）と「漢字」（木曜日の 3 限）の授業も設けた。

週10コマの「文法」の授業では、『みんなの日本語 初級』I, II（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、教科書を 1 日 1 課ないしは 2 日に 1 課のペースで初級文型の導入及びその定着のための練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』（独自開発教材）を用いた発音練習も適宜取り入れた。

表 3 初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度

第 1 週	1 課～4 課		第 9 週	30 課～32 課	
第 2 週	5 課～7 課	1 課～6 課試験	第10週	33 課～35 課	26 課～32 課試験
第 3 週	8 課～11 課		第11週	36 課～38 課	
第 4 週	12 課～14 課	7 課～12 課試験	第12週	39 課～41 課	33 課～38 課試験
第 5 週	15 課～18 課		第13週	42 課～45 課	
第 6 週	19 課～22 課	13 課～18 課試験	第14週	46 課～48 課	39 課～45 課試験
第 7 週	23 課～26 課		第15週	49 課～50 課 復習	日本語能力試験 N4 模擬試験
第 8 週	27 課～29 課	19 課～25 課試験			

「聴解」の授業では『みんなの日本語初級 聴解タスク25』（スリーエーネットワーク）を中心に様々な聴解教材を用い、初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度に合わせて、聴解練習を中心に行った。

「会話」の授業では、ロールプレイや口頭発表を通して、午前の「文法」の時間に学んだ文法事項を定着させるための応用練習などを行い、話す力を伸ばすことを目指した。

「語彙・作文」「読解・作文」の授業では『みんなの日本語初級 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）、『みんなの日本語初級 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）を用い、午前の「文法」の授業進度に合わせて、読解・作文練習を中心に行った。

「漢字」の授業では、『(新版) Basic Kanji Book Vol.1』（凡人社）を用い、漢字を勉強するために必要な知識を身につけると同時に、漢字の読み書きが正確にできるようになることを目指しながら、自分に適した漢字学習ストラテジーを身につけるためのディスカッション等も行った。

「生活日本語」の授業では、『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1日1～2課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

初級・中級合同で行った「日本事情」（後期のみ）の授業では、日本社会について学び、さらに習得した日本語を実際に使う機会を提供した。

### 5.3 中級クラスの授業内容

五福キャンパスでは、前期、後期ともに、午前中は週2日「文法・読解」、週2日「文法・表現」、週1日「文法」の授業をいずれも2コマ連続で行い、午後は前期、後期ともに、「聴解」、「会話」、「漢字」の授業を、後期はこれらの授業に加え、「語彙・読解」、「コンピュータ」、「作文」、「日本事情」の授業を各1コマ行った。

「文法・表現」の授業では、『ジェイ・ブリッジ』（凡人社）をメインテキストとして、3コマの授業で1課進むペースで、初級の文型や表現を整理、復習するとともに、中級の文型や表現を導入し、それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて、運用できるよう談話練習なども行った。

「文法・読解」の授業では、『日本語中級 J 301』、『日本語中級 J 501』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、『日本語中級 J 301』は1日（2コマ）の授業で1課進むペース、『日本語中級 J 501』は2日（4コマ）の授業で1課進むペースで、それぞれ中級の語彙や文法事項を導入し、主に読解の力を伸ばすための練習を行った。

「文法」の授業では、『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1日（2コマ）の授業で1課進むペースで、初級文型の確認をしながら、初中級レベルの文型と表現の導入及び練習を行い、学習事項を定着させるための作文や会話練習などの応用練習も行った。

「聴解」の授業では、『日本語生中継 初中級編』1, 2（くろしお出版）を用い、中級の語彙や表現を確認しながら、聴解練習を行った。

「会話」の授業では、「文法・読解」の授業でのメインテキスト『日本語中級 J 301』、『日本語中級 J 501』を部分的に用いて、話し合いやプレゼンテーションの練習を中心に、大学生活や日常生活で出会う場面に応じた日本語を使って、適切に話すための練習を行った。

「漢字」の授業では、『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.1（凡人社）を用いて漢字・漢字語の読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。また、2016年度は前期水曜日1限、後期火曜日3限に別クラスを設け、こちらのクラスでは『BASIC KANJI BOOK 基本漢字500』Vol.2（凡人社）を用いて漢字・漢字語の読み方を中心に指導を行った。

「読解・語彙」の授業では、語彙知識、読解スキルを向上させるための様々な活動を行った。そして、ディスカッションなどを通して、語彙学習ストラテジーや読解ストラテジーについて考える機会も設け

た。

「コンピュータ」の授業では、日本語によるコンピュータ操作の基礎を学び、その後、プレゼンテーションソフトを使って発表資料の作成、発表の練習を行った。学習者がテーマを設定したうえで、日本語で10分程度のプレゼンテーションができるようになることを目標とした。

「作文」の授業では、『改訂版大学・大学院 留学生の日本語 2 作文編』（アルク）等を用いて、作文の基礎を学び、段落作成練習、意見文を書く練習を行った。達成目標は、自分の考えを、根拠を挙げて筋道立てて書けるようになること、文法・語彙・表現を適切、かつ効果的に使用できるようになることであった。

初級・中級合同で行った「日本事情」の授業では、日本社会について学び、さらに習得した日本語を実際に使う機会を提供した。

#### 5.4 上級クラスの授業内容

五福キャンパスでは、前期、後期ともに、「読解」の授業を週2コマ、「作文」、「聴解」、「会話」、「文法」、「表現技術」、「日本文化」の授業をそれぞれ週1コマ行った。上級クラスの授業は、2期連続して受講する学生のために、以前から前期と後期で扱うテーマや教材等を変えて対応しているが、授業目的や進め方等の授業概要は同じであるため、以下、まとめて報告する。

「読解」の授業は、前期は「読解 C1a」と「読解 C1b」の授業名で、後期は「読解 C2a」と「読解 C2b」の授業名で2科目を設けた。

「読解 C1a」（前期）は『絶対合格！日本語能力試験徹底トレーニング N1 読解』（アスク出版）を、「読解 C2a」（後期）は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N1』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとし、文章のしくみを理解し、細かい部分を正確に読み取る練習を行った。また、各人の漢字語彙力向上のサポートとして、語彙マップを用いての漢字語彙の導入、自宅学習後の小テストをクラス内で行った。

「読解 C2a」「読解 C2b」は、現代日本社会の問題を扱った新聞記事、文学作品、教養書などの生教材を利用し、初めに論理構成を把握させ、効率的な読みの練習を心がけた。ブックレポート作成の練習も行った。

「作文」の授業では、コンピュータを使用しながら、レポートや論文を書く際に必要となる論理的な文章の書き方の練習を行った。『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』（スリーエーネットワーク）、『大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』（アルク）等を参考書とし、練習問題等はプリント、または電子ファイルで提供した。

「聴解」の授業では、日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いて、大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では、ロールプレイ等の会話練習等を通して、大学生活や日常生活で出会う場面、状況での会話力を伸ばす練習を行った。また、様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する練習、意見や感想を述べる練習を行った。

「文法」の授業では、前期は『新完全マスター文法 日本語能力試験 N1』（スリーエーネットワーク）、後期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング N1』（アルク）をメインテキストとし、大学での学習、研究生生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験の受験対策もあわせて行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやりとりや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用したの口頭発表の練習を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々

なメディアを使用して、現代日本の流れ、若者の声、教育問題、ジェンダーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

「漢字」の授業では、『漢字1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol.2(凡人社)を使用して、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。前の期から継続して受講している学生及び漢字、語彙能力の高い学生に対しては新聞記事等の生教材を使用してさらなる語彙の拡充を図った。

## 6 試験

初級クラス「文法」、「聴解」、「会話」では、7回の定期試験を実施した。定期試験の内容は、筆記試験、聴解試験、会話試験で、いずれの試験も日本語研修コース初級クラスと同じものを使用した。初級クラス「生活日本語」、「読解・作文」、「語彙・作文」、「漢字」では数回の確認テストと期末試験を実施した。中級クラスでは、「文法・表現」、「文法」は2回の定期試験、「文法・読解」は3回の定期試験、「聴解」、「語彙・読解」は期末試験、「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施し、「会話」は授業中に発表を課した。上級クラスでは、「読解 C1a」(前期)「読解 C2a」(後期)、「読解 C2a」(前期)「読解 C2b」(後期)、「文法」は期末試験、「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施し、「作文」、「聴解」、「会話」、「表現技術」、「日本文化」は期末レポートあるいは発表を課した。

## 7 授業評価

日本語課外補講の受講者に対して、授業内容とカリキュラムに関するアンケート調査を前期と後期の授業期間中に実施した。授業内容に関するアンケートはクラス別に集計し、カリキュラムに関するアンケートは回答者全員分をまとめて集計した。

授業内容に関するアンケートは、いずれのクラスにおいても、基本的に科目ごとに実施したが、同一の教科書(『みんなの日本語 初級』)を使用した科目(初級クラス「文法」、「読解・作文」、「語彙・作文」、「聴解」、「会話」)についてはまとめて実施した。

以下、表4に前期初級クラス、表5に前期中級クラス、表6に前期上級クラス、表7に後期初級クラス、表8に後期中級クラス、表9に後期上級クラスの授業内容のアンケート集計結果をまとめた(表6と表9は総合日本語コースコーディネーターの濱田美和が、それ以外の表は日本語課外補講コーディネーターの小木曾左枝子がまとめた)。授業内容に関するアンケートでは、中級、上級クラスについては、1人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は5段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を5点、「よかった」を4点、「ふつう」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「ぜんぜんよくなかった」を1点として、その平均点を出したものである。

カリキュラムに関するアンケート調査は、1人の学生が1回のみ回答することになっている。表10に前期、表11に後期の結果をまとめた。

なお、自由記述については、基本的に学生が記述した通りに掲載しているが、間違いに応じて適宜修正を加えている場合もある。

表 4 前期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者12人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（9人） よかった（3人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かんたんです。（文法他）</li> <li>• 簡単な文法は生活につかいました。大阪屋でかいものすることができます。授業内容はおもしろいです。日本でいろいろな事を理解します。（文法他）</li> <li>• じゅぎょうはおもしろいですから、各レッスンはとてもたのしいです。（文法他）</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった（8人） よかった（4人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.7	
3. 授業の進度 ちょうどよかった（3人） よかった（8人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• もっと速いほうがいいと思います。（文法他）</li> </ul>
4. 教科書・プリント とてもよかった（6人） よかった（5人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スピーチはとてもいいです。（文法他）</li> <li>• Ogiso sensei gave good methods on how I should study or find ways to learn kanji on my own.（漢字）</li> </ul>
5. 教え方 とてもよかった（9人） よかった（3人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.8	欠席した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門の授業やゼミがあったから（3人）</li> <li>• アルバイトがあったから（0人）</li> <li>• 病気のため（1人）</li> <li>• その授業に興味がなかったから（0人）</li> <li>• その他（0人）</li> </ul>
6. どのぐらい出席したか 80%～100%（9人） 60%～80%（3人） 40%～60%（0人） 20%～40%（0人） 0%～20%（0人）	—	欠席した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門の授業やゼミがあったから（3人）</li> <li>• アルバイトがあったから（0人）</li> <li>• 病気のため（1人）</li> <li>• その授業に興味がなかったから（0人）</li> <li>• その他（0人）</li> </ul>
7. 予習・復習をしたか かなりした（4人） すこしした（6人） ぜんぜんしなかった（2人）	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• たくさんことばと文法をつかいません。日本の生活に慣れます。よくことばをわすれました。（文法他）</li> </ul>

その他

- もっと日本語を習いたいですから、ちょっとはやくしてほしい。（文法他）
- I would like to take the class for the next semester.（生活日本語）
- For the next semester, I want to study Japanese from Lesson 16 of Hakase 2.（生活日本語）

表5 前期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者47人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（24人） よかった（22人） ふつう（0人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容は豊かでした。（文法・表現）</li> <li>・授業がとても面白いです。たくさん知識をもらいました。（文法・表現）</li> <li>・理解しやすいです。（文法・表現）</li> <li>・日本に来たばかりの時に比べ、日本語が上手になってきました。（文法・表現）</li> <li>・文法にもうすこし集中してもらいたいと思います。（文法・表現）</li> <li>・授業の内容は分からないところもあります。なぜなら、内容は日本の文化と国の文化がまったく違うので、文のイメージが分かりません。（文法・表現）</li> <li>・先生の授業はおもしろいし、授業でもいっぱい勉強しました。（文法・読解）</li> <li>・時々、複雑だと思います。（文法・読解）</li> <li>・聴解の内容は生活の中の普通の会話です。とても役立つと思います。（聴解）</li> <li>・豊かな内容です。（聴解）</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった（13人） よかった（27人） ふつう（6人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時々、ことばがまだわかっていないので、授業の内容や話がわからないこともあります。（文法・表現）</li> <li>・もっと読む練習がするほうが良いと思います。（文法・表現）</li> <li>・J501はちょっと難しいが、論文を書くことに役立つと思います。（文法・読解）</li> <li>・もっと口語の文法を勉強したいです。（文法・読解）</li> <li>・ことばがたくさんですから、ちょっと覚えられませんでした。（文法・読解）</li> <li>・難しい漢字がたくさんあります。（漢字）</li> <li>・最初は、先生の話は聞きにくかったですが、だんだんわかるようになりました。（会話）</li> <li>・挑戦性があるので、おもしろかったです。（聴解）</li> <li>・簡単、でも役立つ。（文法）</li> </ul>
3. 授業の進度 ちょうどよかった（15人） よかった（22人） ふつう（8人） あまりよくなかった（2人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょっと速いです。（文法・表現）</li> <li>・このクラスはすこし速くて、ときどき違うことがある。（文法・表現）</li> <li>・おそすぎた。（文法・表現）</li> <li>・はやすぎた。授業の速さは速すぎる。なぜなら、多分授業の期間は短くて、授業の内容がたくさんあるからです。授業の期間を長くしたほうが良いと思います。（漢字）</li> <li>・ゆっくり毎課を教えてくださいました。（漢字）</li> <li>・はやすぎた。（漢字）</li> <li>・最初はゆっくりでしたが、後半は時間が少なかったので、速くなったと思います。（文法）</li> <li>・もう少し速いほうが良いと思います。（文法）</li> </ul>
4. 教科書・プリント とてもよかった（19人） よかった（22人） ふつう（3人） あまりよくなかった（3人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私にとっていい教材です。（文法・表現）</li> <li>・日常会話を勉強することができる。（文法・表現）</li> <li>・文法の説明全部が日本語なので、時々理解が難しいです。（文法・表現）</li> <li>・各課のテーマはおもしろかったんですが、話さなかったテーマもあります。（文法・表現）</li> <li>・教科書の説明は不十分だと思います。（文法・表現）</li> <li>・教科書に文法説明があまりないので、困ったときがある。（文法・表現）</li> <li>・内容がおもしろい、ことばは少し難しいです。（文法・読解）</li> <li>・少し古いけれど、大丈夫です。（文法・読解）</li> <li>・予習ワークシートがあるので、勉強しやすくなりました。（漢字）</li> <li>・ちょっと複雑だと思います。（漢字）</li> <li>・スピーチのテーマがおもしろいです。（会話）</li> <li>・新しいことをたくさん勉強しました。これは生活や授業に役に立つと思います。（会話）</li> </ul>

<p>5. 教え方 とてもよかった (34人) よかった (12人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろくて、全方面的な科目も習いました。(文法・表現)</li> <li>・先生の教え方はとてもおもしろいです。授業が好きになりました。(文法・表現)</li> <li>・先生はやさしいです。(文法・表現)</li> <li>・でも、授業の時、説明がバラバラの感じがあります。(文法・表現)</li> <li>・わかりやすい。(文法・読解)</li> <li>・ゆっくり教えてもらいました。(会話)</li> <li>・先生の授業は本当におもしろくて、先生からいっぱいのことを習いました。(聴解)</li> <li>・ゆっくり教えてくれたのは、わかりやすかったと思います。(文法)</li> <li>・わかりやすい言葉を使って、明確な説明ができるので、授業の内容もわかりやすくなります。そして、先生は英語がうまく話せる。(文法)</li> <li>・作文の練習は面倒ですが、文法の勉強に役立つ。(文法)</li> </ul>
<p>6. どのぐらい出席したか 80%~100% (34人) 60%~80% (8人) 40%~60% (4人) 20%~40% (0人) 0%~20% (0人) 無回答 (1人)</p>	-	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の授業やゼミがあったから (9人)</li> <li>・アルバイトがあったから (0人)</li> <li>・病気のため (11人)</li> <li>・その授業に興味がなかったから (1人)</li> <li>・その他 (1人：遅刻してしまいました。)</li> </ul>
<p>7. 予習・復習をしたか かなりした (18人) すこしした (28人) ぜんぜんしなかった (1人)</p>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばがたくさんあるので、覚えにくい時もあります。(文法・表現)</li> <li>・文法を中国で勉強しましたが、日本語でもう一度勉強しました。あと、文法の使い方は理解しやすくなっています。(文法・表現)</li> <li>・予習しなかったときもあります。(文法・表現)</li> <li>・ことばがたくさんあるので、覚えにくい時もあります。(文法・表現)</li> <li>・とりあえず、予習をしたら、授業の概要が分かるようになります。そして、授業の中で、復習すれば復習するほど授業の内容ができるようになります。(漢字)</li> <li>・ことばやかんじがたくさんあるので、予習時間がたりません。(漢字)</li> <li>・ときどきわすれました。(漢字)</li> <li>・たまに予習しませんでした。(会話)</li> <li>・日本で生活する上でとても実用的です。(聴解)</li> <li>・時間があれば、できるだけ予習しました。復習は試験の前にしました。(文法)</li> </ul>

その他

- ・いい先生です。(文法・表現)
- ・上級でも先生の授業がほしいです。(文法・表現)
- ・先生、ありがとうございます。いろいろ勉強させてもらった。(文法・表現)
- ・先生の教え方は本当によく、ちゃんとてつだっていたいただいて、うれしいです。いろいろ新しく、大事なことがわかるようになりました。(文法・表現)
- ・4ヶ月だけですけど、とても楽しかったです。先生のおかげで、これから中級を目指すようにします。本当にありがとうございます。(文法・表現)
- ・もうすこし文法に集中したいです。学生は授業中、自分の意見を述べたいと思います。(文法・表現)
- ・この授業があまりわからない時があります。いろいろ内容は説明がちょっと不十分だとおもうので授業進度は遅いときと速いときがあります。そして授業に来たくない感じがある。(文法・表現)
- ・いい先生です。(文法・読解)
- ・長い間お世話になり、ありがとうございます。いつかまた先生に教えてもらいたいと思います。本当にありがとうございます。(文法・読解)
- ・授業の時、たぶん自分でもっと頑張ります。(文法・読解)
- ・教科書の文章を暗記するテストをすればいいと思います。(文法・読解)
- ・先生ありがとうございます。(漢字)
- ・どうもありがとうございます。(会話)
- ・いい先生です。(聴解)
- ・先生はやさしいです。(聴解)
- ・だんだん日本人の話がわかるようになってきました。(聴解)
- ・先生、色々お世話になりました。ありがとうございました！(聴解)
- ・いい先生です。(文法)
- ・先生はやさしいです。授業もおもしろいです。ありがとうございます。(文法)



表6 前期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者83人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
<p>1. 授業内容            とてもよかった（50人）            よかった（31人）            ふつう（2人）            あまりよくなかった（0人）            ぜんぜんよくなかった（0人）</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• この授業を取ってから、前よりすこし日本語能力試験に受かる気がしました。（読解C1a）</li> <li>• 小テストはとても良かったです。（読解C1a）</li> <li>• 漢字の小テストはよかったと思います。この漢字はよく見た漢字なので。（読解C1a）</li> <li>• 漢字についての小テストはとてもいいと思う。以前知らない言葉もたくさん勉強した。同じ範囲の言葉が一緒出て、覚えやすい。教科書にたくさん問題がのこっているのはちょっと残念だと思う。（読解C1a）</li> <li>• その授業のおかげで上達したと思います。とても勉強になりました。（読解C1a）</li> <li>• 漢字小テストを毎週勉強することは大変でしたが、役に立ったと思います。（読解C1a）</li> <li>• 今学期のテキストの内容はおもしろいと思う。政治や法律や社会の問題も出てきたので、よかったと思う。（読解C1b）</li> <li>• いろいろな勉強になった。発表の形式で、様々な知識を勉強した。（読解C1b）</li> <li>• 皆な好きな主題の文章を読むのはとても楽しかった！（読解C1b）</li> <li>• 毎週、読むテーマがちがいますから、おもしろいと思います。読む文章は専門的なので、いつも見たことない言葉があります。これはいいと思います。もしこの授業を受けなかったら、この言葉を勉強するチャンスがありません。（読解C1b）</li> <li>• テキストの要約を毎週したことで、読解の力をアップした気がします。今、何かの文章を読むとき、キーワードや筆者が言いたいことなどがすぐ分かります。この授業のおかげで上達したと思います。（読解C1b）</li> <li>• ヒントなどを教えてもらってよかったですが、日本語能力試験の読解のヒントもあったらよかったかなと。（読解C1b）</li> <li>• 自分の文法知識をとて成長したと思います。N1を自信を持って受けられるようになりました。聞いたこともない文法もありましたが、役に立ちました。良い授業でした。（文法C1）</li> <li>• 内容は幅広くて、とてもいいと思う。（文法C1）</li> <li>• よかった。でも、ちょっと難しいと思います。（文法C1）</li> <li>• 内容がちょっと多く、覚えにくい。（文法C1）</li> <li>• 役に立ちそうな文法がたくさんあってよかったと思います。（文法C1）</li> <li>• 一生使わない文法が多いですが、N1はそういうことなので、仕方がありません。（文法C1）</li> <li>• 日本語能力試験のまえ、2015年のサンプルテストを一回やってみたらいいと思います。（文法C1）</li> <li>• 今学期はずっと修了レポートを書くので、作文の授業の内容はレポートに役に立った。先生もいろいろ指導してくれた。感謝しています！（作文C1）</li> <li>• この授業はとても役に立つと思います。いろいろ先生から教えてもらいました。ありがとうございました。（作文C1）</li> <li>• 内容は幅広くて、とても勉強になった。この授業を受け取って、非常によかったと思う。たくさんの知識を勉強した。聞き取り能力も上がったと気づいた。ありがとうございます。（聴解C1）</li> <li>• 見たドキュメンタリーとドラマも全部おもしろいです。番組を見ながら、言葉とか語彙とか勉強するのは好きです。（聴解C1）</li> <li>• この授業はすごくよかったと思っています。いろいろ勉強しました。（聴解C1）</li> <li>• 今期も聴解の授業に参加させていただいて良かったです。聴解が上達したことが実感しました。（聴解C1）</li> <li>• 日本語能力試験の練習はよかったが、3回か4回したほうがいいと思う。この授業の内容はおもしろかったし、先生の教え方もよかった。（聴解C1）</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業は毎週面白かったです。ニュースやドラマなどを見てたりしましたので言葉も増えました。(聴解C1)</li> <li>授業で勉強したこと全てが役に立つ気がします。この授業を取ってよかったと思います。勉強したことの中で何でも日常生活の中でも使えるような気がして、このようにこれからも勉強していきたいと思います。(聴解C1)</li> <li>授業で学んだことの中で、何でも使える気がしました。毎回発表したことが日本語のいい練習になりました。(会話C1)</li> <li>ありがとうございました。とても役に立つと思います。後期もよろしく願いいたします。(漢字C1)</li> <li>毎週の漢字テストもグループワークもとても良かったと思います。良い授業でした。とても役に立ちました。(漢字C1)</li> <li>文章によく出る漢字、会話によく使う漢字を分けて学ぶほうがいいと思う。(漢字C1)</li> <li>授業でいろいろ勉強しました。生活にすぐ役に立つと思います。(表現技術C1)</li> <li>この授業を取る前と今の敬語のレベルを比べてみると成長していると思います。知らないこともたくさん勉強しました。とても良い授業でした。(表現技術C1)</li> <li>内容がとても良かったです。この授業を取ってよかったと思います。普通ではあまり話さない語彙があって、それに対していろんな意見が知ってよかったと思います。日本の文化を知るために、やはりいろんな視点から見るのが大事だと気がついて、これからはもっと柔軟な人になっていける気がします。(日本文化C1)</li> <li>ニュースはあまり理解できなかった。(日本文化C1)</li> <li>内容は生活、国、文化に近い。(日本文化C1)</li> <li>ときどき内容が難しくて分からなかったときもありました。(日本文化C1)</li> </ul>
<p>2. 授業のレベル          ちょうどよかった (55人)          よかった (23人)          ふつう (5人)          あまりよくなかった (0人)          ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>私にとって取ってよかったと思います。たしかに難しいことがあったけれども、がんばれた気がします。(読解C1a)</li> <li>私にとってレベルが高かったので漢字が多くて、ちょっと難しかったです。読解で出てくる漢字を覚えたり、テストを受けたりすればいいかなと思うこともありました。そして、自分でも一生懸命毎日練習しなければならぬと思いました。(読解C1a)</li> <li>ときどきは解けなかった問題もありました。(読解C1a)</li> <li>授業の内容はけっこう難しかったですが、その難しさのおかげで自分の日本語レベルアップできたと思います。どうもありがとうございました。(読解C1b)</li> <li>専門的な言葉は難しかったが、調べてから、分かりやすくなったので、レベルはピッタリだったと思う。(読解C1b)</li> <li>N1-N2にあう。(読解C1b)</li> <li>時々難しく、時々ちょっと簡単で良かったです。(読解C1b)</li> <li>毎日あまり使わない言葉がけっこう入っていましたが、上手になるのに必要な情報だと気がつきました。(文法C1)</li> <li>ドラマとか内容は大体理解したが、ときどき聞き取れなかった。(聴解C1)</li> <li>N1とN2のレベルの聴解を練習したので、とても役に立ちました。(聴解C1)</li> <li>私に合っているちょうどいいレベルでした。(日本文化C1)</li> </ul>
<p>3. 授業の進度          ちょうどよかった (56人)          よかった (17人)          ふつう (8人)          あまりよくなかった (2人)          ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>時々すでに分かった部分を先生は丁寧に説明する。ちょっと時間のむだになった。簡単な質問だったら、早く終わらせたほうがいいと思う。(読解C1a)</li> <li>速さは良かった。みんなで話し合いながらしましたので。(読解C1a)</li> <li>速さもよかったと思う。分からなかったとき、何回も先生に聞くことができたのでよかった。(読解C1b)</li> <li>教科書の内容は多いので、スピードはちょっと速い。(文法C1)</li> <li>速すぎた。(文法C1)</li> <li>自分のレベルが低くて勉強しても覚えても、すぐ忘れる気がします。(文法C1)</li> <li>先生の教え方、話し方は分かりやすい。非常にいいと思う。(聴解C1)</li> <li>授業のスペースもちょうどよかったと思います。(聴解C1)</li> <li>とても聞きやすかったと思いました。(日本文化C1)</li> </ul>

<p>4. 教科書・プリント  とてもよかった (54人)  よかった (22人)  ふつう (7人)  あまりよくなかった (0人)  ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教科書はN1のためのものだけど、N1より簡単だと思う。だからN1の難しさと同じようなレベルのほうがいい。(読解C1a)</li> <li>• 毎回授業の前に小テストをして、自分の単語の力をどのぐらいかが分かった。とても役に立つと思う。毎回の授業で漢字のプリントを配ってくださって、N1の単語が多く含まれていて、N1に合格したい人にとって非常にありがたいことである。(読解C1a)</li> <li>• 毎文章は細かく説明して、教科書を全部勉強しなかった。ちょっと残念。(読解C1a)</li> <li>• 毎週の漢字テストは役に立ちました。この授業で使った教科書も漢字のプリントもとても良かったです。自信をもってN1を受けられるようになりました。(読解C1a)</li> <li>• 授業中で使った教科書はとてもよくて、自習にぜったい使いたいと思います。(読解C1a)</li> <li>• 使った教科書は良かったです。日本語能力試験を準備するために何回も見て、助かりました。(読解C1a)</li> <li>• テキストとストラテジーのプリントは本当に役に立った。おもしろかったし、いろいろ勉強になった。(読解C1b)</li> <li>• いろいろなスキルを勉強できるので、とてもよかったです。(読解C1b)</li> <li>• また追加のプリントか学生が興味がある文章(任意)があればよかったかもしれないと考えました。(読解C1b)</li> <li>• 自分でも勉強しやすい。(文法C1)</li> <li>• 文法についての練習がもっと多いほうがいい。(文法C1)</li> <li>• このクラスはとてもよかったです。後半になったら、病気になって行けなくなってしまったことが多くなったんですが、今までの教科書の内容がものすごく役に立ちました。(文法C1)</li> <li>• 役に立つ。(作文C1)</li> <li>• プリントが詳しくて、授業の後で自分で復習しやすい。残念ながら、今までずっと修了レポートを書いていたので、あまり復習しなかった。今からプリントをちゃんと見たいです。(聴解C1)</li> <li>• 授業で出た難しい言葉を整理してくれるプリントがほしい。(聴解C1)</li> <li>• 新着ニュースや新しい番組を見ればよかったと思います。授業で見ていたビデオはかなり古くて、語彙力をつけるには役に立ちますが、現代の人が直面する問題についてのニュースやビデオなどを見たほうがいいと思います。(聴解C1)</li> <li>• 毎回聞いた後、原文も配ってくれて大変助かりました。(聴解C1)</li> <li>• 毎回スクリプトをもらったので役に立ちました。(聴解C1)</li> <li>• 授業の教材のおかげで、ちゃんと内容をつかんだ気がします。(聴解C1)</li> <li>• 毎回の授業でプリントを配ってくださって、日本語学習に非常に役立つ。(聴解C1)</li> <li>• 漢字が多かったんですが、全部がいい勉強になりました。(日本文化C1)</li> <li>• 授業でやったことを整理してくれるものがほしい。(日本文化C1)</li> </ul>
<p>5. 教え方  とてもよかった (56人)  よかった (18人)  ふつう (9人)  あまりよくなかった (0人)  ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 読解の授業だから、文章を細かくところまで解釈してくださって、とてもよかった。(読解C1a)</li> <li>• 分かりやすく、面白いし、覚えやすい。時間の設定、これはとてもいい。(読解C1a)</li> <li>• みんなで話し合っ問題が解けたので面白かったです。(読解C1a)</li> <li>• 先生の教え方が好きで、二回この授業を取った。おもしろいし、インターアクティブな教え方でよかった。(読解C1b)</li> <li>• おもしろかった。発表のかたちがよかった。(読解C1b)</li> <li>• 先生は優しく、いろいろ教えてくれました。みんなの意見からの文章を探すのは、かなり大変だと思います。先生、お疲れ様でした！そして、ありがとうございました！(読解C1b)</li> <li>• 先生はとてもやさしくて、教え方が分かりやすいです。(読解C1b)</li> <li>• たまたま怒ってもよかったときもあった気がしました。(読解C1b)</li> <li>• 面白かった。たくさん例を挙げた。(文法C1)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>時々課題の文法の違いは納得できなかった気がします。(文法C1)</li> <li>先生の教え方は分かりやすく、学生に考える時間をあげる。とてもよかった。(作文C1)</li> <li>先生の教え方はわかりやすく、ゆっくりでありがたい。(聴解C1)</li> <li>3限目の授業ですが、毎回眠いことはなく、楽しく授業を受けています。これからも授業を受けたい気持ちがいっぱいです。(聴解C1)</li> <li>先生もとても親切で、分かりづらいことがあったらすぐに詳しく説明していただきました。(聴解C1)</li> <li>毎週同じことをしなかったし、面白い番組を見せたりしました。(聴解C1)</li> <li>とても分かりやすかったです。(聴解C1)</li> <li>漢字の意味をもっと教えてほしいのかなと。(漢字C1)</li> </ul>
6. どのぐらい出席したか 80%~100% (70人) 60%~80% (6人) 40%~60% (7人) 20%~40% (0人) 0%~20% (0人)	—	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門の授業やゼミがあったから (1人)</li> <li>アルバイトがあったから (0人)</li> <li>病気のため (12人)</li> <li>その授業に興味がなかったから (0人)</li> </ul>
7. 予習・復習をしたか かなりした (35人) すこした (47人) ぜんぜんしなかった (1人)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字と関係のない国から来た私にとって授業の復習や予習がとても大事でした。(読解C1a)</li> <li>毎週漢字テストを受けるので、毎週必ず復習する。(読解C1a)</li> <li>毎週漢字テストがあったことが、漢字をたくさん勉強しました。(読解C1a)</li> <li>家で漢字をきれいに書いて、勉強しました。練習テストを読んで、分からない言葉を調べました。(読解C1a)</li> <li>秋学期、「良」しかとれなかったので、今学期もっと勉強した。毎週テキストや練習問題を読んだり、調べたりした。(読解C1b)</li> <li>予習はあったけど、復習はテストの前だけあった。(読解C1b)</li> <li>文章を要約するのは読解能力に役に立つと思います。(読解C1b)</li> <li>宿題の文章が少なかった気がします。(読解C1b)</li> <li>N1試験に役に立った。(文法C1)</li> <li>授業の復習や予習がためにむずかしくても、全部がよい勉強になりました。(文法C1)</li> <li>練習が足りない気がします。(文法C1)</li> <li>聴解授業の内容はすごくいいと思う。しかし、自分がちゃんと復習してなかった。後悔した。(聴解C1)</li> <li>授業のペースについていくために、予習をしなければならなかったです。(日本文化C1)</li> <li>今学期は修了レポートを書くので、あまり日本文化の内容を見てなかった。(日本文化C1)</li> </ul>

その他

- 好きな授業でした。(読解C1a)
- 機会があったら、また先生の授業を受けたいです。(読解C1a)
- 今年、本当にありがとうございました。先生のおかげで、私の読解の力はだんだんあがったと思う。帰国してからも、日本語がんばりたい!(読解C1b)
- ありがとうございました!(読解C1b)
- いろいろと教えていただいて、ありがとうございました!今日で総合日本語コースの授業が全部終わりました。あっという間で早かったです!心から感謝しています!(文法C1)
- 日本語文法という授業を一年間受けた。たくさんの文法と知識を勉強した。感謝しております。(文法C1)
- 私の漢字の力はどんどんうまくなったが、まだ足りないので帰国してからがんばる。(漢字C1)

表7 後期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者8人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（5人） よかった（2人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.5	• Content is sufficient. (生活日本語)
2. 授業のレベル ちょうどよかった（1人） よかった（5人） ふつう（0人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.0	• So good. (生活日本語)
3. 授業の進度 ちょうどよかった（3人） よかった（2人） ふつう（2人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人）	3.8	• Excellent. (生活日本語)
4. 教科書・プリント とてもよかった（2人） よかった（5人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.1	
5. 教え方 とてもよかった（9人） よかった（3人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.4	• Interesting and excellent. (生活日本語)
6. どのぐらい出席したか 80%～100%（5人） 60%～80%（1人） 40%～60%（1人） 20%～40%（0人） 0%～20%（1人）	—	欠席した理由 • 専門の授業やゼミがあったから（1人） • アルバイトがあったから（0人） • 病気のため（3人） • その授業に興味がなかったから（1人） • その他（1人）
7. 予習・復習をしたか かなりした（5人） すこしした（2人） ぜんぜんしなかった（1人）	—	• This class is very helpful to improve Japanese language skill. (生活日本語)

表8 後期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者19人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（15人） よかった（4人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.8	• ほとんど理解できて、おもしろいと思います。(文法・読解) • 役立ちます。(作文)

2. 授業のレベル ちょうどよかった (12人) よかった (4人) ふつう (3人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.5	・レベルがちょっと高い (自分より) ですが、それはいい勉強になりました。(文法・読解)
3. 授業の進度 ちょうどよかった (16人) よかった (2人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.8	・私にとってはちょうどいいと思います。(文法・読解)
4. 教科書・プリント とてもよかった (13人) よかった (5人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	・内容や読解がちょっと古いですが、ことばや文法の部分があってまだいいと思います。(文法・読解)
5. 教え方 とてもよかった (16人) よかった (3人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.8	・ゆっくり説明してくれて、おもしろいと思います。(文法・読解) ・ゆっくり教えてくれまして、ありがとうございます。(作文) ・先生が大好きです。この授業をまだ続けたいです。(読解・語彙) ・先生の教え方、大好きです。(漢字)
6. どのぐらい出席したか 80%~100% (14人) 60%~80% (2人) 40%~60% (2人) 20%~40% (0人) 0%~20% (1人)	—	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (6人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (0人) ・その授業に興味なかったから (0人) ・その他 (入学試験4人, 帰国1人)
7. 予習・復習をしたか かなりした (7人) すこしした (9人) ぜんぜんしなかった (3人)	—	・ことばがまだ少ないので、予習が必要だと思います。(文法・読解)

その他

- ・私は中級の授業をほぼ全部受けました。この授業で勉強した内容を他の授業でもう一度勉強できることは、復習になりました。他の授業で習った内容もこの授業でもう一度勉強できます。本当によかった。(文法・表現)
- ・わかりやすく教えてもらいました。本当にありがとうございます。いろいろな役に立つことを習いました。(文法・表現)
- ・ほぼ全部の授業を受けたので、同じ内容を2回、3回勉強することもありました。復習になりました。とてもよかったです。(文法・読解)
- ・たくさん話す練習をして、とてもよかった。(文法)
- ・先生のおかげで、たくさん知識をもらいました。(会話)
- ・聴解と同じ。(会話)
- ・いろいろ迷惑をかけて、本当にすみませんでした。(聴解)
- ・素晴らしく役に立っています。(作文)
- ・日本人の学生と話すことはとてもよかった。(日本事情)

表9 後期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者88人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
<p>1. 授業内容            とてもよかった（41人）            よかった（41人）            ふつう（4人）            あまりよくなかった（2人）            ぜんぜんよくなかった（0人）</p>	<p>4.4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ときどき難しすぎるという内容が出てきても、N1だから了承してきました。（読解C2a）</li> <li>• 学生たちと先生と一緒に議論しながら、答えを合わせるのには、役に立った。そして面白かった。（読解C2a）</li> <li>• 長文の練習をしたほうがいいと思います。（読解C2a）</li> <li>• 授業で単語をいっぱい覚えました。そして、いろんなタイプの文章を読みました。（読解C2a）</li> <li>• 内容は十分です。難しさもちょうどいいと思います。（読解C2a）</li> <li>• N1の試験にも小説を読むのに役に立ちます。（文法C2）</li> <li>• 日本語能力試験N1のために、もっと試験の例題をしたいと思います。（文法C2）</li> <li>• この授業でN1のレベルの文法をたくさん学びました。たえ、以前学んだ文法でもこの授業でもう一度確認して、よかったと思います。（文法C2）</li> <li>• 先生の授業の内容はとても適当だと思います。論文の作成についての要点、注意点、書き方、いろいろ身につけました。これからの学習に役に立つと思います。（作文C2）</li> <li>• 今後のレポートにとっても役に立つと思います。内容は分かりやすかったです。（作文C2）</li> <li>• レポートを書くのに役に立つと思います。（作文C2）</li> <li>• レポートや論文に役立ちます。特に各部分の構成や言葉づかいの説明はよかったです。（作文C2）</li> <li>• N1試験のために、もっとこの試験についての内容を加えたほうがいいと思います。（聴解C2）</li> <li>• この授業を通して聴解能力を上げることができました。来学期も取りたいです。（聴解C2）</li> <li>• N1の試験に対応する方法をもっと多く教えていただくほうがいいと思います。（聴解C2）</li> <li>• 意見はないです。こんなにありがたい授業は本当に珍しい。（聴解C2）</li> <li>• 授業の内容はちょっとつまらないです。（聴解C2）</li> <li>• 面白い映画やドラマやドキュメンタリーなどを見たいです。（聴解C2）</li> <li>• グラフが多くて、そんなに多くなかったらいいと思う。もっとN1やN2の問題があったらいいと思います。ニュースの聴解もあっていいと思います。（聴解C2）</li> <li>• この授業を取って、たくさんの日本の文化や言葉などを勉強しました。普段もっと多くのおもしろいビデオを見られたらうれしいです。（聴解C2）</li> <li>• かなり簡単なものとかかなり難しいものが出て、たまに混乱しました。（聴解C2）</li> <li>• 内容はおもしろいです。（会話C2）</li> <li>• ペアでビデオの説明をするのは面白かったです。（会話C2）</li> <li>• 会話の授業で行った話題はとてもおもしろいと思います。会話力が上がりました。（会話C2）</li> <li>• いろいろ勉強になりました。（会話C2）</li> <li>• 訓読みの漢字をもっと多くしてほしいです。（漢字C2）</li> <li>• 授業の後、知識が増える。（漢字C2）</li> <li>• 大事で、おもしろかったです。（表現技術C2）</li> <li>• 敬語とあらたまった表現を勉強して、とても楽しんだと思います。（表現技術C2）</li> <li>• 話す練習が多いほうがいいです。（表現技術C2）</li> <li>• 敬語やはがきの書き方はとても役に立ちます。（表現技術C2）</li> <li>• 敬語を勉強することは有意義だと思います。（表現技術C2）</li> <li>• とても役に立ちます。いろんな表現が勉強になりました。敬語について、特に社会人がよく使う表現を勉強したいです。（表現技術C2）</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 敬語を学べて良かったと思います。(表現技術C2)</li> <li>• 今まであまり触れなかった内容です。おもしろかったですが、ちょっと深いです。(日本文化C2)</li> <li>• 日本の社会文化をもっと詳しく勉強したいです。(日本文化C2)</li> <li>• 内容は面白くて、よかったです。水俣病について習ったのは特にいいことだと思いました。日本文化についての一般常識だから、知るべきです。(日本文化C2)</li> <li>• この授業を受けて、いろいろな知識を勉強できました。元々は日本の伝統的な文化(歌舞伎など)を学ぶ授業だと思いますが、実際はステレオタイプ、公害病などを学ぶ授業です。それでも、社会をもっと理解できて、よかったです。(日本文化C2)</li> <li>• この授業でいろいろなことを勉強しました。例えば、昭和元禄やステレオタイプなどを勉強しました。一番印象に残ったのは日本の公害病です。この授業を受けた後、日本の社会についての理解を深めることができます。しかし、遠足のことはちょっと残念だと思います。(日本文化C2)</li> <li>• 「日本文化」というけど、普通の「美術・音楽・浮世絵」は紹介いただけなかった。しかし、もっと深い日本文化に言及しました。(日本文化C2)</li> <li>• 授業の内容に大変興味があります。ちょっと難しいですが、面白いと思います。(日本文化C2)</li> <li>• 日本文化(日本社会)のことをいろいろ教えてくれて、日本社会文化のことについて、前より具体的な印象が持てました。(日本文化C2)</li> </ul>
<p>2. 授業のレベル          ちょうどよかった (42人)          よかった (33人)          ふつう (12人)          あまりよくなかった (1人)          ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ある文章は簡単なので、説明しなくてもいいと思う。たとえば全員の答えが正解の場合。(読解C2a)</li> <li>• 私にとって難しいかもしれません。(文法C2)</li> <li>• 易しすぎた。(聴解C2)</li> <li>• 能力の向上にとっても役に立つと思います。(聴解C2)</li> <li>• 授業内容によって、レベル差があります。テレビを見るのはちょっと難しいです。(聴解C2)</li> <li>• レベルはもっと難しくなったら、いいと思います。(聴解C2)</li> <li>• ちょうどよかったと思います。(会話C2)</li> <li>• とてもよかったです。(表現技術C2)</li> <li>• ちょっと難しいです。意味が分からない時がよくあります。(日本文化C2)</li> <li>• ちょっと難しいです。(日本文化C2)</li> <li>• 少し自分のレベルにとって難しいと感じましたが、役に立ったと思います。特に語彙をたくさん習いました。(日本文化C2)</li> <li>• とてもよかったですと思います。ちょっと難しいけど、自分で克服できます。(日本文化C2)</li> <li>• 授業の中に難しい内容がありますが、先生が詳しく説明してくれて、いろいろ勉強になりました。(日本文化C2)</li> <li>• 皆さんのレベルにあわせて、授業のレベルを調整してくださって、とてもよかったですと思っています。(日本文化C2)</li> </ul>
<p>3. 授業の進度          ちょうどよかった (41人)          よかった (32人)          ふつう (11人)          あまりよくなかった (4人)          ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 短い文章を答える時間が少し長いです。説明の時も長いです。(読解C2a)</li> <li>• 文を朗読しなくてもいいと思います。(読解C2a)</li> <li>• 遅すぎた。(読解C2b)</li> <li>• ちょっと速いです。(文法C2)</li> <li>• 予定表の通り進んでいました。(文法C2)</li> <li>• 速すぎた。(作文C2)</li> <li>• 先生が話しているスピードと授業を進めるスピードがちょうどよかったと思います。(聴解C2)</li> <li>• 速すぎた。(聴解C2)</li> <li>• 学生の多くがこの授業の流れが少し遅かった気がしたと思います。(聴解C2)</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>•もっと速くても大丈夫だと思います。(会話C2)</li> <li>•ペースはゆっくりで、よかったです。(会話C2)</li> <li>•授業は平穏に進んだからとてもよかったです。(会話C2)</li> <li>•授業のペースも内容もちょうどよかったです。(会話C2)</li> <li>•ちょっと遅いです。テストの時間が長いです。(漢字C2)</li> <li>•ちょうどよかったです。(表現技術C2)</li> <li>•ときどき少し速すぎと感じましたが、特に問題ではありません。(日本文化C2)</li> <li>•内容は多いけど、先生の話している速度と授業が進むスピードもちょうどよかったです。(日本文化C2)</li> <li>•皆さん一人一人に配慮して、皆さんが全部分かるように、詳しく教えてくれました。(日本文化C2)</li> </ul>
<p>4. 教科書・プリント とてもよかった(46人) よかった(33人) ふつう(9人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p>	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>•この教材はいいと思います。(読解C2a)</li> <li>•N1の模擬試験を使ったほうがいいと思います。実際の読解試験の問題と合っています。(読解C2a)</li> <li>•この授業で使ったPPTをプリントしてくれたら、もっと簡単に復習できると思います。授業中に携帯を使うのはちょっと変だと思います。(文法C2)</li> <li>•プリントの主題はよく変わって、いろいろな内容があります。とても豊かだと思います。(聴解C2)</li> <li>•ときどき意味が分からなくて、間違っしてしまいました。(会話C2)</li> <li>•毎回プリントをいただいてとても役に立つと思います。(会話C2)</li> <li>•いつもおもしろいテーマや資料など用意していただき、誠にありがとうございます。とても楽しかったです。(会話C2)</li> <li>•いい教科書でした。(漢字C2)</li> <li>•これからも参考になるような内容でした。(表現技術C2)</li> <li>•難しい単語もいっぱいありましたが、いい練習になりました。(日本文化C2)</li> <li>•映像教材と文字情報の教材の両方があります。よかったです。(日本文化C2)</li> <li>•毎回の授業で渡してくれたプリントはとても役に立つと思います。(日本文化C2)</li> <li>•プリントの内容は十分です。(日本文化C2)</li> <li>•教材などは分かりやすく、授業に欠かせないものであると思っています。(日本文化C2)</li> </ul>
<p>5. 教え方 とてもよかった(44人) よかった(37人) ふつう(6人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人) 無回答(1人)</p>	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>•授業の方法がよかった。学生が参加できるチャンスが多い授業であった。(読解C2a)</li> <li>•皆が先生の周りに座って、一人一人文章を読んだり、何か問題があったらすぐ提示させます。学生たちのしゃべるチャンスが多い。これはとてもいい方法だと思う。(読解C2a)</li> <li>•先生が熱心に私たちに教えてくれました。文の書き方がもっと詳しく分かりました。ありがとうございます！(作文C2)</li> <li>•先生の教え方はとても分かりやすかったです。(作文C2)</li> <li>•先生と一緒に話すのは楽しいと思います。(聴解C2)</li> <li>•先生は一番やさしい先生だと思います。来学期もう一度受講したいです。(聴解C2)</li> <li>•先生はいろいろな方法でグループを作って、話題を行っていただきました。この授業にもっと大きな興味を持つようになりました。(会話C2)</li> <li>•先生はとてもやさしくて耐性を注いでとてもありがたいと思います。(会話C2)</li> <li>•丁寧で、詳しく、とてもよかったです。(会話C2)</li> <li>•グループの形がおもしろいです。また、単語の勉強には覚えやすいです。(漢字C2)</li> <li>•わかりやすいと思う。(漢字C2)</li> <li>•最初の自己紹介の形はとてもいいです。グループとしての発表は皆さんと一緒にするので、あまり緊張しなくて、ほかの時より多く話します。(日本文化C2)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・かなり熱心な感じがしました。(日本文化C2)</li> <li>・ときどき授業が遅く終わるため、バスに乗れなくなって、ちょっと悲しいと感じました。雪が降る時。(日本文化C2)</li> <li>・とてもよかったです。先生はとてもやさしいので、先生からいろいろなことを勉強しました。(日本文化C2)</li> <li>・先生はいつも私たちの学習を促します。ありがとうございました！(日本文化C2)</li> <li>・先生の教え方は分かりやすく、詳しくとても丁寧で、よかったです。(日本文化C2)</li> </ul>
6. どのくらい出席したか 80%~100% (81人) 60%~80% (7人) 40%~60% (0人) 20%~40% (0人) 0%~20% (0人)	—	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の授業やゼミがあったから (9人)</li> <li>・アルバイトがあったから (0人)</li> <li>・病気のため (9人)</li> <li>・その授業に興味がなかったから (0人)</li> <li>・その他 (1人)：院生の入試の準備をしたから (読解C2b)</li> </ul>
7. 予習・復習をしたか かなりした (31人) すこした (53人) ぜんぜんしなかった (3人) 無回答 (1人)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字が多くても、よかったです。(読解C2a)</li> <li>・いつも単語を暗記しています。テストの後に、すぐ忘れてしまいました。(読解C2a)</li> <li>・自分で単語を覚えて、読解の文章を読みました。(読解C2a)</li> <li>・いつも先に単語のプリントを配ってくれた。これは予習のためにとてもいい方法だと思う。(読解C2a)</li> <li>・毎週小テストがあるので、自分の勉強を促します。(読解C2a)</li> <li>・テストの前日、復習くらいです。(文法C2)</li> <li>・レポートを書く時だけ復習しました。(作文C2)</li> <li>・授業は面白いし、宿題も多くないし、よかったです。(聴解C2)</li> <li>・聴解ですので、復習がしにくいです。(聴解C2)</li> <li>・予習と復習を通じて知識をより深く理解しました。(会話C2)</li> <li>・予習は予習ワークシートだけです。(漢字C2)</li> <li>・プリントやワークシートが役に立つと思う。(漢字C2)</li> <li>・予習や復習はテストに役に立つ。(表現技術C2)</li> <li>・大体は宿題をする程度です。(日本文化C2)</li> <li>・希望していたほどゆっくり予習や復習をする時間がありませんでした。(日本文化C2)</li> <li>・レポート、宿題があったら、復習をします。(日本文化C2)</li> <li>・授業の内容は面白いから喜んで予習や復習をしました。(日本文化C2)</li> <li>・ときどき宿題がありますので、完成させるためにいろいろ勉強になりました。(日本文化C2)</li> <li>・あまり予習や復習をしてなかったんですが、ときどき思い返すと、面白いことを思い出せます。(日本文化C2)</li> </ul>

その他

- ・お世話になりました。どうもありがとうございました。(読解C2a)
- ・語彙を覚えることは、試験に大変役に立ちました。そして、文章もおもしろいので、いろいろ勉強になりました。(読解C2a)
- ・この授業を通して、自分の読解能力を上げて、いろいろ勉強になりました。誠にありがとうございました。(読解C2a)
- ・とても楽しかったです。(聴解C2)
- ・前回も今回もお世話になりました。どうもありがとうございました。(聴解C2)
- ・今学期の授業を通して、日常会話についていろいろ勉強になりました。有意義な授業だと思います。(会話C2)
- ・来学期も会話の授業を取りたいです。今学期の授業はとても楽しかったです。あらためてありがとうございます。(会話C2)
- ・みんな一緒におしゃべりをしたり、自分の感想を言ったりして、楽しかったです。その雰囲気が好きです。ありがとうございました。(会話C2)
- ・クラスの中で2つのレベルがあるので、ちょっと複雑だと思う。違う日にあればよかったと思う。(漢字C2)
- ・この一年間お世話になりました。一緒にやる人が少なくて、少し寂しかったが、様々な方法で習得させていただいて感謝します。ありがとうございました。(漢字C2)
- ・今学期の授業を楽しみました。(表現技術C2)
- ・敬語の学習は非常に有意義だと思います。この授業を通して、いろいろ勉強になりました。ありがとうございました！(表現技術C2)
- ・とても楽しかったです。来学期も先生と一緒に勉強したいと思います。(日本文化C2)
- ・いつも先生からおもしろいお話を聞かせていただき、まことにありがとうございます。いろいろ知らなかったことや、よく分からなかったことや、新しい観念、考え方を教えてください、話してくださったりして、とても面白かったです。いろいろ勉強になりました。ありがとうございます。(日本文化C2)

表10 前期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者28人）

1. 日本語課外補講をどこで知ったか（複数回答）	<p>オリエンテーション出席者（19人） *複数回答あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの掲示を見た（9人）</li> <li>・専門の先生にきいた（2人）</li> <li>・国際交流センターの先生にきいた（3人）</li> <li>・事務の人にきいた（11人）</li> <li>・友だちにきいた（7人）</li> </ul> <p>オリエンテーション欠席者（9人） *複数回答あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの掲示を見た（1人）</li> <li>・専門の先生にきいた（3人）</li> <li>・国際交流センターの先生にきいた（2人）</li> <li>・友だちにきいた（3人）</li> <li>・今、アンケートを見て（1人）</li> </ul>
2. 授業科目数の希望	<p>今のままでいい（25人）：初級10人，中級10人，上級5人          多くしてほしい（3人）：中級3人…他の曜日にも行う          少なくしてほしい（0人）</p>
3. 授業科目の希望	<p>今のままでいい（25人）：初級10人，中級11人，上級4人          新しい科目を作してほしい（3人）：中級2人…JLPT 関連，敬語を使った会話          上級1人…ビジネス日本語</p>
4. 来期の授業時間帯の希望	<p>いつでもいい（7人）：初級4人，中級2人，上級1人          専門の時間割がわからないので答えられない（10人）：初級3人，中級5人，          上級2人          午前1・2限（7人）：初級2人，中級5人          午後3・4限（2人）：上級2人          その他（2人）：初級1人…帰国（1人），中級1人…帰国（1人）</p>

その他

- ・Morning session is best for me.（初級）
- ・先生にお世話になりたい。（中級）
- ・ありがとうございました。（中級）
- ・授業，おもしろいです。（中級）
- ・ありがとう，富山大学。（中級）
- ・授業時間がもっと長いといいと思います。授業の速さ，ゆっくり教えてほしいです。（中級）

表11 後期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者21人）

1. 日本語課外補講をどこで知ったか（複数回答）	<p>オリエンテーション出席者（16人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの掲示を見た（4人）</li> <li>・専門の先生にきいた（3人）</li> <li>・国際交流センターの先生にきいた（2人）</li> <li>・事務の人にきいた（2人）</li> <li>・友だちにきいた（3人）</li> <li>・その他（ヤポニカの先生1人）</li> </ul> <p>オリエンテーション欠席者（5人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の先生にきいた（1人）</li> <li>・友だちにきいた（1人）</li> <li>・その他（知らなかった1人，来日前1人，あちこちから1人）</li> </ul>
2. 授業科目数の希望	<p>今のままでいい（17人）：初級5人，中級5人，上級7人          多くしてほしい（4人）：初級2人…（聴解1人）中級2人…（JLPT1人）          少なくしてほしい（0人）</p>
3. 授業科目の希望	<p>今のままでいい（19人）：初級6人，中級6人，上級7人          新しい科目を作してほしい（2人）：初級1人 中級1人…ビジネス日本語</p>
4. 来期の授業時間帯の希望	<p>いつでもいい（9人）：初級2人，上級7人          専門の時間割がわからないので答えられない（8人）：初級4人，中級4人          午前1・2限（2人）：中級2人          午後3・4限（2人）：初級1人，中級1人</p>

その他

- ・先生たちのおかげで，勉強になりました。（中級）
- ・とてもいい経験になりました。どうもありがとうございました。（上級）
- ・今のままでいい。（上級）
- ・表現技術の授業がとても役に立ちます。もっといろいろなことを勉強したいです。（上級）

まず、各クラスの授業内容に関するアンケート結果については、初級、中級、上級各クラスのアンケート質問項目1から5（「1. 授業内容」、「2. 授業のレベル」、「3. 授業の進度」、「4. 教科書・プリント」、「5. 教え方」）までの平均評点を出すと、初級前期が4.6点、初級後期が4.2点、中級前期が4.3点、中級後期が4.7点、上級は前期が4.6点、後期が4.4点と、概ね良い評価を得ていると言える。また、前年度と比べても平均評点はほぼ同じで、2016年度も2015年度と変わらない質の日本語授業が提供できたと考えられる。

次に、カリキュラムに関するアンケート結果を見ると、日本語課外補講に関する情報は、前年度同様、国際交流センターや学部の教職員から聞くのが多いようである。授業科目数や内容についても、前年度同様、「今のままでいい」という回答が多かった。最後に、授業時間帯については、「いつでもいい」と「専門の時間割がわからないので答えられない」という回答が多かった。

## 8 おわりに

2014年度と2015年度は、高岡キャンパスでも日本語課外補講が開講されたが、2016年度は開講することができなかった。そのため、高岡キャンパスの留学生の様子を把握するのが難しく、今後、高岡キャンパスの留学生の状況を知り、五福キャンパスでの受講をどう促していくかを考えていく必要がある。

# 総合日本語コース報告 (2015年10月～2016年9月)

濱田 美和

## 1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低いため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級および中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2015年10月に12期目の学生を迎えた。

以下、2015年度秋期(2015年10月～2016年3月)及び春期(2016年4月～9月)の総合日本語コースの実施状況について報告する。

## 2 受講学生

### 2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2015年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は6人で、全員秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はインド、スリランカ、タイ、中国、フランス、ロシア各1人で、所属は人文学部が4人、人間発達科学部が2人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2015年度は秋期と春期、各期9科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2015年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は、14科目(秋期6, 春期8)が1人、13科目(秋期7, 春期6)が1人、12科目(秋期6, 春期6)が1人、10科目(秋期5, 春期5)が2人、6科目(秋期4, 春期2)が1人だった。

### 2.2 協定校からの交換留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく交換留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する交換留学生は総合日本語コースを受講している。交換留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は14人で、出身国・地域別の内訳は中国が8人、韓国が4人、アメリカとロシアが各1人、所属別の内訳は人文学部が10人、経済学部が2人、人間発達科学部と人文科学研究科が各1人だった。春期は11人で、出身国・地域別の内訳は中国が7人、韓国が2人、アメリカとロシアが各1人、所属別の内訳は人文学部が7人、経済学部が2人、人間発達科学部と人文科学研究科が各1人だった。

履修科目数については、秋期は7科目が2人、5科目が1人、4科目が4人、3科目が3人、2科目が3人、1科目が1人、春期は7科目が1人、6科目が1人、5科目が1人、4科目が2人、3科目が5人、1科目が1人だった。

## 3 担当者

秋期、春期ともにセンター専任教員3人(小木曾左枝子、副島健治、濱田美和)、及び、非常勤講師7人(高島智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横掘慶子)が授業を担当した。いずれの期もセンター専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

## 4 スケジュール

秋期は、2015年10月8日(木)～2016年2月9日(火)を授業期間とした。12月23日(水)～1月4日(月)は冬季休業、1月15日(金)は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11月26日(水)と1月12日(火)は月曜日の授業を行った。

春期は、2016年4月11日(月)～7月29日(金)を授業期間とした。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は、秋期は2015年10月6日(火)、春期は2016年4月6日(水)である。オリエンテーションでは、学生に各授業科目の目的、理解達成目標、授業計画等を掲載した授業概要の冊子(授業概要は国際交流センターホームページ上にも掲載、Web版は日本語と英語での閲覧が可能)を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は、授業開始後1週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

## 5 授業内容

総合日本語コースは、上級および中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。科目名にCのついた授業は上級レベル、Bのついた授業は中級レベルである。いずれの科目も秋期と春期で同一の授業概要(目的)となっているが、上級レベルの授業については、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表1 総合日本語コース授業概要(2015年10月～2016年9月)

授業科目名 (開講曜限)[担当]	授業概要
秋期:読解C2a(火4)[藤田] 春期:読解C1a(火2)[藤田]	文章全体の意味を捉えたり、文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより、大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。秋期は『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)、春期は『日本語能力試験徹底トレーニングN1 読解』(アスク出版)を主教材として使用する。
秋期:読解C2b(木3)[永山] 春期:読解C1b(木3)[永山]	留学生に必要とされる専門書、論文の読解能力の育成を目指し、教養書、新聞記事等日本での学生生活で出会う様々なテキストタイプの読み物(日本人向けに書かれたもの)を扱う。それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造、文体等を把握し、それに慣れる手立てを見つかる。
秋期:文法C2(木2)[濱田] 春期:文法C1(火1)[濱田]	大学での学習、研究に必要な上級の文法・表現を整理し、多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング 文法N1』(アルク)、春期は『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。
秋期:作文C2(金2)[松岡] 春期:作文C1(金2)[松岡]	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。
秋期:聴解C2(水3)[要門] 春期:聴解C1(水3)[要門]	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期:会話C2(火3)[松岡] 春期:会話C1(火3)[松岡]	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。

秋期：漢字C2(月3) [高島] 春期：漢字C1(月3) [高島]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト(『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.2 (凡人社)等)を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術C2(月2) [濱田] 春期：表現技術C1(月2) [濱田]	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化C2(水4) [中河] 春期：日本文化C1(水4) [中河]	留学生として日本社会を分析する試み(情報の読みとり、整理など)をTV番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。
秋期：文法・表現B2a(月1・2) [高島], b(水1・2) [中河] 春期：文法・表現B1a(月1・2) [高島], b(水1・2) [中河]	指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』(凡人社)を主教材として使用する。
秋期：文法・読解B2a(火1・2) [松岡], b(木1・2) [副島] 春期：文法・読解B1a(火1・2) [松岡], b(木1・2) [副島]	様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級J301』、『日本語中級J501』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。
秋期：文法B2(金1・2) [小木曾] 春期：文法B1(金1・2) [小木曾]	初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。
秋期：聴解B2(木3) [横掘] 春期：聴解B1(木3) [横掘]	中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送る上で必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などの聴解教材を使用する。
秋期：会話B2(水3) [横掘] 春期：会話B1(水3) [横掘]	大学での学習や研究を行っていく上で必要となるプレゼンテーションなどのパブリックスピーチを重視し、中級レベルの語彙や文法を使って、自分自身で考えたことなどを場面に応じて適切に口頭で表現できる力を養成する。
秋期：漢字B2(月3) [濱田] 春期：漢字B1(月3) [濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト(『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.1 (凡人社)等)を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。

\* 1 限 8:45~10:15, 2 限 10:30~12:00, 3 限 13:00~14:30, 4 限 14:45~16:15

\* 秋期, 春期ともに1回90分(上級レベルの全科目, 聴解B, 会話B, 漢字B)あるいは180分(文法・表現Ba, 文法・表現Bb, 文法・読解Ba, 文法・読解Bb, 文法B)の授業を15週行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級および中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語課外補講報告の7 授業評価を参照いただきたい。

## 6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、優(80点~100点), 良(70点~79点), 可(60点~69点), 不可(59点以下)で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。9月(留学期間が半年の学生については3月)に成績を記した履修証明書の発行を国際交流センター長名で行っている。

## 7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外

に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2016年7月27日（水）、28日（木）、29日（金）、8月2日（火）、3日（水）、調査対象：2015年度日本語・日本文化研修留学生（6人）、協定校からの交換留学生（9人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

<p>1. 総合日本語コース： 科目について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分だった。(6人)</li> <li>・他の大学で学んでいる日研究生にも話を聞いたが、富山大学のコースが一番良かったと思う。富山に来てよかった。</li> <li>・教養教育も含めて考えると、選択肢は十分だと思う。</li> <li>・十分だと思う。選択肢が多いと思う。</li> <li>・十分。国で勉強したとき、文法、読解、会話は一緒に不便だったが、ここは分かれていてわかりやすい。</li> <li>・もっとあったほうがいいと思う。たとえば、読解のクラスは2つあったけど、文法のクラスも2つあったほうがいいと思う。中級クラスは週4コマあったので、上級クラスも文法の授業がもっとあったほうがいいと思う。</li> <li>・文法はちょっと難しいと思う。中級はN3、上級はN1レベルなので、N2レベルの授業があったらいい。</li> <li>・通訳と翻訳の科目があったらいいと思う。</li> <li>・もっと会話の練習をする授業があったらいい。そうしたら、日本語を話す能力もアップすると思う。</li> <li>・十分満足した。留学生ともっと友達になれるように授業中に話す機会が増えるといいと思う。</li> </ul>
<p>2. 総合日本語コース： レベルについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうど良かった。(6人)</li> <li>・中級レベルと上級レベルそれぞれいいと思う。</li> <li>・いろいろなレベルがあって、自分に合うレベルの授業を選んだので、そんなに難しくもなく易しくもなかった。</li> <li>・日常生活にはちょうどいいが、N1試験のためにはちょっと易すぎるかもしれない。</li> <li>・読解、表現、文法はちょうど良かった。聴解と会話はちょっと簡単だった。</li> <li>・秋期に取った中級レベルの授業はちょっと低かった。学部の先生に勧められて取ったけど、低く感じた。</li> <li>・日本文化はちょっと難しかった。ビデオの内容とトピックと言葉が難しかった。それ以外の授業はちょうど良かった。</li> <li>・最初はちょっと難しいと思うけど、だんだん慣れるのでいいと思う。</li> <li>・レベルはちょうど良かったと思うが、最初は日本語に慣れていなかったで、めっちゃがんばらないといけなかった。9月から11月まで2か月ぐらい一日中ずっと日本語を聞くことが辛かったが、だんだん慣れてきた。</li> <li>・文法は難しかった。他の授業は大丈夫だった。中級レベルと上級レベルの難しさの差が大きいと思う。</li> </ul>
<p>3. 科目選択の際に 重視したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つは興味がある授業、もう一つは自分がちょっと弱いところをもっとアップしたいと考えて選んだ。</li> <li>・自分の苦手なところをもっと良くしたいと思って、ほとんどの授業を取った。</li> <li>・自分が一番弱いところを中心に選んだ。</li> <li>・自分の苦手なものを選んだ。</li> <li>・時間割を見て、日常生活の会話ができるように科目を選んだ。</li> <li>・私は話すことと聞くことがちょっと苦手だから、これらの授業を取った。</li> <li>・聞く力と話す力をつけたいと考えて、選んだ。</li> <li>・書くことは苦手だけど、興味を持っているから、文法と読解と漢字を取った。</li> <li>・何が役に立つか考えて選んだ。将来日本で仕事をしたいからそれを考えて選んだ。来る前に読解はちょっと苦手だったが、秋期に2つ読解の授業を選んで日本語力がアップした。日本語能力試験を受けたときもそれがわかった。</li> <li>・今期はN2を受けるため、読解の授業を2つ選んだ。表現技術はビジネス日本語の勉強になるので、敬語のレベルをアップしようと思って選んだ。</li> <li>・N1のテストの内容を復習できるような科目を選んだ。あとは、話す表現、書く表現をもっとうまくできるようになりたいと、選んだ。</li> <li>・N1試験の準備に役に立つ内容があるかどうかで選んだ。それから、おもしろいかどうかで選んだ。</li> <li>・内容で選んだ。自分のレベルに合っているかどうか。</li> <li>・時間割を見て、この授業がおもしろそうかどうかで選んだ。</li> <li>・シラバスを読んで、おもしろそうで役に立ちそうな授業を選んだ。</li> </ul>



<p>4. 自身の日本語力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 伸びたと思う。日本に来る前にN2を受けたけど、落ちた。今回、N2を受けて、合格できるかなと思ったので。</li> <li>• いろいろな力が伸びた。特に聞く能力が伸びたと思う。</li> <li>• 聞き取る力が上がったと思う。日本の先生の話し方はよくわかったので、それは良かったと思う。最初は授業で先生の話がわからなかったが、だんだんわかるようになった。最初は授業中、他の学生が笑っても自分はわからなくて、それはとても辛かった。今は一緒に笑える。</li> <li>• 話す力と聞く力が上がったと思う。</li> <li>• 伸びたと思う。特に話す力が伸びたと思う。全部日本語で話されなければならない状況はここに来るまでなかった。富山に来てからはいつも日本語を使うので、だんだん伸びてきた。みんなの前で話す力も伸びたと思う。修了レポートのプレゼンテーションもみんなからほめてもらえた。</li> <li>• 伸びたと思う。国ではもともと日本語を話すチャンスが少ないから話さなかったが、富山に来て話すチャンスがかなり増えて話すことが進歩した。</li> <li>• 伸びたと思う。特に話し方。国では日本語で話す機会は少ないので。</li> <li>• 伸びた。特に物の名前、食べ物、飲み物の名前などを新しく覚えた。</li> <li>• 国の大学には日本からの留学生が多いので、国にいたときから話すチャンスは多かった。日本に着いてから、漢字をだんだん読んで、読めるようになった。新聞も辞書がなくてもだいたいわかるようになった。これが一番うれしい。もちろん日本人と留学生の友達と日本語を話すチャンスは本当に良かったと思う。</li> <li>• アップした。特に読解の力が伸びた。レポートのためにたくさん本を読んで、レベルが上がった。</li> <li>• 文法の知識、漢字のも良くなった。日本語力はだいぶ上がっていると思う。日本語が自然に出てくるようになったし、文法とかも見たらぱっとわかるようになっていく。自分でもうれしい。</li> <li>• 上達したと思う。会話。そして、敬語の使い方。メールの書き方。これからアップしたいのは文法。N1の文法は難しかった。</li> <li>• アップしたと思うが。もう少し会話力をアップするために、日本人と交流すれば良かったと思う。でも、来たばかりのころ、日本人学生を誘ってもバイトをしていたりして、交流の機会が少なかったと思う。</li> <li>• 聴解はうまくなったと思うけど、話すのはまだ弱い。同じ国の学生と母語で話す機会も多くて、ふだんあまり練習しないから。</li> <li>• 日本語の他にも、日本とか日本社会についての知識が増えたと思う。今学期のほうが前の学期より話すのがちょっと苦手になってきた。語彙と単語の数は増えたと思うけど、話すときはちょっと大変になってきた。前みたいに自然ではない。どうしても母語で考えてしまう。家族が会いに来てくれたときに母語をずっと話したので、また母語で考えるようになってしまったと思う。そのとき家族のために翻訳、通訳したのが日本語を話す力のピークだったと思う。</li> </ul>
<p>5. 富山での留学生活について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽しかった。外国の留学生といろいろ交流して勉強になったと思う。ただ、食べ物は国の料理が食べたくなった。</li> <li>• 楽しかった。留学生の仲間たちと一緒にいろいろな活動、国際交流センターの行事があった。富山の天気はいつも雨が降るのがちょっと辛かった。</li> <li>• もちろん困ったこともあったけど、楽しかった。来たばかりのとき、携帯の契約をどうするか、寮にはネットもないし携帯もないしちょっと困った。日本人の友達を作ったことが楽しかった。あとは、旅行したことも楽しかった。</li> <li>• 不便なところはあるけれど、だいたいはいいと思う。富山は田舎だけど、富山には富山のいいところがある。たとえば、私はアニメーションが好きだから、富山は東京と比べるとアニメーション関係のものに触れるチャンスが少ないが、私は田舎の雰囲気が好きだから、良かった。以前東京にいるときは、人が多くて嫌な感じがしたけど、富山はちょうどいい感じだった。</li> <li>• 楽しかった。もともとは名古屋、大阪へ行きたくて、富山は自分で選んだのではなかった。富山に来たばかりのときは交通不便だし、不安だった。でも、住んでみると、自然もきれいだし、魚もおいしいし、お寿司が好きなので富山がいいところだと思えるようになった。先生たちのおかげで他の大学の日研生より修了レポートも早くできて良かった。先生が厳しく指導してくれて、それが良かったと思う。最初は富山は嫌だったけど、だんだん好きになった。また、富山はどこへも簡単に旅行に行けるから、とても良かった。学生生活も良かった。チューターもいつも手伝ってくれて、いろいろな国の友達もできて、生活費も東京、名古屋より安くて、住みやすい場所だとわかった。先生たちも優しく、名前も覚えてくれた。指導教員も優しく、何回もレポートを直してくれて丁寧に指導してくれた。富山に来て本当に良かったと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 都会より富山みたいな静かなところで、本当の日本はこういうところでわかると思うので、ここに来て良かったと思う。自分で料理を作ったり買い物したりするのに慣れてなくて最初は辛かったが、だんだん慣れてきた。</li> <li>• 母国でにぎやかなところに住んでいるので、富山のような静かなところに来たかった。東京、大阪には旅行で行けばいいので、富山に来て良かった。日本人の友達も他の国の留学生の友達もできた。</li> <li>• 良かったと思う。日常生活で日本語を使う機会がたくさんあった。もし関西、関東だったら、英語を話す人が富山より多いと思うので、それは日本語のいい勉強にならないと思った。ここに決めて良かった。不便なところがたまにあったけど、富山の人は優しい。</li> <li>• みんな優しい。いろいろな国から留学生がいて、楽しい生活をするのができた。一緒に旅行したり、国の文化についての情報を交換したりした。</li> <li>• 楽しかった。旅行もたくさんできた。特に日本人学生や留学生と交流できたことが楽しかった。文化についてもっと勉強できたと思う。</li> <li>• すごくうれしかった。各国の留学生と意見を交流して、一緒に遊んでとてもうれしかった。各国からの留学生の考え方がそれぞれ違うということはおもしろいと思う。</li> <li>• とても楽しかった。最初はちょっと辛かった。ホームシックがあったのと、国との時差が大きいので。でも、今のテクノロジーのおかげで両親と友達と相談できるので、大丈夫になった。富山大学のジムを使えて、運動ができて良かった。富山大学のサークルに参加して、それはとてもいい経験だった。サークルのおかげで、演奏の力も上がった。とても役に立つ練習だった。日本人の友達を作るのは難しかった。最初日本人のほうからだれも誘ってくれず、どうしてと思った。ギャップを感じたが、授業と一緒に活動した日本人学生と友達になった。自分のほうから誘ったら大丈夫だということもわかった。</li> <li>• 楽しかった。チューターがいることが良かった。ずっとそばにいてくれて、何かわからないことがあったら、すぐ相談にのってくれる。修了レポートもサポートしてくれた。指導教員はとても優しく、学生の立場でいろいろと考えてくれた。富山に来て良かった。</li> <li>• すばらしい。いろいろな体験した。たとえば、ここに来て初めて一人暮らしをして、自分で料理を作ったり家事をしたり生活費をどうするかを考えた。それから、いろいろなところへ旅行に行った。国ではあまり旅行のチャンスがなかったので、良かった。チューターはとても親切で、特に修了レポートを書くときにいろいろ手伝ってくれて、とても助けてくれた。一緒に遊びに行ったりもした。</li> <li>• 去年は寂しかった。4月からよくセンターに行った。友達もできたし、センターの人は本当に優しい。だんだん自分も変わっていったと思う。それから、楽しくなった。日本人の友達もできて、一緒にご飯を食べたりした。留学して良かった。</li> </ul>
--	--

まず、コースの開講科目数については十分だったという意見が多かったが、上級レベルの文法でN1レベルだけでなくN2レベルの授業を設けてほしいといった意見や会話練習をもっとほしいといった意見が複数あった。

次に、コースのレベルについては科目によって難易度が異なることや中級と上級レベルの差が大きいことを挙げる学生もいたが、全体的にはちょうど良かったという声が多かった。

科目選択の際に重視した点として、自分自身が苦手な点について力をつけようとして選んだという回答と日本語能力試験受験を考慮して選んだという回答が多かった。

自身の日本語能力については聞く、話す力を中心に力をつけたと感じている学生が多かった。語彙力の向上を挙げる学生も複数見られた。

最後に、富山の生活については留学生同士やチューターや日本人学生との交流、富山の静かな環境を評価する学生が多かったが、来日当初は寂しさや不安があったという学生たちもいた。

## 8 おわりに

総合日本語コースは、もともと日本語・日本文化研修留学生を対象として開設したプログラムであることから、上級レベルの科目のみ提供していたが、第11期(2014年10月～2015年9月)の日本語・日本文化研修留学生の中には、来日時の日本語力があまり高くなく、総合日本語コースの一部の科目につ

いては難易度が高すぎるため、日本語課外補講中級クラスの科目を受講しなければならない学生たちがいた。そこで、第12期(2015年10月～2016年9月)より中級レベルの科目も履修できるように整備した。秋期は8人(日本語・日本文化研修留学生5人, 交換留学生3人), 春期は1人(交換留学生1人)が上級レベルの科目に加えて中級レベルの科目を履修した。第11期生に対するインタビューでは例年と比べて、授業内容が「難しかった」という声が多く聞かれたが、第12期生からは「ちょうど良かった」という声が多く聞かれ、新たに中級レベルの科目を設置した効果によるものではないかと思われる。

今後もコース受講者の日本語力やニーズをアンケート調査やインタビュー調査を通じて詳細に把握しながら、より良いコースを提供できるよう努めたい。

# 日韓共同理工系学部留学生プログラム報告(2016年4月～2017年3月)

副島 健治

## 1 はじめに

1998年の日韓首脳会議における「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は、韓国で選抜された高校卒業生を留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。1999年に第一期生の募集が開始され10年間の第1次事業を経て、2009年の募集から新たな第2次事業が行われており、次の第3次事業が検討されている。富山大学はこれまでにこのプログラムに基づく留学生(以下、「日韓生」とする)をのべ9人受け入れた。

## 2 2016年度の本事業による富山大学への学生配置について

2016年度の富山大学への日韓生の新たな配置はなかった。

## 3 富山大学配置の在籍日韓生

富山大学としてこれまでに9人の日韓生を受け入れた実績はあるが、第一次事業第10期生2人(理学部1人、工学部1人)が2014年3月に卒業して以降、本学には日韓生はいなくなっている。また、上述のように本学への新たな配置もなかった。

## 4 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

本学における日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の受入れの準備と円滑な遂行のために「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」(以下、「日韓WG」とする。)が2001年4月に立ち上げられ、異動に伴うメンバーの交代を経ながら現在に至っている。2016年度のメンバーは倉光英樹(理学部教員、日韓WG座長)、柿崎充(理学部教員)、柴田啓司(工学部教員)、バハウ・サイモン・ピーター(国際交流センター教員)、副島健治(国際交流センター教員)、そして事務から国際部留学支援課の事務スタッフを加えて構成されている。

2016年度は、富山大学として日韓プログラム推進フェア(後述)に直接参加をしなかったため、日韓WGのメンバーが集合して活動をするには特になかったが、日韓共同理工系学部留学生事業協議会への参加および情報共有等のためのWGメンバーへのメールあるいは電話による連絡調整が行われた。

## 5 日韓共同理工系学部留学生事業協議会

本事業参加の国立大学の全国協議会が2016年度は下記の日時・場所で開催され、本学からはWGメンバーの柿崎充教員(理学部)と柴田啓司教員(工学部)が参加し、報告した。

日時：2016年6月24日(金) 13:00～17:00

場所：千葉大学けやき会館 レセプションホール

(情報交換会：17:10～18:30、会場：千葉大学けやき会館 レストラン「コルザ」)

## 6 日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

本事業の2016年度第2次第8期選抜の筆記試験合格者とその保護者および関係者を対象として、2016年9月4日(日)9:30～16:00に大韓民国国立国際教育院(韓国ソウル)において、日韓共同理工系学部留学生事業推進フェアが開催され、本学は、資料提出のみによる参加をした。

## 7 おわりに

本事業は1999年より当初10年計画で開始され、現在も第2次事業として継続されており、次の第3次事業も検討されているところである。日韓生を受け入れようとする日本の国立大学は、自大学が進学希望大学として日韓生候補者に選ばれるように努力しなければならない、しかもそのためにできることはそれほど多くはない。実際には、前述のフェアがその努力を傾注すべきほぼ唯一の機会となっている。そして日韓生候補生が進学を希望する日本の大学は、旧帝大などネームバリューのある大学に集中しがちで、実際には日韓生の配置はそのような大学に偏る傾向があるのが現状である。

諸般の事情から2016年度のフェアには、本学は直接の参加をしなかった。2011年度以降本学への配置がゼロという現実において、フェア参加にかかる費用の問題もあり、理学部と工学部の意向を踏まえそのような決断に至ったのであるが、今後の見通しは厳しいと言わざるを得ない。

# 日本語学習支援サイト RAICHO 報告 (2016年4月～2017年3月)

濱田 美和

## 1 日本語学習支援サイトRAICHOの概要

「日本語学習支援サイトRAICHO」(以下、「RAICHOサイト」, <http://raicho.ier.u-toyama.ac.jp>)は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、国際交流センターが運営しているサイトである。本サイトのねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点を置いている(ただし、サイト自体は学内外を問わず利用できる)。本稿では、RAICHOサイトの2016年度の整備状況について報告し、今後の課題を述べる。

## 2 2016年度RAICHOサイト整備状況

RAICHOサイトは2013年12月より外部サーバでの運用を始め、2016年度についても継続して同じ会社の外部サーバを利用した。RAICHOサイト運用上のトラブルは特になかったが、2016年12月に本学総合情報基盤センターより、RAICHOサイトと同じ会社の外部サーバを利用している他部局のホームページが改ざんされたとの連絡を受け、セキュリティ面での不安要素が見られるとのことだった。そこで、従来と同程度のレンタル料金で同様のサービスを受けられる他の会社を総合情報基盤センターに紹介してもらい、その会社の外部サーバで従来のコンテンツが稼働するかをテストした。その結果、従来のデータをそのままの形で新しい会社の外部サーバに移行させることは非常に困難であること、新しい会社のサーバを利用するにはプログラムを一から組み直す必要があり、それには多額の経費が必要となることから、他の会社へのデータの移行は難しいことがわかった。そこで、セキュリティ面を重視し、2016年度末の外部サーバのレンタル契約期間の終了にあわせて一旦RAICHOサイトの運用を停止することにした。

## 3 今後の課題

セキュリティおよび予算面から、外部サーバでのRAICHOサイトの運用はしばらく困難だと言える。RAICHOサイトは本学の留学生の日本語学習支援を第一の目的として運用しているが、広く一般に公開していることから、国内外の日本語学習者へのPR効果もある。国内外の学会等に出席した際に、RAICHOサイトを利用しているという声を聞くこともこれまで何度かあった。本学の留学生の日本語学習環境の整備および本学のPRのためにも、可能な範囲でRAICHOサイトの運用再開を目指したいと考えている。そのための方法の一つとして学内の外部公開用サーバの利用が挙げられる。この外部公開用サーバではMySQL(データベース)が利用できないためにこれまで外部のホスティングサービスを利用していたが、RAICHOサイトの一部のコンテンツのみの運用であれば外部公開用サーバの利用で対応できる可能性もある。まずはこの可能性を探っていきたいと考えている。

### 3. 国際交流センター関連行事等 (2016年4月～2017年3月)

#### 2016年

- 4月4日(月) 平成28年度新入留学生のためのオリエンテーション
- 4月5日(火) 2016年度前期日本語プログラム講師ミーティング
- 4月6日(水) 平成28年度学生支援オリエンテーション (各学部)  
春期総合日本語コース オリエンテーション
- 4月7日(木) 前期日本語課外補講 オリエンテーション  
第1回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 4月8日(金) 平成28年度学生支援オリエンテーション (医・薬学部)  
学部新入留学生のための時間割作成オリエンテーション
- 4月13日(水) 新規来日留学生 (非正規生) のためのオリエンテーション
- 4月18日(月) 平成28年度 第1回短期派遣留学プログラムWG
- 4月19日(火) 第1回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会及び第1回五福キャンパス部会
- 5月9日(月) 第1回センター教員懇談会
- 5月11日(月) 平成28年度チャールストンカレッジ英語研修プログラム参加者募集説明会
- 5月13日(金) スタディーエクスカージョン
- 5月18日(水) 第2回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会及び第2回五福キャンパス部会
- 5月23日(月) 第2回センター教員会議
- 5月30日(月) 第1回国際交流センター運営委員会短期留学生修了論集編集専門委員会
- 6月2日(火) 大学のグローバル化 情報交換セミナー (アルク教育社主催) 参加
- 6月10日(金) 平成28年度第1回交換留学プログラムWG
- 6月13日(月) 第2回センター教員懇談会  
平成28年度第2回短期派遣留学プログラムWG
- 6月14日(火)～6月15日(水) 第2回国際交流センター運営委員会短期留学生修了論集編集専門委員会 (メール会議)
- 6月15日(水) 第3回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 6月17日(金) 平成28年度第1回 TOEFL 等対策検討WG
- 6月22日(水) 平成28年度富山県留学生等交流推進会議総会・留学生との座談会
- 6月24日(金) 2016年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会
- 6月27日(月) 第3回センター教員会議
- 6月30日(木) 第1回富山大学国際交流センター運営委員会
- 7月1日(金) 平成28年度第2回 TOEFL 等対策検討WG
- 7月11日(月) センター教員懇談会
- 7月13日(水) スタディーエクスカージョン
- 7月21日(木) 平成28年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会 (杉谷)
- 7月25日(月) 第4回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会および第3回 同五福キャンパス部会  
第5回 センター教員会  
平成28年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会 (五福)
- 7月27日(水) 平成28年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会 (高岡)
- 7月28日(木) 平成28年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会 (杉谷)

- 8月3日(月) 平成28年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会(五福)
- 8月2日(火) 平成28年度第2回交換留学プログラムWG
- 9月4日(日) 2016年度日韓プログラム留学推進フェア(韓国ソウル)資料参加
- 9月26日(月) 第5回 センター教員会議
- 9月27日(火) 第2回富山大学国際交流センター運営委員会
- 10月3日(月) 2016年度後期日本語プログラム日本語プログラム講師ミーティング  
第3回センター教員懇談会
- 10月4日(火) 秋期総合日本語コース オリエンテーション  
平成28年度第3回短期派遣プログラムWG  
第2回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 10月5日(水) 後期日本語課外補講 オリエンテーション
- 10月6日(木) 第5回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 10月19日(水) 平成28年度新入留学生のためのオリエンテーション
- 10月24日(月) 第6回 センター教員会議
- 10月25日(火) 平成28年度第4回短期派遣留学プログラムWG(メール審議)
- 10月28日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第1回グローバル・カフェ
- 11月9日(水) スタディーエクスカッション
- 11月21日(金) 第7回 センター教員会議
- 12月12日(月) 第8回 センター教員会議
- 12月15日(木) 第6回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 12月16日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第2回グローバル・カフェ
- 12月19日(月) 第3回富山大学国際交流センター運営委員会
- 12月20日(火) 国際交流センター教員対象セミナー 「ライデン大学“短期交換留学生”のための日本語プログラムとヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)活用を考える」
- 12月21日(水) 国際交流センター主催 CEFRセミナー 「外国語教育におけるヨーロッパ言語共通参照枠の活用：欧州での事例から日本の大学での活用を考える」
- 12月21日(水)～12月27日(火) 第3回国際交流センター運営委員会短期留学生修了論集編集専門委員会(メール会議)

## 2017年

- 1月23日(月) 第9回 センター教員会議
- 1月27日(金) 人文学部・国際交流センター主催 第3回グローバル・カフェ
- 2月6日(月) 第7回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 2月19日(日) 国際交流センター主催 国際シンポジウム 「グローバル時代における外国語教育の未来を考える：動機づけと自律学習」
- 2月21日(火) 第10回 センター教員会議  
第3回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 2月28日(火) 第8回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 3月13日(月) 第9回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会(メール審議)
- 3月16日(月) 第11回 センター教員会議
- 3月29日(水) 第4回富山大学国際交流センター運営委員会  
第4回国際交流センター運営委員会短期留学生修了論集編集専門委員会



## 平成28年度外国人留学生と地域との交流状況

No.	行 事 名	期 日	主 催 団 体 名	参加人数 (留学生)
1	越中井波よいやさ祭りの神輿による町内巡幸	5月3日(火祝)	井波八幡神宮	7
2	「ルンビニ園児との田植え体験」	6月4日(土)	富山ライオンズクラブ	5
3	飛騨古川を訪ねよう	6月5日(日)	富山市民国際交流協会	10
4	料理交流会	7月1日(金)	富山市民国際交流協会	1
5	ゆかた着付け教室	7月31日(日)	富山市民国際交流協会	10
6	富山まつり おわら踊り	8月6日(土)	富山市民国際交流協会	12
7	第26回世界少年野球大会富山大会	8月17日(水)～ 25日(木)	一般財団法人世界少年野球推進財団 富山県	18
8	第28回 JAPAN TENT	8月18日(木)～ 24日(水)	JAPAN TENT 開催委員会 事務局	1
9	「ルンビニ園児との稲刈り体験」	9月25日(日)	富山ライオンズクラブ	3
10	民族民芸村で遊ぼう	10月16日(日)	富山市民国際交流協会	1
11	富山大学留学生との文化交流会	10月31日(月)及び 11月28日(月)	富山昭和ライオンズクラブ	10
12	国際交流フェスティバル (各国のブース担当、踊り、ゲーム)	11月13日(日)	国際交流フェスティバル2016 実行委員会	42
13	産業社会と人間「国際理解講座」	11月17日(木)	富山県立富山いずみ高等学校	2
14	料理交流会	12月6日(火)	富山市民国際交流協会	1
15	新春国際交流の集い2017	1月15日(日)	富山市民国際交流協会	12

## 4. 国際交流センター教員担当業務 (2016年度)

富山大学国際交流センターでは、2016年度において、センター長以下、副センター長2人、専任教員5人の教員体制で、次のような業務を行った。

### 【国際交流センター教員】

センター長 近藤 隆 (学長補佐, 医学部兼任)  
 副センター長 橋爪 和夫 (人間発達科学部兼任)  
 副センター長 副島 健治 (国際交流センター専任教員)  
 専任教員 副島 健治  
 バハウ サイモン ピーター  
 濱田 美和  
 田中 信之  
 小木曾 左枝子

### 【コースコーディネーター】

日本語研修コース 田中 信之, バハウ サイモン ピーター  
 日本語課外補講 小木曾 左枝子  
 日韓共同理工系学部留学生プログラム 副島 健治  
 総合日本語コース 濱田 美和

【授業担当】 補：日本語課外補講, 総：総合日本語コース, 教：教養教育

	前期	後期
副島 健治	補総中級「文法・読解B1b」(木曜1限) 補総中級「文法・読解B1b」(木曜2限) 教外国語科目「日本語A1」(金曜2限) 教コロキアム「留学のための教養講座」 (水曜3限)	補総中級「文法・読解B2b」(木曜1限) 補総中級「文法・読解B2b」(木曜2限) 教外国語科目「日本語A2」(金曜2限) 教コロキアム「留学のための教養講座」 (水曜3限) (人発)「国際交流活動論」(火曜4限)
バハウ サイモン ピーター	教教養科目「日本事情II」(木曜2限) 教コロキアム「留学のための教養講座」 (水曜3限)	補初級・中級「日本事情AB2」(水曜4限) 教教養科目「異文化理解」(木曜5限) 教コロキアム「留学のための教養講座」 (水曜3限) (人発)「国際交流活動論」(火曜4限)
濱田 美和	総補中級「漢字B1」(月曜3限) 補級「漢字B1」(水曜1限) 総補上級「表現技術C1」(月曜2限) 総補上級「文法C1」(火曜1限) 教外国語科目「日本語A1」(火曜3限)	総補中級「漢字B2」(月曜3限) 補中級「漢字B2」(火曜3限) 総補補上級「表現技術C2」(月曜2限) 総補上級「文法C2」(木曜2限) 教総合科目「日本事情I」(火曜5限)
田中 信之	補初級「文法A1」(火曜3限) 補初級「漢字A1」(木曜3限) 教外国語科目「日本語A1」(金曜2限)	補初級「文法A2」(火曜1限) 補初級「文法A2」(火曜2限) 補初級「コンピュータB2」(木曜4限) 補中級「作文B2」(金曜3限) 補外国語科目「日本語A2」(金曜2限)

小木曾 左枝子	④初級「漢字A1」(水曜3限) ④初級「会話A1」(金曜3限) ④⑤中級「文法B1」(金曜1限) ④⑤中級「文法B1」(金曜2限) ④外国語科目「日本語A1」(火曜3限)	④初級「漢字A2」(水曜3限) ④初級「会話A2」(金曜3限) ④中級「読解・語彙B2」(火曜4限) ④⑤中級「文法B2」(金曜1限) ④⑤中級「文法B2」(金曜2限) ④外国語科目「日本語B4」(火曜2限)
---------	---	---

留学生指導および留学準備にかかるコンサルテーション等】

	前期	後期
バハウ サイモン ピーター	コンサルテーション (火曜3限), (水曜4限), (木曜3限)	コンサルテーション (火曜3限), (水曜4限), (木曜3限)

【学内委員等】

国際戦略本部会議

大学改革推進本部国際交流部会

国際交流センター運営委員会

五福キャンパス教養教育実施専門委員会

五福キャンパス教養教育FD専門委員会

国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会

同 五福キャンパス部会

国際交流センター運営委員会海外留学支援専門委員会

短期留学生修了論集編集専門委員会

新教養教育カリキュラム等検討WG

教養教育総合科目「人生と職業」WG

日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG

日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討WG

環境安全推進員

平成28年度富山大学環境内部監査員

TOEFL等対策検討WG

交換留学WG

短期派遣留学プログラムWG

富山大学生生活協同組合理事会

【その他業務分担】

国際交流センター紀要

国際交流センターニュース

国際交流センターホームページ

近藤 隆 (副本部長)

近藤 隆 (副分科会長)

近藤 隆 (委員長)

橋爪 和夫

副島 健治

濱田 美和

バハウ サイモン ピーター

濱田 美和

田中 信之

副島 健治 (委員長)

副島 健治 (委員長)

橋爪 和夫 (委員長)

バハウ サイモン ピーター

濱田 美和

濱田 美和

濱田 美和

濱田 美和

副島 健治

バハウ サイモン ピーター

小木曾 左枝子

副島 健治

バハウ サイモン ピーター

小木曾 左枝子

副島 健治

バハウ サイモン ピーター

小木曾 左枝子

副島 健治

バハウ サイモン ピーター

小木曾 左枝子

バハウ サイモン ピーター (理事)

副島 健治

バハウ サイモン ピーター

副島 健治



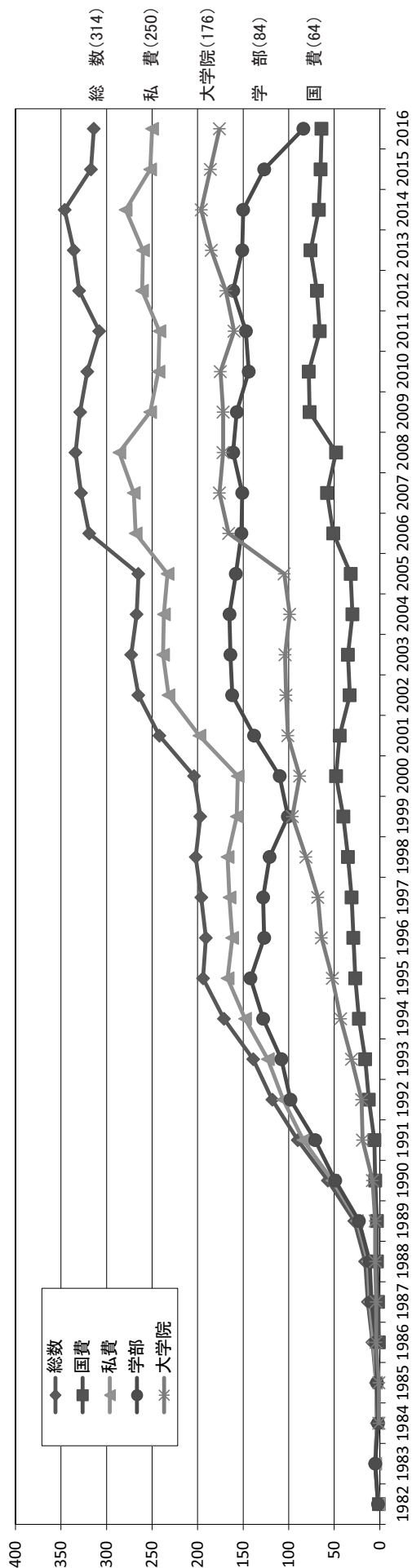
# Ⅲ 資料

- 1 富山大学における年度別外国人留学生数の推移
- 2 富山大学在籍外国人留学生数
- 3 富山大学国際交流センター規則
- 4 富山大学国際交流センター紀要投稿要項



資料 1

富山大学における年度別外国人留学生数の推移



	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数	2	5	3	4	8	13	16	28	57	90	118	139	171	194	191	196	202	197	204	242	265	273	267	265	319	328	334	329	321	308	330	336	346	317	314
国費	1				1	2	3	3	5	6	12	16	23	27	29	31	35	40	48	44	33	35	30	32	51	58	48	77	78	66	69	76	67	65	64
私費	1	5	3	4	7	11	13	25	52	84	106	123	148	167	162	165	167	157	156	198	232	238	237	233	268	270	286	252	243	242	261	260	279	252	250
学部	2	5	2	3	4	9	11	23	49	71	98	108	128	142	127	128	121	101	110	138	162	164	165	158	152	151	161	157	144	147	161	151	150	127	84
大学院			1	1	4	4	5	5	8	19	20	31	43	52	64	68	81	96	88	101	103	104	99	105	166	176	172	172	175	160	169	185	196	187	176
センター																			6	3		5	3	2	1	1	1	1	2	1				3	

(毎年5月1日現在)

※2005年10月に旧富山大学(現五福キャンパス)、富山医科薬科大学(現杉谷キャンパス)、高岡短期大学(現高岡キャンパス)の3大学が統合して現在の富山大学となった。  
2005年度までは旧富山大学のデータである。

※外国政府派遣と県費は国費に含まれた。センターは留学生センター(現国際交流センター)所属の予備教育生を示す。

資料 2

富山大学在籍外国人留学生数（2016年度）

1. 部局

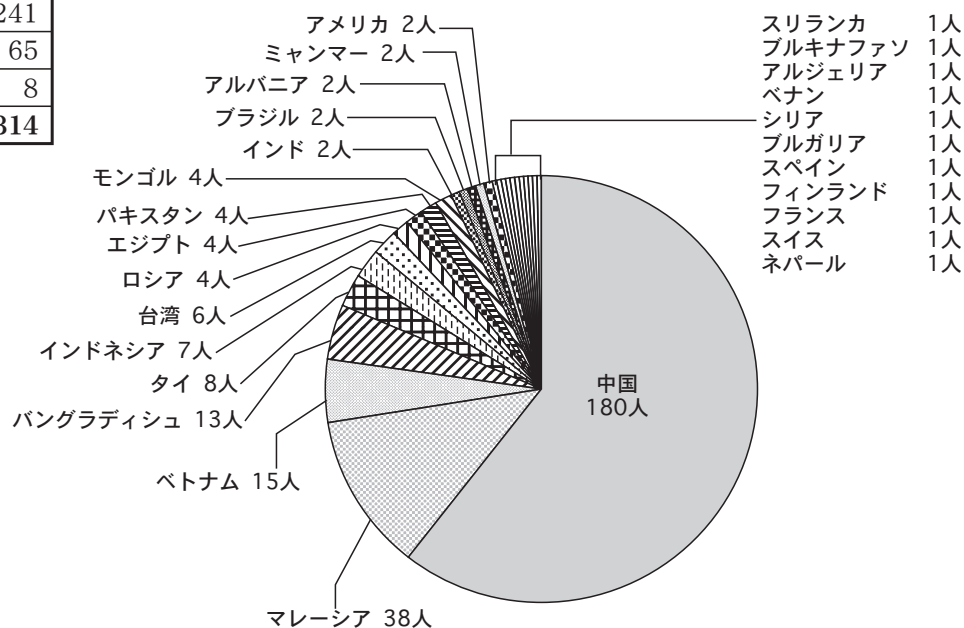
2016年 5月 1日現在

	正規生				非正規生				合計	
	国費	外国政府	私費	小計	国費	県費	私費	小計		
学部	人文学部			11	11	4	1	10	15	26
	人間発達科学部			5	5	2		2	4	9
	経済学部		2	4	6	1		8	9	15
	理学部			7	7			2	2	9
	医学部							1	1	1
	薬学部									0
	工学部		26	23	49			5	5	54
	芸術文化学部	2		4	6			1	1	7
小計	2	28	54	84	7	1	29	37	121	
大学院 (修士・前期)	人文科学研究科			7	7		1	1	2	9
	人間発達科学研究科	1			1	1			1	2
	経済学研究科			22	22			4	4	26
	医学薬学教育部	1		17	20			1	1	21
	理工学教育部(理学系)			6	6					6
	理工学教育部(工学系)		2	27	31			4	4	35
	芸術文化学研究科							1	1	1
小計	2	2	79	87	1	1	11	13	100	
大学院 (博士・後期)	医学薬学教育部	4		23	27					27
	生命融合科学教育部(五福)	2		3	5					5
	生命融合科学教育部(杉谷)	3		11	14					14
	理工学教育部(理学系)	2		3	5					5
	理工学教育部(工学系)	4	1	33	38			2	2	40
小計	15	1	73	89			2	2	91	
国際交流センター										0
和漢医薬学総合研究所							2	2	2	2
合計	19	31	206	260	8	2	44	54	314	

2. キャンパス別

五福キャンパス	241
杉谷キャンパス	65
高岡キャンパス	8
合計	314

3. 国・地域別（計28ヶ国・地域）





## 富山大学国際交流センター規則

平成25年 9月24日制定

平成26年 6月24日改正

平成27年 4月 1日改正

平成28年 1月 1日改正

平成28年 4月 1日改正

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人富山大学学則第12条第2項の規定に基づき、富山大学国際交流センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、富山大学（以下「本学」という。）の外国人留学生の受入れ及び学生の海外留学に関わる教育・支援を推進し、国際社会で活躍する人材の育成に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 外国人留学生の受入・支援に関すること。
- (2) 学生の海外留学の支援に関すること。
- (3) 海外学術交流協定校との学生交流に関する連絡・調整
- (4) 外国人留学生と日本人学生の交流推進に関すること。
- (5) 外国人留学生の日本語教育に関すること。
- (6) 外国人留学生のキャリア支援及び就職支援に関すること。
- (7) 卒業・修了後の外国人留学生との連携・支援に関すること。
- (8) 国際交流に関する調査及び研究
- (9) その他センターの目的達成に必要な事項

(部門及び専門部会)

第4条 前条の業務を遂行するため、センターに次に掲げる部門を置く。

- (1) 留学受入支援部門
- (2) 留学派遣支援部門

2 前条の業務のうち特定の業務を遂行するため、センターに専門部会を置くことができる。

(職員)

第5条 センターに次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) 協力教員
- (6) その他必要な職員

(センター長)

第6条 センター長は、学長が指名した者をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、当該センター長を指名する学長の任期の末日を超えることができない。

(副センター長)

第7条 副センター長は、センター長の推薦に基づき、学長が命ずる。

- 2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故あるときはその職務を代行する。
- 3 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、当該副センター長を推薦するセンター長の任期の末日を超えることができない。
- 4 副センター長に欠員が生じた場合、後任の副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。  
(専任教員)

第8条 専任教員は、センターの業務に従事する。

- 2 専任教員の選考については、別に定める。  
(兼任教員)

第9条 兼任教員は、所属長及び本人の承諾を得て、学長が命ずる。

- 2 兼任教員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 兼任教員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。  
(協力教員)

第10条 協力教員は、所属長が推薦し、本人の承諾を得て、センター長が指名する。

- 2 協力教員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 協力教員は、センターの業務を助ける。  
(運営委員会)

第11条 センターに、センターの管理運営に関する事項を審議するため、富山大学国際交流センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。  
(日本語・日本事情教育プログラム)

第12条 センターは、外国人留学生の予備教育等に必要な日本語・日本事情教育プログラムの実施及び運営を行う。

- 2 日本語・日本事情教育プログラムに関し必要な事項は、別に定める。  
(事務)

第13条 センターの事務は、国際部留学支援課において処理する。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経てセンター長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成25年10月1日から施行する。
- 2 富山大学留学生センター規則（平成17年10月1日制定）は、廃止する。
- 3 この規則施行後、最初に指名されるセンター長の任期は、第6条第3項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。
- 4 この規則施行後、最初に指名される副センター長の任期は、第7条第3項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成26年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

## 富山大学国際交流センター紀要投稿要項

## 1 目的

富山大学国際交流センター（以下「センター」という。）は、日本語・日本事情教育，異文化教育，留学生教育，国際交流等にかかる理論的・実践的研究に関する論文，研究資料等を発表するため，富山大学国際交流センター紀要（以下「センター紀要」という。）を発行する。

## 2 執筆者の資格

- (1) センターの専任教員及び非常勤講師，各学部の留学生担当教員とする。
- (2) 編集委員会が特に認めた者
- (3) (1)(2)の者が筆頭著者となっている共著者については，制限しない。

## 3 原稿の内容

- (1) 投稿原稿は，未発表のものとする。
- (2) 原稿の種目は，論文，研究ノート（特定の主題に対する研究上及び教育上の提言，史・資料の紹介及び考察，又は萌芽的研究を記したものを指す。），研究資料（実践記録・調査結果，既成の知見の確認等研究上報告する価値のあるものを指す。），実践・調査報告，書評のいずれかとする。

## 4 原稿の長さ

原稿の長さは，1篇につき，図・表・写真等を含め，原則として刷り上がり20ページ以内とする。

## 5 原稿の体裁

富山大学国際交流センター紀要執筆要領（以下「執筆要領」という。）に従って，記述する。

## 6 編集委員会

センター紀要編集のため，センター長を委員長とした編集委員会を置く。

## 7 投稿手続き

- (1) 投稿カードに所定の事項を記入のうえ，原稿とともにセンター長に提出し，原稿受領書を受け取る。
- (2) 提出された年月日をもって，受付年月日とする。
- (3) 原稿提出締切日は，別途定める。

## 8 原稿の採否

論文等の採否は，本要項及び執筆要領に基づいて，編集委員会が決定する。

## 9 発行回数

原則として，年1回とする。

## 10 その他

- (1) 別刷は，1篇につき30部以内とする。30部を超える場合は，実費負担とする。
- (2) 掲載された論文等の二次利用は，編集委員会に委ねるものとする。ただし，著者は自由に利用できるものとする。

## 付記

本要項の実施は，センター紀要第1号の執筆時から適用する。

---

## 執筆者一覧

---

小木曾 左枝子	富山大学国際交流センター准教授
副島 健治	富山大学国際交流センター教授
田中 信之	富山大学国際交流センター准教授
バハウ サイモン ピーター	富山大学国際交流センター教授
濱田 美和	富山大学国際交流センター教授

---

### 富山大学国際交流センター紀要 第4号

---

発行年月 / 2017年12月

編集・発行 / 国立大学法人 富山大学 国際交流センター

〒930-8555 富山県富山市五福3190

印刷所 / 中央印刷㈱



# Journal of Center for International Education and Research University of Toyama



## Contents

### I Research Papers

TANAKA Nobuyuki Analysis of Reflection Activities in Academic Writing Class for Learners of Japanese .....	1
HAMADA Miwa International Undergraduate Student Difficulties with Japanese Vocabulary and Grammar in Written Lecture Reflections .....	13
SOEJIMA Kenji "Japanese Language" rediscovery and learning by Japanese students : As an approach toward the global mindset formation .....	21

### II Annual Reports (April 2016 – March 2017)

1. Advisory, Acceptance and Study Abroad Support .....	31
2. Japanese Language Program .....	38
Intensive Japanese Program .....	39
Extra-curricular Japanese Language Program .....	40
General Japanese Language Course .....	61
Japan-Korea Cooperative Program for Science and Engineering Students .....	68
Japanese Language Support Site RAICHO .....	70
3. Schedules .....	71
4. List of Staff and the Responsibility of CIER .....	74

### III Data .....

Center for International Education and Research (CIER)  
University of Toyama 3190 Gofuku, Toyama 930-8555 JAPAN